

319

319-464



1200501375612



始



聯合國軍事補給會議編纂
米國政府印刷局出版

歐洲戰に於ける
聯合軍
軍需補給の實績

高屋三郎譯



319-464

歐洲戰に於ける 聯合軍 軍需補給の實績

目次

譯者序言	1
原序	1
同	聯合國軍事補給會議米軍代表 Davies 准少將..... 三
同	米軍參謀部 Hodges 大佐..... 七
同	聯合國軍事補給會議々長佛軍後方部長 Fayot 少將..... 九
一九一八年十月三十一日に於ける聯合各國軍の狀況		
第一表	各國軍の將校・軍隊・勞務者・俘虜等の數	
第二表	各國軍兵力	
第三表	各國軍自動車數	
第四表	各國軍の鐵道機關車・客車及貨車數	
第五表	各國軍の運轉中及修繕並構築せる鐵道線の延長	

目次

第六表 各國軍の使用可能糧食延日數等 二

第七表 各國軍の使用可能馬糧の數量 二

第八表 各國軍の軍用獸表 二

第九表 各國軍の飛行機及氣球數 二

第十表 各國軍の病院・衛生部員・患者輸送車數 二

第十一表 各國軍の入院患者數 二

第十二表 各國軍の銃砲及戰車數 二

第十三表 各國軍の保有彈藥數 二

第一章 聯合國軍事補給會議の成立及其の業務經過の概要 一七

第二章 補給に關する用語に就て 一六

第一節 補給及輸送勤務 一六

第二節 各國に於ける用語 一九

第三節 佛軍に於ける特殊語 三

第三章 補給制度の概要 四

第一節 各國の中央補給機關 四

第二節 集積及貯藏機關 七

第三節 補給品の性質上の區分 三九

第四節 補給品の所在位置 三九

第五節 倉庫の位置 四三

第四章 補給機關としての各國陸軍省の編制 四四

第五章 各國政府間・各省間及政府と總司令部との關係 四四

第一節 國際諸機關 四四

第二節 糧食統制機關 四九

第三節 海運統制機關 五七

第四節 購買・生産・糧食供給及輸送に關する機關 六四

第五節 各國政府と出征軍との關係 六七

第六章 各國野戰軍總司令部に於ける補給業務統轄機關 六九

第七章 各國軍の補給業務 七三

第一節 英軍の補給業務 七三

第二節 白國軍の補給業務 八六

第三節 米軍の補給業務 九一

其の一 上陸及其の後の處置 九一

其の二 戦闘間に於ける補給 101

其の三 戦略的補給 111

其の四 佛國內に於ける米軍の地位 111

其の五 前進倉庫 114

其の六 上陸當初の補給一般の要領 114

其の七 根據地倉庫 116

其の八 補給機關の運用 118

第四節 佛軍の補給業務 117

第五節 伊軍の補給業務 119

其の一 補給に關する戦前の規定及参戦初期の補給組織 119

其の二 各勤務の戦役間に於ける變遷 127

其の三 總司令部・總經理部及陸軍省間の關係 121

其の四 戦役間創設したる中央官省 123

其の五 輸送業務 123

其の六 自動車・航空機及戦車用材料の補給 126

其の七 建築業務 126

第八章 補給上の地區々分 127

第九章 補給品の中央調達機關 130

第十章 兵器及彈藥の補給 131

第一節 兵器々材の補給 131

第二節 彈藥の補給 134

第十一章 糧秣の補給 137

第十二章 工兵材料の補給 140

第十三章 醫務及衛生材料 143

第十四章 規整停車場 145

第十五章 輸送 146

第一節 輸送勤務の種別 148

第二節 輸送勤務統轄機關 153

第三節 輕便鐵道 154

第四節 自動車輸送 159

第五節 交通統制 164

第十六章 航空勤務 166

第十七章 戰車……………一八九

第十八章 通信勤務……………一八〇

第十九章 建築勤務……………一八五

第二十章 林務……………一八六

第二十一章 軍馬補充及獸醫勤務……………一九一

第二十二章 給水勤務……………一九一

第二十三章 道路勤務……………一九三

第二十四章 資源利用勤務……………一九四

第二十五章 水路輸送勤務……………一九六

第二十六章 電力勤務……………一九八

第二十七章 郵便勤務……………二〇〇

第二十八章 港灣勤務……………二〇一

第二十九章 聯合國軍事補給會議……………二〇三

 第一節 聯合國軍事補給會議の組織……………二〇三

 第二節 補給品集積設備……………二〇四

 第三節 木材……………二〇七

第四節 彈藥の統一運用……………二一九

第五節 自動車輸送……………二二一

第六節 糧秣補給……………二二五

第七節 揮發油の補給……………二二七

第八節 輕便鐵道……………二三三

第九節 電話及電信……………二三八

第十節 凍肉……………二四二

第十一節 鐵道規整係將校……………二四二

第十二節 休戦時より一九一九年十月二十九日に至る會議の活動……………二四五

第十三節 各國軍の現況に關する調査……………二四五

第十四節 過剩軍需品の交換使用……………二四九

第十五節 恢復地方住民の給養……………二四九

第十六節 兵營……………二五〇

第十七節 彈藥……………二五〇

第十八節 後方地帯に於ける電話及電信……………二五一

第二十九章 附錄……………二五三

第一 在佛聯合各國軍の馬糧補給に關する報告……………三三

第二 補給品輸送力に關する調査委員報告……………六一

附表

A 表 各國軍の人十萬・馬二萬五千に對する所要輸送力

B 表 各國軍の糧食及馬糧給與日量

C 表 各國軍の主要食品給與日量

D 表 各國軍の主要食品輸送用十噸貨車所要數

E 表 英軍の糧秣其の他の補給に關する諸表

(一)糧秣及彈藥の輸送に關する諸數字

(二)各種材料輸送數

(三)人十萬・馬二萬五千に對する毎日所要の輸送力概數

(四)佛・白兩國内所在英軍總司令官隷下部隊人馬に對する毎日の輸送所要糧秣數量

(五)英軍糧秣給與日量

F 表 佛軍糧秣給與日量

G 表 白國軍の糧秣補給關係諸表

(一)兵力分布の概要

(二)白國軍糧秣給與日量

(三)糧秣給與の基礎的要項

H 表 在佛伊軍の糧秣補給關係諸表

(一)在佛伊軍糧秣給與日量

(二)在佛伊軍糧秣補給の基礎的要項

I 表 米軍の糧秣其の他の補給に關する諸表

(一)米軍糧秣給與日量 (其の一)

(二)同 (其の二)

(三)同 (其の三)

(四)米軍各種材料輸送所要量

(五)米第一軍の最大激戰五日間に於ける發射彈數

譯者附言

譯者序言

本書は歐洲戰に於て、聯合軍總司令官 Foch 元帥の下に、佛國領土に於て獨軍に對し作戰せし英・米・佛・伊及白各國軍の軍需補給に關する狀況を述べたるもので、原著は關係各國軍當局の調査を輯録せし聯合國軍事補給會議の報告書の第一卷である。

大戰開始後、聯合各國軍は個々に其の作戰を指導し、各國軍間何等之を統一するの機關無かりしも、爾後數次の變遷を経て佛・白戰場に於ては佛國元帥 Foch を聯合軍總司令官とし又各國代表より成る最高軍事會議を設けて、作戰全般の統一指導に任せしめた。一面軍隊に對する資材補給に關しても、初めは各國軍間の統一機關を缺き、爲に補給業務其のもの不利不便を漸増し、延て作戰の效果に甚大なる影響を及ぼすに至つたから、戰役の後期に於て、米軍の有名なる *Davis* 准少將註、戰後所謂 D-1 の發案者なりの發議に依り、聯合國軍事補給會議なるものを組織し、各國軍の補給業務の統制指導に任せしめ、遂に勝利の榮冠を聯合軍の頭上に輝かしむるの因をなしたのである。補給會議の組織及其の任務遂行の經過は本文中に詳述するを以て茲に之を省略する。本書は原序文中に掲ぐる *Davis* 將軍の言ふが如く、軍事研究者は固より、國防に關する國家政策を論ずる士の絶好の參考資料なるを認め、敢て之を江湖に紹介することとした。

過去大戰に於ける軍需補給の量に於て莫大なりしことは周知の事實なるも、其の具體的數字を示し、之が補給、就中消費場たる作戰地に於ける補給を總括的に知るの資を缺いでゐた。然るに本書は特に將來の爲、各國の權威者に依

り編纂せられたるもので、大戦に於ける聯合各國軍需補給の推移を知るには、譯者の寡聞なる未だ此の右に出づるものを見ない。

國家總動員を論ずる者、近時漸く多きも、總動員を必要とする根源を明かにするにあらざれば、眞に其の意義を了解することは不可能である。換言すれば甚大なる軍需を充たさんが爲には、所謂國家總動員の計畫準備及實施を必要とするものにして、總動員を論ぜんとする者は、須らく軍需消費の現況及其の補給の方法を究めなければならぬ。其の意味に於ても本書の價值は蓋し尠からざるものあるを信ずる。

因に本書中、人名及地名等は各原字の儘記し、唯巴里又は倫敦の如き周知の慣用文字は之を邦字にて表はせるものもある。又官廳名若は職名等は其の譯語と共に括弧内に原名を掲げて置いた。尙章節の区分は一二原書記載の順序に拘泥せず適宜編合したるものもある。本書の術語に對する譯語は或は適當を缺くものがあると思ふ、敢て大方の叱正を乞ふ。

昭和二年二月上旬

譯者誌す

序言

(米國准少將 Charles G. Dawes 記)

本書の如きは、戦争に關する文献中眞に前古無比のものである。第一卷に輯録する記録及統計は、佛・英・米・伊・白各國軍代表が特に公認せるもので、佛白方面戰場にて作戦せる Foch 元帥隷下の聯合各國軍の一大公表書である、斯の如き文献を編纂するには、至大の困難を伴ふは固より、聯合各國の合意に依り成立せる聯合國軍事補給會議の幹部に與へられた権限の存する有つて始めて能く之を爲すを得るのである。戦役は既に終了し、戦時局に當りし者の多くは復員せし後に於て、茲に單に軍事學及歴史に貢獻する所あらんが爲、各國軍の命令を以て資料蒐集に努力せしむるが如き、又特に或る一國軍の行動を、他の各國軍の行動と協調せしめ、之を四個年間繼續せしが如きは眞に未曾有のことで、大戦の生みし幾多の前古無比の事項中の一に算ふべきものである。然るに今や戦役終了後、稍多くの星霜を経過したる爲、無上の價值ある補給會議報告書を、前の會議員全部に依り改修するは遺憾ながら不可能となつた。但し本書に輯録する資料たる諸報告は、公的のもので且つ聯合軍を一體とせず、之を構成する各國軍に關する事項をも之を記述した。元來補給會議は此等個々の各國軍に對しても、形式的に之を取扱ふことを爲さず、又其の記事を省減し、又は單に之を整理するに留めんことを期したるものではない。故に本書の内容は現在及將來に於て常に戦争研究者に取り無上の價值あるものである。而かも若し戦後各國官憲に依り之を輯録せられざりしとせば、永久に消失の悲運に遭遇したるものであらう。

戦時中、聯合各國が相互協商に依り、軍事官憲若は中央官憲間に協定したるもの以外に、更に補給方面に於て相互

了解の下に聯合各國間に協同動作を確保した困難は實に甚大であつた。

各異なれる指揮權の下にある軍隊の協調を、連絡若は相互協議に依り、一定の状況に必要な方針又は行動を採る如くするは極めて肝要の事である。然るに此の點に於て大戦中作戦上常に缺くる所があつた。蓋し將來に於ても其の完全を期し難きものであらう。聯合各國軍は「Joffre」元帥統率の下に置かるゝに至るまで此の不利の状況の内に在つた。後來軍事研究家にして、過古大戦の歴史が完成せし曉に於て、此の状況を回顧せば、各國が軍の統帥を個々獨立に指導せし期間に、軍事的效果を損失せしことの極めて大なるを能く了解するに至るであらう。各國間の軍事的協調は、人性固有の誇負及妬心あるが爲實行困難なるも、大事變に遭遇し、且つ眞の自衛的本性に顧み、始めて能く該協調を保つを得るに至るものである。

聯合各國軍の補給に關し一中央統制機關を設けて之を管理せんとする提案の如き、各國共、主義に於ては、何れも異議を挟むの餘地なかりしも、其の實施に關しては、採否を容易に決心するを得なかつた。

人類の固性及傳統的慣習の爲か、或は補給及輸送に關する協調が戰勝に密接なる關係あることを明瞭に了解することが十分でなかつた爲か、或は又其の理由が介在せるか、何れにしても、かの至高の理由に基き、最大の各國が全力を賭して努力した世界の最も大なる戰爭に於て、殆んど野戦軍の後方に、各國軍間の適當なる協調を見ることがなくして経過したのである。實に戰役間、各國相互の商議に依り此等協調の實現せしものもないでもなかつたが、未だ所期のものと認むるを得ない。若し夙に茲に着意せば戰爭初期より野戦軍の前後兩地域に亘り中央統制の實を擧げ、以て軍事的效果の絶大なる削減濫費を防止するを得たであらう。

固より戰役の初期より、補給・建築及輸送に關し各國軍當該各勤務部長間の會合あり。又此等に關する一般の方針協定の爲には各國軍の高級代表の會議を催せしことなきにあらざるも、何れも一時的のものであつた。若し此等會合にして連續的に之を開催し其の任務を繼續せしめたりとせば、一層好果を收め得たであらう。而かも事、茲に出でざりしを以て、各國軍の代表若は關係部長等商議の結果も、常に變動する周圍の事情の爲、之を變更するを得た結果、一定の方針に向つて邁進せしむることが出来なかつた。

右の状況を醫する爲、各國政府に對し、Pershing 將軍は一提議をなし、其の結果、先づ實施可能のものとして、聯合國軍事補給會議の設立を見るに至つた。右提議は、實に各國軍の協調を必須とする危急に瀕せる場合に於て發せられ、實に史上前古未曾有の事である。而して之が發議は米國政府の承認を経て米軍に於てし、英佛兩國の首相は、直ちに主義に於て讚意を表し、尙其の實行に當り英佛の閣員及高等行政官は Pershing 將軍の代表者と會商せしが如きは、其の成果を收むる上に、最も貢獻せしものと認めざるを得ない。特に當時、四圍の状況は聯合軍に取り危急存亡の秋であつたから、聯合國軍事補給會議は、其の編制及業務運用に於て、最善と認むる所を採用し、以て現代文化の力を以て達し得る限りを盡して、各國軍の軍事補給の協調に努力したのである。而かも同會議は此の如き協調に依り各國の獨立權及軍權を阻害するが如き重大なる結果を來すことなく、相互任意の協商に依り其の目的を達成せんことを期した。之が爲、野戦軍の後方に於ける共通的状況を各國軍相互に通報し、其の概要を互に知悉せしめ、以て各獨立の地位にある各機關をして誤解を一掃せしめ、且つ協調可能なるものは之に向つて努力せしむるの方法を採り、又之が爲には軍命令を通じて直ちに其の實行を確實にするの手段を採つた。

聯合國軍事補給會議創設の發案當時より、同會議解散に至る迄の諸文献及報告、並同會議の主旨に關する論議及野戰軍の後方に於て同會議の達成したる效果は、軍事科學者・政治及國際政策の研究者に對し、永久に常に重要なものたることは、同會議に於ける米軍代表たる余の信じて疑はざる所である。

聯合國軍事補給會議 米軍代表

豫備將校團 准少將 Charles G. Dawes

序言

〔米軍參謀部 Harry I. Lodge 大佐記〕

聯合國軍事補給會議は、一九一八年十一月二十一日の會合席上、Lieke 將軍の勳議に依り、將來の研究及參考資料として、同年十月三十一日現在の佛白戰場に於ける聯合各國軍の狀況を、正確に且つ統一して叙述せるものを編纂することとし、尙同時に會議の編制、業務及議決事項の歴史的記録及各國軍補給制度の比較研究を併せ輯録することを決議したのである。

會議を構成する者〔譯者曰、原書には人名・任は、佛・英・米・伊・白の五國軍の代表と之に附屬する各國軍の若干幕僚とにして佛國代表 Harot 大佐〔後少將〕を滿場一致を以て議長に推舉した。會議は米國出征軍總司令官の推獎に依り、之が編成をなすに至りたるものなるが、同司令官が此の如き推獎を取てせし所以は、第一線に於ける統一指揮の必要を認めし如く、野戰軍の後方に於ける補給に對する指揮統一の必要を痛感したるに因るものである。會議は其の成立後、戰役間、常に聯合軍總司令官 Ford 元帥の幕僚と連絡し、各國軍の補給及輸送に關する統一機關として終始した。〕

本書輯録する所の出所は、戰役間其局に當りし將校の自ら記述せるもので、蓋し此の種の筆者として最上の資格を具有するものである。

古來戰役の補給問題に關する狀況は、容易に之を知るを得ず、又世界大戰は事實上、參加國家の全資源を擧げて動員するに至りしものにして、其の給養人員の多數なりしと消費資材の莫大なりしとは、實に交戰各國の總ての資源を

利用する必要を生じたるものにして、真に前古未曾有のことである。

開戦以來、各國軍は補給實施上、各自特有の方法に依り、而かも戦局の進轉に伴ひて幾多の變更をなした。本書研究する所は、此等各國軍の補給制度、特に休戦時に於ける其の狀況を示すに在る。

第一巻を編纂するに當つて、編纂委員は其の記述の範圍を、世界戰爭中實行せし補給及輸送に關する主義を掲ぐるに止むることを期したのである。〔譯者曰く、以下本序文には各國軍の本書編纂委員・會合場所等九記せるも省略す〕

序言

〔聯合國軍事補給會議々々長、佛軍交通及補給部長 Charles J.M. Fayol 少將記〕

作戦行動の研究は、古來軍事科學中の最も興味ある部分たりしも、作戦のみが軍事科學の全體を構成するものにあらず、今日に於ては往年に比し作戦其のものは、最後の決勝要素たるの性質を有するものにあらざることを一層明かに之を示した。由來戦史なるものは戦略上の見地より、特に人々の想像に訴へ、大會戰又は大行動を描きて、將帥の天才を示し、彼我兩軍人命の損失を述べて之を後世に傳へたものである。

右の外、戰爭原因の研究も、歴史の興味ある部分とせられ、幾多の事歴を遺すも、要するに戰爭の原因なるものは殆んど常に利害の衝突に在りと云ふを最も妥當とする。又經濟問題が戰爭を挑發することの事實なると共に、一面に於て列國中經濟的資源を保有するものは、敢て戰爭を惹起し、遂に此の國をして其の成果を收めしむることも眞と云ひ得る。

然るに今日に至るまで、交戦者の資源が極めて重要な地位を占むるものなることを歴史は閑却した。但し茲に所謂資源とは、戦闘軍隊に對する資材若し補給品なる名稱を以て呼ぶものを謂ふのである。

抑も軍隊の維持と稱する業務は、戰爭遂行に必要な總ての資源〔人員・糧秣・彈藥・諸材料其の他の蒐集〕、此等の戦場迄の輸送〔鐵道及其他の交通手段、輸送に従事する人員及運行〕及分配を包含する。

最近大戰中、補給勤務を良好に編組し、之を良好に指揮するは、實に人命の損失を省減し得る所以なることを明示した。即ち軍隊に對し常道的給養を實施し、且つ其の移動が圓滑なる輸送に依り行はるる時は、何等障礙なく、行動

し得るものにして、斯の如き軍隊にして始めて、常に高等統帥の意圖を遂行し、適時適處に所要の優勢を持し、以て遂に敵を打破し得るのである。

然るに、此の困難なる補給及輸送の計畫・組織及管理の任に當る者は極めて重要なる任務を演ずるものなるも、之を戰闘員の赫々たる奮闘が人の想像力に訴へ、感奮せしむるに比らば到底局外者をして其の眞價を認めしむることには難い。一九一四年乃至一九一八年の大戦は、過去の戦役に比し、軍の輸送及補給を確保するの任に當りしものをして、一層多大の困難に遭遇せしめた。大戦中此等の勤務に當りし者が、驚嘆すべき偉效を奏し、以て聯合各國軍をして光輝ある戦果を収めしめたと共に、之が反面に獨軍に於ける此等諸勤務の組織が適當ならざりしことが、其の最後の屈辱を招きし一因なることは、戦後の今日之を明言し得る。

故に彼我兩軍相對する時、輸送組織及補給制度の圓滑なる運用は、近世戦争の常とする廣汎なる戦場の某地點に、速に其の所要兵力を集中するを得しめ、爲に常に優勝の地位を保持し、又斯く限定せる地域に集團せる軍隊に、各種補給を確保するを得るのである。又斯の如き國軍は、最も周到なる用意を以てし、且つ最も猛烈なる敵の攻撃をも能く制壓し得る。現に一九一六年 Verdun に於ける佛軍、一九一八年西方戰場に於ける聯合各國軍及一九一八年六月 Pave 河畔の伊軍の如き皆之が實證を示すものに外ならぬ。尙一面に於て斯くして攻勢に轉ずるに十分なる兵力を有するものは、其の敵をして到底、我が攻撃に打勝つを得ざらしむものにして、かの一九一八年第二期戦に於ける獨軍の狀況を見ても之を知ることが出来る。大奈翁は、軍隊の維持及運動性を以て、最緊要事とし、交通及補給の組織に關する方法は自ら之を計畫した。奈翁の此の方面に於ける努力の結果は、殆んど歐洲全土に亘り兵站網を設け、而か

も要所には防護手段を講ぜしのみならず、多くの場合之を要塞とした。故に戰場に向ふ軍隊は、此等兵站線上にて休養し、又所々大倉庫の設備ありしを以て補給品は此處に保管せられて、必要に應じ戰闘正面に前送し得た。かの西班牙及露西亞に對する戦役にては、該施設を缺きしを以て、四圍の狀況は、其の軍隊を養ふを得ず、其の結果二大敗戦に遭ひ、遂に其の没落を招くに至つたのである。

其の後、米國の一八六一年乃至一八六五年戦役にては、補給上の缺陷が南部聯邦軍敗北の主因の一に數ふべきことを明かにした。

一九一四年の大戦勃發前に於ける佛獨兩國の如き、戦争準備に關しては所要の處置を講じ輸送業務に對しても、極めて之を重要視して、決して閑却せしにあらざりしも、實際企畫せし準備は、決して近世的戦争に必要なことを後に明かにしたる如き、莫大なる資材を豫想せしものではなかつた。現に開戦當初の五ヶ月間に於てすら、各國共補給品の供給は戰闘參加部隊の用を充すに足らず、急遽全力を擧げて各種軍用資材の生産の爲、極度に努力せざるを得なかつたのである。

斯の如き事實に鑑みるも、一大戦役に際して要する資源蒐集は、當該國政府及總司令官の、最も留意すべき必要あること極めて明瞭なるに拘らず、今日尙過去戦役に對する研究、若は軍事諸學校に於ける教育に、其の肝要の程度を十分認められてゐない。又純軍事上の文獻に於ても、補給擔任の諸勤務の組織等に付ては、一瑣事として取扱はれ、或は又各司令部にては、補給の如き特殊事項を擔任する將校は、劣等部類に屬する者と見做されたることも少くない。然るに補給問題を處理して好果を收めんとせば、其れ等將校は、常に作戦の經過に注意し、直接作戦に任ずる者の如

十分に戦況を了解しなければならぬ。古來、糧秣・彈藥其の他の戦用材料の補給及輸送問題は、人命の保持、軍の機動及戦闘に關する問題に比すれば、單に一瑣事と見做され、將帥は兵員の數を以て其の決心をなす基礎となせし

も、該兵力を有効に用ひ得ると否とは各種資材の蒐集、輸送及分配の各施設に比例せしことを常に明示してゐる。

大戦中、佛軍の Joffre 元帥は、補給狀況及其の直轄する補給及輸送方法を、毎日親しく聴取した。同元帥の後繼者も其の例に倣ひ、Pétain 元帥の如きも、補給及輸送に關する各般の組織を重要視し、戦闘は之が實行前、其の準備程度、即ち資材及戦闘力の兩方面より觀察したる準備程度に依り、豫め其の勝敗の數を判断し得ると云つた。

米軍總司令官 Pershing 將軍は同軍の大戦参加當初より、補給勤務部 [Services of Supply] 及一般購買部 [General Purchasing Agency] を創設し、又總司令官は補給及輸送に關し、常に自ら總司令部參謀長 [參謀部第四課擔任 Chief of Staff, G. H. Q., G-4] 及補給勤務部長 [Commanding General, S. O. S.] と接密に接觸を保つた。

英軍の總司令官は、其の隷下部隊の統轄を三主任幕僚を介して實施し、各主任幕僚は亦總司令官及幕僚相互間に常に密に接觸を保持した。三主任幕僚中の一は補給部長 [Quartermaster General] にして、是れ英軍が補給等軍政の健全なる體素を保つことを重要視せしことを明示するものである。

白國軍にても高等統帥は、補給及輸送問題に關し、常に甚大なる注意を拂ひ、總司令官は、關係勤務部を參謀副長 [General, sous Chef d'Etat-Major Général] の指揮下に置いた。

伊軍に於ける總經理部 [Intendenza Generale] は、補給及輸送に關する事項に就て、事實上最高統帥 [Commando, Supremo] 即ち總司令部と同等の地位にあつた。最高統帥は補給及輸送に就て、常に總經理部よりの助言を受け、重要な

る作戦の準備期に於て特に其の連繫を密にし、以て豫め戦闘の成功を確保するに缺くべからざる手段を講じた。Foch 元帥の如きは、聯合軍總司令部に輸送及補給部 [Direction Générale des Communications et des Ravitaillemens aux Armées] を設くるは必須事たるを信じて疑はなかつたのである。

斯の如き次第なるを以て、戦争準備なるものは、戦闘兵力を最大限に動員し、之を戦場に使用する目的を以て集中することに限定すべきではない。否該兵力に對し必要なる各種資材の整備・集中・輸送及分配をも包含せしものなることを必要とする。糧秣其の他の補給品を、適時所要の場所に使用し得べき確實性を缺き、單に之を集積するが如きは、〔換言すれば其の輸送施設を整備せざるに於ては〕總司令官を破滅的位置に陥らしむるものであり、又其の隷下部隊が良好なる状態にありて戦闘に堪へ得るものとするも、戦闘の進展に伴ひ、之を移動することを得ざるものたることを直ちに知り得るのである。

故に補給及輸送なる二問題は、高等統帥部のみならず、政府に於ても宜しく常に考慮を費すべきものにして、兩者は極めて密接なる關係にあるものである。

近世戦争に於て野戦軍をして長期に亘り、戦闘を遂行するを得しむるには、各般の資材を消費すること實に莫大にして、之が補給の爲、全國家の産業及輸送を擧げて完全に動員するを必要とする。且つ中立國にありても、交戦國の資源不十分なる時は、其の需用を充す爲、影響せらるるに至るのである。故に將來戦にては、一九一四——一八年の世界大戦に於けるが如く、總ての國家は程度は異なるとするも、何れも直接戦争の渦中に投入せらるゝことゝなるであらう。

狀況斯の如くなるを以て交戦國は彼我共外國と良好なる關係を維持することの如何に必要なかを了解し得べく、此の顧慮より、海上交通保護の任に當る海軍の重要なることを知るを得るであらう。

要するに、賢明なる政府は、戦争の爲國民を訓練し、作戰計畫の實行に豫め備ふると同様、諸資材の整備に努力を拂ふべきものにして、一面高等統帥は一國の國軍を指揮すると、同盟各國軍を統率するとを問はず、軍隊の維持に必要な諸資源を公正適當に使用することに努めなければならぬ。

最後に一言すべきものがある。即ち最近大戦に於て、數國の軍隊が合同して作戰するの必要を認めし實驗に鑑みるに、斯の如き場合最後の成功を收めんと欲せば、聯合各國を通じて最高統帥を設くるの必須の要あるを明示せしと共に、此の指揮の統一に依り軍の最大効果を收めんと欲せば、關係聯合各國軍の總てに影響する補給及輸送に關する問題を管掌する一機關を、最高統帥の掌裏に置くの要をも之を明かに教示した。聯合國軍事補給會議は、直接聯合各國政府の權能に依り創設せられたるものにして、同會議の全員一致の決議は、各國軍に對し強制力を有する規定たらしめたるが如きも、實に右の趣旨を採用したる結果に外ならぬのである。

〔注意〕

以下諸表は、聯合各國軍に關する補給上主要事項の數字を示したもので、其の統計の大部は、休戰條約締結後、間もなく蒐集し、資料は直接各國軍總司令部及關係國陸軍省より提供したものである。但し各國共諸種の事情を異にするを以て、諸表記する所は、必ずしも適切なる比較對照の資と稱すべからざるものもあるが、研究上基礎的判斷をなすには有力なる資料たることは勿論である。

一、本局為便利市民起見，特在...
 二、凡欲申請者，請向本局...
 三、本局之辦事時間為...
 四、本局之辦事處設於...

二輪自動車	三輪自動車	乘貨同用自動車	氣球數	飛機數
三六、六三八	四	二	二	五〇二、六
七、三二八	一	一	一	〇九、一
三、三三三	一	一	一	三、三三三
六、六六二	一	一	一	〇九、一
一〇、一〇二	一	一	一	五〇二、六

第一版 一九二九年十月二十三日

第一表 一九一八年十月三十一日現在、各國軍ノ將校軍隊勞務者・俘虜等ノ數

佛 ^イ 米 ^ハ 英 ^ニ 白 ^ホ 伊	軍	戰闘兵力		野戰軍地帯		後方地帯		野戰軍地帯		野戰軍ニ		俘虜		前進地帯		野戰軍		同		同	
		野戰軍地帯 所在兵力	後方地帯 所在兵力	野戰軍地帯 入院患者	野戰軍ニ 附屬セル 勞務者	俘虜	前進地帯 所在馬數	野戰軍 火砲數	同 機關銃數	同 自動小銃數	同 小銃										
佛	軍	四、三六九、三五六	二、八二二、九三七	一、五五六、四一九	七、〇三三、五	三三三、四九九	六四三、九六四	一、五七〇	三、四七五	五〇、九八八	一、六九三										
米	軍	一、九八四、七五五	一、〇三七、五八三	八五五、五九四	一、六三三、七三七	四七七、七五四	一、六三三、七九五	三、三三三	二、八二四	三九、九一一	一、三六三										
英	軍	一、八七〇、九七〇	一、五〇七、八八五	三六三、〇八五	〃	二四九、〇〇〇	一、七八、六九三	六、七五三	五、九四五	三四、九五四	九一五										
白	軍	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	一〇九、八二二	九、二七〇	三六、二一八	八四六	一、〇六七	三、二六六	二〇〇										
伊	軍	三、〇三一、一七九	二、一八一、一七九	八五〇、〇〇〇	九七、〇三三	四七七、〇三三	二、九四、六七三	九、九〇〇	二、四、六四〇	五、〇〇〇	二、一八六										
		五、一、五九七	四、三、〇六五	六、五三三	六、九三〇	六、一、二七七	六、〇四三	一〇〇	四、四四四	〃	二〇										
		八、五、一六六	五、五、六三〇	二、八、一、六三〇	四、五、七、七三三	五、七、六、八八八	一、三、三、八四七	二、六、六、七〇	六、〇、三、四四五	二、九、一、二九	四、一、八、九										
		一一、五、四、七、八五七	七、七、四、三、六四九	三、七、二、一、六三〇	五、四、七、七、九五	六、六、〇、六、一一	一、〇、一、四、一、七五	三、六、六、六〇	八、四、九、九五	一、三、四、一、一九	六、三、七、五										

備考

- イ 佛國ニ關スル本表ノ數字ハ野戰軍地帯ノモノトス。
 - ロ 佛國人及佛國植民地人以外ノモノトシテハ、本表外、外國人、俘虜ノ入院患者一三、三七七人ヲ加算スベキモノトス。
 - ハ 一九一八年十一月一日ニ於ケル米國動員總兵力ハ、將校一九二、〇〇〇人、准士官以下三、三六〇、三三〇人、計三、五五二、三三〇人トス。
 - ニ 英軍ニ關スル本表數字ハ在佛及「フランドーズ」ノモノトス。
 - ホ 白國軍ニ關スル數字ハ、野戰軍地帯所在ノモノナルモ、其ノ實際ノ狀況ヨリ言ハバ後方地帯ト適當ニ呼ブベキモノナラハズ。
 - ヘ 全戰役間ヲ通シテノ總數トス。
 - ト 白國運ノ得タル俘虜ハ、英佛兩軍ニ引渡セシナシテ、數字上ノ記録ナシ。
 - チ 七飛行船ヲ含ム。
- 伊軍ノ行ニテAハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲ示ス。

一日現在、各國軍ノ將校・軍隊・勞務者・俘虜等ノ數

地方地帯 在兵力	野戰軍地帯 入院患者	野戰軍ニ 附屬セル 勞務者	俘虜	前進地帯 所在馬數	野戰軍 火砲數	同 機關銃數	同 自動小銃數	同 小銃數	同 戰車數	同 飛航機數	同 氣球數	同 貨物自動車 乗用自動車 二輪自動車
一、五五六、四一九	七、〇三三	二〇九、五七七	三三三、四五九	六四二、九六四	一五、七一〇	二四、四七五	五〇、九八八	一、六九三、五七七	二、七五三	六、二〇五	七	一〇六、九一九
八五五、五九四	一六三、七六七	四七、七五四	三五、〇〇〇	一六三、七九五	三、二二三	二八、四一四	三九、九一一	一、三六二、〇六六	二四一	一、九六〇	二九	五八、六五二
三六三、〇八五	〃	二四九、〇〇〇	一七六、六九三	三八二、九二七	六、七九三	五、九四五	三四、九五四	九一五、一五二	二、三六五	三、九四三	一五二	五三、一五三
八〇、〇〇〇	〃	九、二七〇	(ト)	三八、二一八	八四六	一、〇六七	三、二六六	二〇〇、〇〇〇	〃	九三	五	七、三四八
八五〇、〇〇〇	九七、〇三三	八三、七三三	四七七、〇二四	二九四、六七三	九、九九〇	三四、六四〇	五、〇〇〇	二、一八六、一八一	七	二、六五三	四三	三六、六二八
六、五三三	六、九五〇	六一、二七	〃	六、〇三三	一〇〇	四四五	〃	二〇、〇〇〇	〃	一六	二	四八二
二、八六一、六三〇	四五三、七七三	五七、八六六	五七、一五二	一、三三六、八四七	二六、六七〇	六〇、三四五	二九、二一九	四、一八九、七九四	五、三六三	一三、二一八	四五三	三九、四三三
三、七一一、六三〇	五四七、七九五	六六〇、六二二	一、〇一四、一七五	一、五三八、五三〇	三六、六六〇	八四、九八五	一三四、二一九	六、三七五、九七五	五、三六九	一四、八七三	四九三	三六、〇八〇

ノトス。

、本表外、外國人、俘虜ノ入院患者一三、三七七人ヲ加算スベキモノトス。

兵力ハ、將校一九二、〇〇〇人、准士官以下三、三六〇、三三〇人、計三、五五二、三三〇人トス。

「ズ」ノモノトス。

モノナルモ、其ノ實際ノ狀況ヨリ言ヘ、後方地帯ト適當ニ呼ブベキモノナ有セズ。

シテ以テ、數字上ノ記録ナシ。

示ス。

第二表 イ一九一八年十月三十一日現在、在佛及、フランダース各軍兵力

在佛及在伊各國軍計	將校	軍		後方地帯	野戰軍地帯	勞務者		野戰軍地帯	
		野戰軍地帯	後方地帯			野戰軍地帯	後方地帯	(勞) 務	(務) 處
米 ^口 軍	八二、八四四	一、〇三七、五八三	八五五、五九四	二、三五六、〇〇〇	(二) 二、三五六、〇〇〇	四七、七三四	[水]	三、〇〇〇、〇〇〇	
英軍	七六、五〇〇	一、四三二、三六五	三、三三〇、八八二	二、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	[水]	一七八、六九三		
佛軍	八、〇〇〇	二、三三二、八四〇	一、五五六、四一九	二、〇四九、五七〇	一、一〇〇、〇〇〇	七九、三五〇	[水]	三、〇〇〇、〇〇〇	
白國軍	六、四〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	九、二七〇		[リ]			
伊軍	七九、八九五	二、一〇一、二八四	八五〇、〇〇〇	八三、七三三	一、三六八、〇〇〇	一、八一三		二、〇〇〇、〇〇〇	
在佛及在伊各國軍計	三、七二、一六	七、二九六、一八五	三、七二、一六〇	四、八八、八七七	二、六四〇、三〇四	九七、三九三		四、七七七、六〇一	
									三、七二、一六
在佛各國軍計	三、七二、三三	五、一九九、九四	二、八六、六三〇	四、〇五一、四四	一、三七一、三〇四	七九、二五〇		四、七三七、九〇一	

備考

イ 本表ハ各國軍總司令部及各勤務部長ヨリ提出シタル事項ニ依リ、聯合國軍事補給會議米軍班ガ同會議ノ爲、調整セシモノトス。

ロ 米本國ニテ編成セル米軍ヲ示ス。

ハ 米本國參謀本部統計課報告ヨリ轉載ス。

ニ 後段「後方地帯」ニ含有ス。

ホ 後段「後方地帯」ニ含有ス。

ヘ 軍事工場ノ五〇〇、〇〇〇人ヲ含ム。

ト 戰役當初ニハ、各兵種ヲ合シ、野戰軍ノ總員一一七、〇〇〇人ヲ算セリ。

チ 此ノ内譯、根據地所在四〇、〇〇〇人、後方地帯及入院中ノ者四〇、〇〇〇人トス。

リ 白國軍ノ得タル俘虜數ハ、掘ゲルコト能ハズ、同軍ガ捕ヘタル俘虜ハ直チニ英國又ハ佛國ニ引渡セリ。但シ「フランダース」ノ攻撃戰中、若干ノ俘虜ヲ鐵道・道路等ノ構築ニ使用セシコトアリ。

ヌ 本數字ハ軍事工場ニ使用セシモノノミヲ示ス。

イ 國ノ行、Aハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲ示ス。

續二表 一九一八年十月三十一日現在、各國軍自動車數

國名	貨物自動車	乗用自動車	二輪自動車
米	29,869	7,862	13,784
英	31,770	11,226	14,464
佛	80,044	29,875	[ハ]
白	4,192	1,653	1,103
伊	28,252	2,459	5,917
在佛及在伊各國軍計	174,475	53,166	35,351
在佛各國軍計	146,223	50,707	29,434

第三表 一九一八年十月三十一日現在、各國軍自動車數

國名	貨物自動車	乗用自動車	二輪自動車
米	29,869	7,862	13,784
英	31,770	11,226	14,464
佛	80,044	29,875	[ハ]
白	4,192	1,653	1,103
伊	28,252	2,459	5,917
在佛及在伊各國軍計	174,475	53,166	35,351
在佛各國軍計	146,223	50,707	29,434

備考

- イ 幕僚用及偵察用乗用車ヲ含ム。
 - ロ 患者輸送自動車ヲ含ム。
 - ハ 乗用自動車及二輪自動車トス。
 - 伊軍ノ行ニテAハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲ示ス。
- 〔注意〕 英軍以外ハ、本表中患者輸送自動車ヲ含マズ。(同車ニ付テハ第十表参照)

標準(廣)軌道用	狹軌道用	標準(廣)軌道用	狹軌道用
...

第四表

一九一八年十月三十一日現在 在佛及「フランダース」各國軍ノ鐵道機關車・客車及貨車數

在佛及在伊各國軍計	汽 車		客 車 及 貨 車	
	標準(廣)軌道用	狹軌道用	標準(廣)軌道用	狹軌道用
米 軍	1,360	421	12,036	3,348
英 軍	1,466	91	48,965	4,635
佛 軍	1,773	1,110	21,505	12,210
白 國 軍	128	33	1,015	202
伊 軍	3,576	200	72,260	10,000
在佛及在伊各國軍計	33,394	3,004	551,451	33,984
在佛各國軍計	18,728	2,706	479,081	33,984

備 考

〔注意〕 主義トシテハ、狹軌用材料ハ、各國軍各自其ノ使用ノ爲、之ヲ保有セシモ、標準軌道用ハ、各國軍共通使用トシ、唯下ノ如キ條件ヲ保留セリ。即チ佛國ノ材料ハ、各國軍ノ需用ニ應ジ、之ヲ共同シテ使用セリ。戰役當初ニ於テ、各國軍ハ佛國ノ材料ノミチ使用セシモ、一九一七年中、英國ヨリ若干輸送シ來リ、又一九一八年中ニハ米國ノ材料到着セリ。但シ主義上、英軍ノ機關車ハ同軍專用トシ、客車及貨車ハ各國軍ノ共通使用ニ委シ、又米軍ノ材料ハ、休戦時ニ至ルマテ專ラ同軍ノミチ使用セリ。

イ 機關車三一六輛ハ白國軍ニ貸與セリ。

ロ 佛軍ノモノ三二輛、白國軍ノモノ三輛、英軍ノモノ八輛、獨軍ヨリ捕獲セシモノ三六輛ヲ含ム。

ハ 西班牙ヨリ借入レ車輪及車軸ヲ交換セシ、七五〇輛ノ無蓋車ヲ含ム。

ニ 佛軍ノモノ四四二輛、獨軍ヨリ捕獲セシモノ一二五輛ヲ含ム。

ホ 牽引機關車四一九輛ヲ含ム。

ヘ 牽引機關車二九五輛及獨軍ヨリ捕獲セシ三七四輛ヲ含ム。

ト 此ノ内二、四二六輛ハ捕獲品トス。

チ 同シク二、六二六輛ハ捕獲品トス。

リ 此ノ内二四輛ハ牽引車トス。

又 此ノ内一二八輛ハ電氣機關車トス。

伊軍ノ行ニテ、Aハ伊本國ニテ伊軍使用ノモノ、Bハ在佛ノ伊軍使用ノモノヲ示ス。

第四表 一九一八年十月三十一日現在、在佛及「フランダース」各國軍ノ運轉中及修繕並構築セシ鐵道線ノ延長

線名	標準軌道	狹軌道	修繕中	構築中
...
...
...
...
...
...
...
...
...

第五表 一九一八年十月三十一日現在、在佛及「フランダース」各國軍ノ運轉中及修繕並構築セシ鐵道線ノ延長

在佛及在伊各國軍計	運轉セシ鐵道ノ延長		修繕セシ鐵道ノ延長		構築セシ鐵道ノ延長	
	標準軌道	狹軌道	標準軌道	狹軌道	標準軌道	狹軌道
米軍	九,三三九	二,〇二二	〃	〃	一,〇〇〇	二,七二六
英軍	一,三三三	八〇〇	〃	〃	三,三五三	二,八四四
佛軍	〃	三,三〇〇	〃	〃	〃	三,〇〇〇
白國軍	三六〇	一〇〇	〃	〃	二,五二〇	八六〇
伊軍	一六,七五〇	四,五三一	〃	〃	〇,〇〇〇	四,〇〇〇
在佛及在伊各國軍計	二七,七五一	七,一六一	〃	〃	六,一七七	七,四五六
在佛各國軍計	一一〇,一一	六,七〇〇	八,四一九	九三三	五,一二七	六,七三六

備考

- イ 一部分ノ運轉セリ。
- ロ 此ノ内一、七四〇軒ハ、獨軍ヨリ捕獲セシモノニシテ、殘餘ノ五〇〇軒ハ新ニ構築シ若ハ再構築セシモノトス。
- ハ 總テ修繕若ハ構築セシモノトス。
- ニ 全部單線ニシテ獨軍ニ依リ破壞セラレタルモノトス。
- ホ 此ノ外一米軌道七一、四〇〇軒アリ。
- ヘ 此ノ内ニハ、野戰軍地帯ニ於ケル停車場改善ノ爲ニセシ七八〇軒ノ線路工事ヲ含ム。

伊軍ノ行ニテ、Aハ伊本國、Bハ在佛伊軍ノモノヲ示ス。

野戰軍地帯	後方地帯	以上計	一人一日ノ給與量
延食數 1,000,000,000	延食數 1,500,000,000	延食數 2,500,000,000	3.0 3.0 3.0
1,000,000,000	1,500,000,000	2,500,000,000	3.0
1,000,000,000	1,500,000,000	2,500,000,000	3.0
1,000,000,000	1,500,000,000	2,500,000,000	3.0
1,000,000,000	1,500,000,000	2,500,000,000	3.0
1,000,000,000	1,500,000,000	2,500,000,000	3.0
1,000,000,000	1,500,000,000	2,500,000,000	3.0
1,000,000,000	1,500,000,000	2,500,000,000	3.0
1,000,000,000	1,500,000,000	2,500,000,000	3.0

雜穀、飼料、油類、糖類
 一九一八年十月三十一日現在、在佛及「フランダース」各國軍ノ

第六表 一九一八年十月三十一日現在、在佛及「フランダース」各國軍ノ使用可能糧食延食數等

英軍	米軍	佛軍	白國軍	伊軍	在佛及在伊各國軍計	在佛各國軍計
1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	(口)	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	(口)	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	(口)	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	(口)	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	(口)	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	(口)	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	(口)	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	(口)	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	(口)	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000

備考
 1 兵站地帯ニ屬スルモノトス。
 口 數字不詳。
 伊軍ノ行ニテ、Aハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲ示ス。
 ※ 一封度ハ四五三・五九二四五トス。



第七表 一九一八年十月三十一日現在、在佛及「フランダース」各國軍ノ使用可能ノ馬糧ノ數量

米 英 佛 白 伊	軍 軍 軍 軍 軍	干		草		燕		麥		藜		給一馬一日ノ飼量
		野戰軍	後方部隊	野戰軍	後方部隊	野戰軍	後方部隊	野戰軍	後方部隊			
米	軍	クイントル 四〇、八六三	クイントル 一〇、九七〇	クイントル 三六、一五四	クイントル 三、七六三・六	クイントル 〃	クイントル 〃	クイントル 〃	クイントル 〃	クイントル 〃	クイントル 〃	一〇・〇〇
英	軍	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九・〇〇
佛	軍	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九・〇〇
白	軍	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九・〇〇
伊	軍	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	八・〇〇
在佛及在伊各國軍計	軍	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	八・〇〇
在佛各國軍計	軍	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	八・〇〇

備考
 一 經理部倉庫所在ノモノ。
 二 英軍ニ關スル單位稱呼ハ「クイントル」ニアラズ、延日飼數ナリ。
 三 兵站地帯ヲ示ス。
 四 藜ヲ含マズ。
 五 代用品ヲ含マズ。
 六 國內所産ノ最大限ヲ示ス。
 七 伊軍ノ行ニテ、Aハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲ示ス。
 八 計ノ内ニハ英軍ノ分ヲ含マズ。「本備考」ニ參照

第八表 一九一八年十月三十一日現在、在佛「フランダース」各國軍々用獸數

米 英 佛 白 伊 在佛及在伊各國軍計 在佛各國軍計	野戰軍地帶		内地		計
	乘用獸	鞍馬	乘用獸	鞍馬	
軍	〇、〇〇〇	二、四九七	三、五七五	二、四四三	一、三、七九七
軍	八、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、七二七	三、〇〇〇	三、〇、三二七
軍	(1)	(1)	(1)	(1)	六、四二、九八〇
軍	二、三三三				三、八、二一八
軍	五、五七七	二、四一六		九、三三三	三、〇、〇〇七
軍	一、一三三	四、八六二	七	四、一七	六、八、〇〇四
軍	一、六九、三三九				一、五、六、三三九
軍	一、六八、二二七				一、五、三、二二七

備考

イ 合計ノ外、分類セシ數不詳。

ロ 乘用獸以外、分類セズ。

ハ 分類完全ナラズ。

伊軍ノ行ニテ、Aハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲ示ス。



第九表 一九一八年十月三十一日現在、在佛及「フランダース」各國軍ノ飛行機及氣球數

米 英 佛 白 伊 在佛及在伊各國軍計 在佛各國軍計	飛行機		氣球		球	
	野戰軍地帯	倉庫等所在	野戰軍地帯	倉庫等所在	野戰軍地帯	倉庫等所在
米軍	八六八	一、〇九二	一、九六〇	一五〇	二一九	二一九
英軍	一、六三三	一、八二〇	三、三三三	八	一三二	一三二
佛軍	三、六〇九	二、五九三	六、二〇五	七	七五	七五
白國軍	三三	三三	九	〃	〃	〃
伊軍	一、〇三五	一、〇〇〇	二、九三三	八	三三	三三
在佛及在伊各國軍計	七、一三二	七、二二二	一四、四三三	二七	四九	四九
在佛各國軍計	六、一七七	五、六二八	一一、七九五	三三	四三	四三

備考

イ 此ノ内三四二機ハ、獨立部隊ニ分屬シ、八一機ハ、第五集團軍が白國海岸ニ作戦セシ時之ニ屬セリ。

ロ 本數字ノ外、使用不能ノモノ七五アリ。

ハ 七遊動氣球ヲ含ム。

伊軍ノ行ニテ、Aハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲ示ス。



第十表

一九一八年十月三十一日現在、在佛及「フランダース」各國軍ノ病院・衛生部員・患者輸送車數

所在	野戰軍地帶 所在病院數	同 病床上 病床數	内地帶所在 病床數	野戰衛生 勤務員	使用中ノ 病院列車	患者輸送車數	
						自動車	馬車
米軍	一五	四八、五二〇	三三、三三〇	三、八八四	六	一、八〇五	二五三
英軍	六	二九、五二〇	八八、三九八	[口]	三	三、三五〇	一八五
佛軍	五	一〇〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	七、三三三	一	※ 一〇六	※ 一〇六
白國軍	三	八、四九六	一〇、六三三	七、八六六	三	二〇〇	一〇五
伊軍	四	一〇〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	九、〇〇〇	八	八三三	三〇〇
伊軍	二	五、〇〇〇	二一、五〇〇	[口]	三	一	一〇
在佛及在伊各國軍計	一、三三	四三九、五五六	一、〇八六、六六六	一〇一、〇八六	四	七、四一一	一、四三〇
在佛各國軍計	七	二八九、五二六	六八五、六九〇	九三、〇四六	三	五、五七九	七〇〇

備考

1 此ノ外、佛軍ハ移動式治療自動車隊四五テ有ス。

口 數字不詳。

ハ 此ノ内、八、〇〇〇人ハ軍醫部、一、〇〇〇人ハ藥劑部ノモノトス。

※ 職數ヲ示ス。

伊軍ノ行ニテ、Aハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲ示ス。

第十一表

一九一八年十月三十一日現在、在佛及「フランドーグ」各國軍入院患者數

者 患 院 入	佛 軍		英 軍		米 軍		白 國 軍		伊 軍			
	野戰軍地帶所在	内地帶所在	野戰軍地帶所在	内地帶所在	野戰軍地帶所在	内地帶所在	野戰軍地帶所在	内地帶所在	伊本國所在	佛國內所在		
計	八三、六〇三	二六九、三四四	一七、一四八	九八、五六六	五〇、一三三	一三三、三六六	一〇、〇〇〇	一〇、五〇〇	九七、〇〇〇	六、九五〇	一四七、〇〇〇	三、四四、九〇〇
	4						□	□	九七、〇〇〇	六、九五〇	一四七、〇〇〇	三、四四、九〇〇
	三三、八三六	二六九、三四四	一七、一四八	九八、五六六	五〇、一三三	一三三、三六六	一〇、〇〇〇	一〇、五〇〇	九七、〇〇〇	六、九五〇	一四七、〇〇〇	三、四四、九〇〇
		三三、八三六		二六九、三四四		三三、八三六		三三、八三六		三三、八三六		三三、八三六

備考

イ 此ノ内、一三、三七七人ハ佛國人若ハ佛國殖民地人ニアラズ、外國人及俘虜等トス。
 □ 兵站病院ニ於ケル概數ヲ示ス。

第十二表 一九一八年十月三十一日現在、在佛及「フランダース」各國軍ノ銃砲及戰車數

在佛各國軍計	伊	白	佛	英	米	重砲	野砲	小銃	白機 機關小銃及	蟹壕用迫撃砲	戰車用火砲	戰車
在佛及在伊各國軍計	軍 A	軍 B	軍	軍	軍	一、五九五	一、八七九	一、三六、〇六六	六八、一一一	一、五〇	〃	三、四一
在佛各國軍計	一、五九八	〃	四、四五七	七、一〇〇	二、六五六	〃	四、七〇四	一、一〇、〇〇〇	四、〇、〇〇〇	二、九六九	〃	二、三六五
伊	〃	〃	五、三三三	五、八八〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
白	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
佛	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
英	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
米	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

備考

イ 此ノ内「ヴィンカリス」機關銃一〇、四七四ヲ含ム。

ロ 此ノ内「ルキス」機關銃三五、六一六ヲ含ム。

ハ 此ノ内「ホツキス」機關銃六、〇五五ヲ含ム。

ニ 放棄迫撃砲トス。

ホ 豫備ヲ含ム。

ヘ 七密砲ヲ含マズ。

ト 中口徑砲トス。

伊軍ノ行ニテ、Aハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲ示ス。



第十三表

一九一八年十月三十一日現在在佛及「フランダース」各國軍保有彈藥數

	重砲		野砲		機關銃		小銃		榴	
	野戰軍地帯	内地帯	野戰軍地帯	内地帯	野戰軍地帯	内地帯	野戰軍地帯	内地帯	野戰軍地帯	内地帯
米軍	100,000	100,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
英軍	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
佛軍	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
白國軍	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
伊軍	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
在佛及在伊各國軍計	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
在佛各國軍計	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

備考
 1 在伊本國伊軍ノ所持總數ニ、○○○、○○○發ナリト云フ。
 2 同上總數ノミナ掲グ。
 3 伊軍ノ行ニテ、Aハ在伊本國、Bハ在佛ノモノヲホス。

聯合國軍事補給會議米軍班參謀長 Harry I. Hodges 大佐の記述（要）

國	軍種	將領	地位	職掌	備考
英國	陸軍	P. PARSONS	少將	補給局長	
美國	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
法國	陸軍	REMYSAUD	少將	補給局長	
中國	陸軍	SUN	少將	補給局長	
印度	陸軍	S. M. S. K. PILLAY	少將	補給局長	
菲律賓	陸軍	M. B. BARRA	少將	補給局長	
荷屬東印度	陸軍	P. H. M. VAN DER LINDEN	少將	補給局長	
暹羅	陸軍	U. H. NAYAK	少將	補給局長	
泰國	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
加拿大	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
波蘭	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
捷克斯拉夫	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
南斯拉夫	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
希臘	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
土耳其	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
羅馬尼亞	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
保加利亞	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
匈牙利	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
羅馬尼亞	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
波蘭	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
捷克斯拉夫	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
南斯拉夫	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
希臘	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
土耳其	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
羅馬尼亞	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
保加利亞	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
匈牙利	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
羅馬尼亞	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
波蘭	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
捷克斯拉夫	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
南斯拉夫	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
希臘	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
土耳其	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
羅馬尼亞	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
保加利亞	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	
匈牙利	陸軍	W. W. BARKER	少將	補給局長	

第一章 聯合國軍事補給會議の成立及其の業務經過の概要

〔本章は聯合國軍事補給會議米軍班參謀長 Harry I. Hodges 大佐の記述を要す〕

Pershing 將軍は、Foch 元帥統率の下に、第一線に於ける軍隊指揮の統一を確保せんことの發議をした者の重なる一人にして、尋で補給勤務に關しても、聯合各國軍個々の權能を總轄し、之が統一を確實にする方法を採るべき必要を認め、各國軍長を推獎して難なく其の同意を得た。Pershing 將軍が右の推獎をなすに至りしは、一九一八年三月二十七日附 Down 大佐よりの意見具申に基くものにして、當時聯合各國軍に共通なる補給品の統一運用を必要とせし理由は、蓋し自明の事であつて、是より先、米軍が米本國及佛國內に於ける經驗に鑑み、競争防止及統一確保を期する爲、採るべき當然の趨向たりしに外ならなかつたのである。而して該理由は前記 Down 大佐の意見具申書に詳記する所で、其の内容は以下掲ぐる如くである。

「實に、第一線に於ける指揮を Foch 元帥に於て統一するの必要を論議研究せるに當り、同時に後方に於ける補給及輸送に關しても之に等しき權威ある一機關を設くるを要すとの説ありて、現に之に關し二箇の問題を伴へり。即ち米國よりの補給品、英國よりの補給品、佛國よりする補給品及之に伴ふ海陸輸送の問題と、倉庫設備及其の取扱に關する問題と是なり。

第一線に於ける Foch 元帥の指揮の統一は、後方に於ても之に等しき統轄を必要とするに至れり、茲に所謂後方地方とは佛・英・米三國の外、伊國をも含めたる諸國々土を指稱す。而して該統轄方法を論ずるに先ち、其の極めて

重要なることを聊か説述せんと欲す。蓋し敢て説述する迄もなく、閣下に於ても屢々考慮せられたる所なるべきを信す。米軍は今や莫大なる倉庫及船渠構築に於ける材料輸送の爲、甚大なる船腹を使用しつゝあり。然るに英佛兩國の倉庫は空虚ならんとし、將來亦益々餘積を増大せんとする状況にあるに拘らず、米軍は右の如く敢て莫大なる材料を本國より輸送しつゝあり。從來佛國政府は、極めて廣く民間倉庫を利用し、軍需補給品を貯藏しあり。此等補給品の貯藏量は急速に減少しつゝあるを以て、今や佛國には使用しあらざる倉庫餘積多數あるに拘らず、米軍は當面必須の輸送力の大部を割きて、極めて増大する倉庫設備の爲、之が材料を輸送しつゝあり。此の時に當り、鳥瞰的に之を観察し、英佛兩國の倉庫現狀と米國出征軍現下の倉庫設備及輸送計畫との關係を、權威ある行爲を以て決定するは、果して何人の爲すべき所なるか、此の事たる聯合各國に對し共通に之に臨み得る軍事上の權威を有する一人の者を以てするにあらざれば、能く爲し得る所にあらず。然らざれば偶然且つ不完全なる方法に依り此の目的を達することを望むの外なきなり。斯の如き人は、聯合軍總司令官に「Bob」將軍を戴きしと同一理由に基き、佛國人なるを要し、英米兩國は之を甘受せざるべからず。且つ彼には全聯合軍の海陸輸送、技術及補給上の活動に對し、恰も總司令官に等しき權威を有せしむるを要す。即ち米國出征軍の調達、補給其他若干の活動に關する權威を閣下が小官に與へられたる如く、同様の方法に依り全聯合軍の該業務を一人の統轄下に置かざるべからず。

聯合軍の全輸送及補給に關する機關の構成は、其の性質軍事的なるを要し、且つ主義として所謂寡頭政治にも、又多數政治にも偏すべきにあらず。該機關にして軍事的處理と統轄とをなすを得ずとせば、其の業務は必ずや失敗に終るべく、且つ海港に在る獨軍俘虜の如きも、之を使用するの權を有し、彼等をして、例へば建築材料を搭載せる

船舶の揚陸に従事せしめば、我軍の勞を省き、且つ該船舶を速かに解放して、兵員及糧食の輸送に充て、以て敵を阻止する爲、之を使用するを得べし。而かも我が現在の計畫は、全然放棄すべきにあらず、又之を一變すべきにあらず。要は現在の如く、文治機關たる諸會議、聯合各國間の紛糾せる交渉、補給業務統一の缺陷等の存するに於ては發生事項を適當に處理し、方針決定するも又適當に之を遂行すること能はざるを茲に指摘せんとするものなり。乞ふ合同的補給問題に關し一言せしめられんことを。かの第一線に於ける指揮の統一を必須とするに至らしめしと同一の危急状態は、補給問題に在りても、等しく之を認むる所にして、英・佛兩軍當事者は、小官に對し我が軍補給の状況を照會し來り、補給品の共通運用等を暗に促し來れり。小官は此等の事に關し佛英兩國と協同し最善の努力をなしつゝあるも、此際此等の問題は情報を蒐集し、之に依り敏速なる行動を採り、徒らに論議に時を費さざる軍事官憲に依りてのみ能く之を解決し得べしと確信す。今日聯合各國は合して一大軍をなすものなることを考へ、現在及將來の必要及當面の軍事上の危急を考慮して、英佛及米各國に現在する鐵・脂油・有刺鐵線・護謨「タイヤ」・「クロフォールム」・砂糖・十字鉞及圓匙・馬糧・被服等を總て所要の地點に最も迅速なる徑路に依り送達する如く、「Bob」將軍統率下に在る軍隊の後方にて果して統轄處理せられあるや否や、何人か能く其の眞狀を知りあるや。

聯合三國軍の後方勤務を指揮する三將官は、佛國軍事官憲と協力し、同官憲の統制を受くべきものにして、是れ恰も米軍の一般購買會議〔General Purchasing Board〕が、一般購買部長〔General Purchasing Agent〕の統轄を受くるが如きものたらしむべし。而して米國出征軍の購買會議の場合に於けるが如く、各國軍の後方勤務統轄機關も亦現在各國の行動に對し根本的干渉を試みしめんとするものにあざざるのみならず、各國現在の活動を削減することすら

之を思惟するものにあらず。該機關は各國の適當なる協調及聰明なる指示を期するものにして、就中、一度必要を認めて決定せし所は、直ちに之を遂行すべき權威たるを期するものなり。船腹問題、材料の使用、建築工事の節約及一般狀況の改善に關し、聯合各國軍が戦線の後方にて統一せる軍事的指揮を行ふの影響は、多言を要せずして明かなる所にして、戦線に於ける軍事行動の統一に伴ひ、此の後方に於ける軍事的支援を統一するを要するは蓋し當然の事なり。而して閣下は之れが實現を期し得べき唯一人者なり。現下極度の危機に瀕するも、閣下以外の他人が此の事に當るものとせば、小官は敢て此の意見を具申するを躊躇せざるを得ず。蓋し人の性は由來脆弱にして能く此の任に堪へ得べき者を發見するを難事とすればなり。由來人性の弱點及誇負は、軍の指揮統一を阻止する唯一の障礙にして、此の指揮の統一は閣下が常に唱道せられし所なりしに拘らず、容易に實現せざりしも遂に數千萬の人命を損し、軍事的失敗の踵を接して續出し、個人的及國民的誇負も、生存其のものを危くせらるゝに至り、各國は始めて共通的必要に迫まれ漸く之を實現せり。」

右の進言に基き、米軍總司令官は、之に關し佛國首相兼陸相 (Demerican) 氏の注意を喚起せしに、同氏は直ちに之に同意を表した。

一九一八年五月六日、聯合各國軍に於ける補給の統一を期する目的を以て巴里に一會合を催し、佛・英・米及伊各國の代表が之に出席した。Davis 大佐〔譯者曰く、後に准少將〕は Penning 將軍を代表して該會合に出席し、聯合國補給勤務統制委員 (Controlling Committee for the Allied Supply Services) の組織編制案を提出し、各國代表間に若干意見を交換せし後、五月十四日佛國陸軍省に再び會合することとし、其の際各國政府の代表者は左記三問に對する回答を提出するこ

とを決定した。

- A. Penning 將軍及合衆國政府の名を以て提議したる案を他各國政府は受諾するや
- B. 如何なる方法に據れば各國軍共通的使用しある補給品の分配及其の貯藏並輸送に關し、在佛聯合各國軍間の協調を保つを得るや
- C. 如何なる方法に據れば聯合各國の資源を完全に共通運用し得るや

五月十四日、米伊佛三國代表會合し、議長は前會の問題に對する各國の回答を披露した。其の要旨を掲ぐれば左の通りである。

- 第一 佛國正面にある各國國軍の補給を管掌する三委員より成る委員を創設すること
- 第二 委員は、聯合各國政府に對し、各其の資源に關する總ての情報を要求するの權限あらしむること
- 第三 委員は各國軍の需要に關し助言し、且つ分配計畫に所要の變更をなすことを指示すべきこと
- 第四 補給は鐵道と同一方法に依り中央統轄し、之を佛國補給次官 (Sous-Secrétaire d'Etat au Ravitaillement) をして主管せしむべきこと
- 第五 實行委員は、各國よりの補給品の供出量を決定し、主義として該供出量は兵數に比例せしむること
- 第六 補給に關する本部 (General Direction) を佛國將校の隷下に設け、同部には運輸省の代表者を附すること
- 第七 補給本部長は、各國軍の需要又は請求を綜合し、豫定の所要に關し助言すべきこと、尙同部長は一倉庫より他の倉庫への補給品の移動を指示すること

第八 各國軍は、其の占有地帯内に於ける補給品に關しては依然其の責に任すべきこと
第九 補給本部長には、例へば或る一國軍より他國軍へ材料讓渡の要求をなすの權を有せしむべきこと
第十 右の如き讓渡を行ひたる時は、之を記録し、決濟勘定を明かにし置くこと
以上に關し三國代表は、互に意見を交換せし後、左記各項を協定した。

1. 單に軍需補給品のみを考慮すること
2. 聯合國會議を設けて、軍の生活及之に伴ふ貯藏並輸送に必要な總ての補給品を、輸送本部長に供給するの任に當ること、之が實行機關は佛國補給次官とし、軍の需要に關しては、同次官より補給本部に連絡すること
3. 補給本部長は、補給品の需要を豫定し、現品を受領したる時は、之を分配すること

一九一八年五月二十二日 Clemenceau 氏と Pershing 將軍とは次の協定を結んだ。

一九一八年五月二十二日

下記聯合政府間に、左の通り協定す。

- 第一 聯合各國軍の所要を満足せしむる爲、補給品及軍用物件〔建造物、在庫品、輸送の手段〕の統一運用をなすの主義を採用すること
- 第二 上記の主義を採用し、且つ上記補給品及軍用物件の使用上爲し得る限り最も密接なる協調を保持し、補給品を各國軍に分配する目的を以て、直ちに聯合各國軍の代表より成る一會議を設置すること
- 第三 右會議の全會一致の決議は、法規として成立したるものとし、關係補給機關は其の力を盡して之を實行す

べきこと

第四 上記各項實行の爲、必要なる機關の組織の細部は、別に委員を設け其の決定する所に依ること、但し其の決定は關係各國政府が其の必要を認め、之を承認するものなることを豫め了解す。

下名は以上の事項を裁決し、且つ本協定を英佛兩國政府に送致せんことを望むものなり。

John J. Pershing

〔署名〕

George Clemenceau

右協定は、一九一八年五月二十四日、伊國代表 Merton 將軍之を承認し、英國政府には、米軍代表より之を送付して同じく其の承認を経た。而して一九一八年五月二十五日、佛國首相兼陸相 Clemenceau 氏は該協定の寫を Foch 元帥に送り、右協定中記載の委員たるべき佛軍代表を速かに任命すべきことを要求した。之に對して同元帥は、六月七日回答を發し、尙各國政府の直接權限の下に、右委員は、各國の補給品を蒐集する手段を講じ、若は之を建言せしむべきことを要求した。而して右聯合各國軍の代表者は左の如く任命せられた。

米軍 Dawes 大佐 同大佐は米國出征軍一般購買部長の職を有す。

英軍 Beadon 大佐 同大佐は英軍總補給部長代表者とす。

佛軍 Fayot 大佐 同大佐は佛總司令部後方部長たる參謀副長の職を有す。

伊軍 Merton 大佐 同大佐は前總經理部參謀長たり。

白國軍 Cumont 少佐 同少佐は白國陸軍大臣の代表者とす。

聯合國軍事補給會議を置くの要ありしことは、後日 *Davis* 將軍より米軍總司令官に對する同會議業務報告中に詳細之を述べて居る。同會議は一議長の指揮の下に行動するものにあらずして、其の決議は全會一致なるを要し、且つ一面には各國軍の關係勤務部長の職權中、若干之を同會議の掌中に收むる必要ありし爲、此等部長の之に對する危懼もあり、此等の顧慮すべき事項存せしに拘らず、會議の遂行したる業績は極めて顯著なるものなることは前記 *Davis* 將軍の米軍總司令官に宛てたる報告に依り之を知るを得る。該報告に述ぶる所は左の通りである。

「聯合國軍事補給會議が、其の第一回會合、即ち一九一八年六月二十八日より現時に至る迄の期間に於て、遂行せし業務の概要は左記の如し。

(一) 在佛聯合國各國軍の自動車輸送の全般に亘る状態を先づ明瞭ならしめたるが、其の結果は既に明かなる所にし、之が爲米國出征軍の方針にも實質上影響を及ぼせし所少なからず。

(二) 會議は聯合國各國軍の後方地帯に於ける自動車運行に關し研究の結果、(a) 作戰地帯に於ける道路上の輸送、(b) 自動車輸送に依る軍隊の移動及 (c) 諸材料の自動車輸送を律する國際的規定を設けたり。

右は聯合國各國軍の總司令官及聯合軍總司令官 *Haig* 元帥の承認を得たり。

(三) 會議は其の實施を決定せし、聯合國各國軍の後方地帯に於ける自動車輸送を律する國際規定に關し、自動車輸送を擔任する將校を教育する爲、種々苦心の結果 *London* に一學校を設置せり。本校教育は米軍の自動車輸送擔任の將校に幾多の智識と訓練とを與へ、爾後實戰に之を活用するを得しめたり。

(四) 會議は、聯合軍總司令官の使用する爲、野戰軍の背後に移動性を有する自動車豫備隊に關する問題を研究し、

尙十師團に對する飛行縱列 [Flying column] 及之に隨伴する砲兵の創設計畫及迅速且つ遠距離の行動に従事する該縱列の補給方法に關する研究をもなせり。自動車豫備隊設置に關する當初の計畫は、二萬四千輛の貨物自動車以て有力なる聯合軍自動車輸送隊を編成するにありしも、休戰時に於て漸く一萬千輛の自動車を有するに過ぎざりき。

(五) 會議の命ずる所に依り、第一線にある佛米兩軍の彈藥は之を共通運用せり。此の事が米軍に取り如何なる意義を有せしやは、同軍の佛式七五密砲のみにても約六百萬發を發射したる事實に依り之を知るを得べし。就中九月二十七日・十月四日・九日・十四日・十一月一日の米軍にて最も猛烈なる射撃を行ひし五日間には、第一軍のみにて七五密砲彈藥百十五萬八千九百四十發を發射せり。實に米軍が全然自由に佛軍の前進彈藥庫及集積場に就き補給を受け得たることの重要なるは、之を筆紙に盡すを得ざる所なり。

(六) 會議は在佛聯合國各國軍に於ける馬糧の状態に關し、最初の綜合的研究をなせり。其の結果、米軍の馬糧定量は英軍の標準に減少せられ、且つ濫費防止の命令をも發せられ、以て各國軍全般に亘る後日の馬糧補給上の危機を救ふに貢獻せし所少なからず。

(七) 開戰後、最初の事業として、會議は各國軍の後方地帯に於ける諸設備を完全に示せる圖表を調製し、以て其の收容力等を明かにせり。

(八) 會議は六十種鐵道材料及從事員に關する各國の状態を調査し、以て各國軍の之が擔任將校の連繫を圖り、各國軍間の協調に付一般に之を改善せり。

(九) 會議は第二線 [Second Line] に於ける電話及電信の架設及維持に關して聯合國各國軍の協定を得、以て豫定せ

し、前進行動間に於ける各國軍總司令部と聯合軍總司令部との連絡を確實にするの方法を採れり。休戰條約締結と共に右協定は占領地に於ける電話及電信連絡の手段となり、之が爲左記事項に付き各國軍共通の指示を發せり。

一、聯合各國軍間と各國軍及後方機關間の電話及電信架設に關し遵守すべき一般的主義並占領地に於ける現設備の使用及協同利用に關する事項

二、共同使用を爲し得る範圍方法を知らしめ、一國軍と他國軍との關係を明瞭ならしむる件、之に關し

1. 通信連絡を律する一般的規定をなす爲

a. 架設に關する一般的規定

b. 通信作業に關する一般的規定

を設け、

2. 通信連絡施設に付、各國軍の爲すべき援助方法を規定せり。

(一〇) 會議は聯合各國軍の規整〔鐵道〕係將校教育の爲一學校を開設し、野戰軍地帯に於ける佛軍の鐵道及補給設備の使用及之が了解に付共同的效果を收め得たり。

(一一) 會議は野戰軍地帯に於ける揮發油の補給及同油罐の共通運用に關することを規定し、以て聯合國揮發油協議會〔Interallied Petrol Conference〕の業務を簡單にし、且つ之に便益を與へたり。

(一二) 會議は佛國內及各國軍に於ける勞働狀態を調査研究し、之が共通運用の不可能なることを明示せり。其の結果米國出征軍に於ける勞働者徵募を掌る獨立機關の業務上一刺戟を與へたり。

(一三) 會議は一般木材及枕木に關し考究する所あり、當時會議を經由せずして佛國兵器省と米國出征軍との間は特殊の關係に依り之が協調を催進しつゝありしも、會議が之に干與せし爲、米軍が木材補給の危機に瀕しありし際に當り、佛國側の満足なる了解を得るに貢獻せしは信じて疑はざる所なり。

(一四) 會議は各國軍糧秣の定量及其の他の需要量改定の研究を遂げたり。若し戰局遷延し輸送上の危機更に甚しきに至りし時來りしならば、右研究の結果に依り輸送力を絶對的最少限に減じ得たりしならん。

(一五) 會議は一九一八年十月三十一日現在調の在佛聯合各國軍の總ての軍隊・補給品及輸送施設に關する統計的叙述を命令を以て蒐集せり。

(一六) 會議は將來の軍事研究に資する爲、在佛聯合各國軍の補給制度の共同的記述及比較研究資料を蒐集せり。

(一七) 會議は以上各項の外、多くの事項に付、聯合各國軍後方地帯に於ける補給・輸送及専門的の軍事諸事項に關し、將に遭遇せんとせし危機に應ずる爲、所要且つ適切なる準備を公正に行ふは、獨り本會議を通じて始めて之を爲し能ふことを明示せり。

(一八) 以下最後に、且つ極めて重要事に關して述べん、即ち米國出征軍及その他の聯合各國軍の參謀諸官及獨立各部長は、屢々本會議に列席し、聯合各國軍全般の狀況に關する論議を聴取し、以て各國軍の業務を一層能く了解し、以て聯合各國軍間の同種業務の協調を密にせしこと是なり。」

將來軍事的國際同盟を以て戰禍に投ずる場合に於て、先ず第一に採るべき手段は、關係聯合國に影響する補給上の一般方針を考究する爲、聯合國補給會議を構成することなるは最早之を疑ふの餘地がないのである。

第二章 補給に関する用語に就て

第一節 補給及輸送勤務

歐洲大戰に於て、各國軍の補給及輸送勤務〔英 Service of Supply and transportation 佛 Le Service des ravitaillemens et des transports〕は、何れの國に於ても一首長の統轄指揮の下に置いた。該首長の聯合各國軍に於ける職名は左の通りである。

英軍 總補給部長 [Quartermaster General]

米軍 米國出征軍參謀部第四課長 Assistant Chief of Staff, G—4. G. H. Q., American Expeditionary Forces]

佛軍 後方部長 [Aide-Major Général, chargé de la Direction de l'Arrière]

伊軍 總經理部長 [Intendente Generale]

白國軍 參謀部第三及第四課長 [Sous-chef D'Etat-Major chargé des 3me. et 4 me Sections]

右各職の統轄する事項は、各國軍若干の相異なるも概して左の如く區分することが出来る。

一 總司令官の指揮下にある地帯にある野戰軍の糧秣・彈藥・兵器・工兵材料・砲兵材料・動物等を維持し且つ之を分配すること

二 傷病者・俘虜・不用品即ち捕獲品・修理品等を後方に還送すること

三 各種輸送〔道路・鐵道・航空・水路等〕を規整し、且つ之を確保し、其の維持修繕及爾後の作戰に適應する如く施設すること

四 佛軍にては、現存電話及電信に依る連絡線を確實に維持し、又は永久線の架設をなすこと

五 野戰軍の後方を通過し、若は同地に駐屯する軍の宿營を豫定し、之が設備及之に伴ふ所要の施設をなすこと

六 野戰軍の所用の爲、本國內、同盟若は中立國、時に或は野戰軍所在地帯より來る諸材料其の他の需品を貯藏し、且つ修理若は新陳交換して良好なる状態に之を維持すること

七 交通を統制し、其の秩序を確保すること

八 占領地に行政を施行すること

野戰軍と本國とは兵站線にて連絡し、同線は本國內及野戰軍地帯内にも延長するものである。

人馬物件の後送は、概ね右補給と同一線上に於て實施した。兵站線は通常鐵道に依り、爲し得れば自動車又は他の輸送に依り之を延長し、航行し得べき水路も亦之に使用した。

第二節 各國に於ける用語

補給及輸送に関する用語は、各國軍に共通する同意義のもと、類似のものでも國に依り其の意味を異にするものがある。

英軍にて所謂兵站〔原語は Line of Communication にして即通信連絡線の意なり〕に於ける各勤務は、總補給部長の

管轄にして、該部長は同地域に於ける補給品の分配及其の一部の調達、該調達に伴ふ貯蔵の一部、並分配に伴ふ貯蔵に關する業務を統轄した。

白國軍にて所謂後方勤務 [Service de l'Arrière] は、陸軍省の調辨せる補給品の貯蔵に任じ、各種補給品の分配に關する事項に就てのみ、野戦軍總司令官の命を受けた。

佛軍の前進地帯に於ける後方部 [Direction de l'Arrière] の所管と同様の業務を掌る米軍の機關は總司令部參謀部第四課 [G-4 (G. H. Q.)] であつた。米軍の所謂補給勤務部 [Service of Supply 通常 S. O. S. と略稱す] は、米本國に於ける徵發及歐洲に於ける購買に依り調辨したるもの、貯蔵及分配に任じ、且つ之が規整停車場までの輸送を確保するを任とした。

佛軍の後方部は前節中一乃至八に掲げし全事項を管掌して居た。

伊國に於ける總經理部 [Intendenza Generale] は、軍の補給に關し責に任じ、且つ野戦軍及兵站兩地帯に於ける輸送業務を統轄した。同部は總司令部即ち最高統帥 [Commando Supremo] に直隸し、其の命令及通報を受け、又總經理部よりは最高統帥に對し報告を提出した。總經理部は其の任務達成の爲、各野戦軍經理部 [Intendenza d'Armate] と密に連繫を保持し、各軍の補給確保を期し、又内地より軍に對する補給品及人馬材料の後送に關しては關係中央行政各省 [陸軍省・兵器彈藥省・補給省等] と密接に連絡して其の業務を實施したが、總經理部は概して調辨實施に任ずることなく、各軍の所要に應じ各種補給品を配給した。而して野戦軍地帯に於ける補給品の貯蔵につき、總經理部は單に非常用特殊品の整備に任じ、通常補給品の貯蔵は軍經理部の任務とした。

各國軍に於ける補給上地方的區分の詳細は後に第八章に於て詳述する。

補給及輸送勤務の統制に關し、佛軍の後方部長及伊軍の總經理部長は、米軍の總司令部參謀部第四課長と共に、何れも同様の任務を有せしも、英軍の總補給部長は聊か趣を異にし、總司令部に於ける一部の主任幕僚として、米軍の參謀部第四課長の業務に加ふるに、同軍の補給勤務部長 [Commanding General, S. O. S.] の夫をも擔任する者に略等しいものであつた。〔譯者曰く、米國の補給勤務部長は兵站總監と譯するものもあり。〕輸送業務に關し佛軍の規整委員 [Commission Regulatrice] は、米軍の規整係將校 [Regulating officer] と全然同様なるも、伊白兩軍に於ては之と全然同様のものではなかつた。又佛軍の所謂規整停車場 [Gare Regulatrice] は、米軍の同名のもの [Regulating Station] に事實上何等異なる所がなかつた。又米軍の鐵道端末 [Railhead] は、一定限度の補給品を貯蔵するものにして、佛軍の補給停車場 [Gare de Ravitaillement] 及白國軍の師團停車場 [Station Divisionnaire] に等しきも、伊軍には之に類する施設はない。同類語と雖、某國軍にて使用するものと、他國軍にて用ふるものと、其の意義を異にするものがある。以下其の重なるものにつき、若干の解説を試みる。

英軍にて通常の場合使用する Supplies なる語は、糧秣に燃料・揮發油及脂油を包含するものを意味し、米軍にて同一語を以て、一般補給品を總稱すると各其の用例同一でない。米軍にて使用する Supplies に相當する用語として、英軍にては Store を用ふる。例へば、英軍の所謂 Ordnance Store なる語の意義には糧秣・揮發油・燃料・衛生材料及獸醫材料以外の他の總ての補給品を包含するのである。

白國軍に於ける補給 [Ravitaillement] なる語は、單に糧秣補給を意味し、之に他の語を附し其の他の軍需品補給の

意を表せしめた。例へば彈藥補給には *ravitaillement en munitions* と稱するの類である。米軍にて所謂補給 [Supply] は、佛軍の補給 [ravitaillement] と其の意義を同うし、又米軍の兵器々材 [Ordnance] は兵器・彈藥及砲兵器材等を意味するものにして、糧秣補給は特に要すれば經理補給品 [Quartermaster supplies] と之を稱した。

佛白兩軍の補給 [Ravitaillement] なる語及伊軍の同類語たる *Rifornimenti* は、一般的の總括名稱にして各種補給品を包むのみならず、補給に關連する作用即ち輸送及分配の意義をも包含せしめた。

人馬及補給品の輸送に使用せし自動車にも、各國特有の名稱がある、即ち英軍にては之を *Lorry*、佛白兩軍にては *Cannon* 米軍にては *Motor truck*、又は *Truck* 伊軍にては *Autocarri* と呼んで居た。

鐵道輪轉材料も各國軍の稱呼は同一ならず、鐵道貨車を英軍にては *Truck*、佛白兩軍にては *Wagon*、米軍にては *Car* 又は *Freight car*、伊軍にては *Corri ferroviari* と稱した。

裝甲自動車の無限軌道式のもの即ち戰車の各國に於ける名稱を述べれば英米兩軍にては之を *Tanks* と云ひ、佛軍にては當初 *Chars d'assaut* と呼び七五密火砲を搭載せしが、後 *Chars de combat* と改稱し、伊軍にては *Carri d'assalto* と稱へた。

第三節 佛國に於ける特殊語

兵站地帯 [Zone des Etapes]——野戰各軍地帯 [Zone des Armées] の一部にして、前進地帯 [Zone de l'Avant] 軍司令

官の所管]と後方地帯 [Zone de l'arrière] 總司令官の直轄]との中間を云ふのである。即ち軍若は狀況に依り軍集團占領地區内にあつて、軍集團司令官の直轄とし、同司令官は隸下各軍の所要に應じ、宿舍・糧秣及其他の補給品を各軍に配當する地帯を云ふのである。

兵站司令部 [Direction des étapes]——各兵站地區の司令部として之を設け、同部長 [Directeur des étapes] 少將を以て充つ]は所管地區内の指揮權を有し、軍集團司令官より附與せられたる各種方法手段に依り地方資源の開發に任ぜしめた。右軍集團司令官は之が爲、所要の兵力其の他の供出を隸下各軍司令官に配當した。

戰團兵局 [Direction d'Arme]——陸軍省内の局に對する名稱にして、特に某一兵科〔歩兵・騎兵・植民軍等〕に關する總ての事項を統一し、其の編制・規定の編纂、人事其他當該兵科の總ての事項の研究に任ずるものである。

勤務局 [Direction de Service]——是亦陸軍省内にある局の名稱にして、特に某一部〔經理部・會計検査等〕の業務の統轄を任とし、大臣に提出すべき事項の審査、其部の採るべき方針に關する調査及人事に關する諸事項を管掌するものである。

戰團兵及勤務局 [Direction d'Arme et de service]——是亦陸軍省内の或局に對する名稱にして、前記戰團兵局と勤務局との業務を一局長の下に併せ掌るものにして、例へば砲兵局 [Direction de l'Artillerie] は戰團兵科たる砲兵に關する事項及砲兵勤務〔註、砲兵用資〕を、工兵局は同じく工兵に關する事項及工兵勤務を併掌するが如きものに對する總稱である。

勤務部 [Service]——軍隊に要する被服・裝具・糧秣・兵器・彈藥其他各般の資材補給上、之が準備及實行の任

に當る機關に對する總稱にして、此等補給品の經理をも管掌する。但し戰鬥兵に對しては、其の需要を充す以外何等關與する所はない。

第三章 補給制度の概要

第一節 各國の中央補給機關

大戰中、聯合各國軍の實行したる補給制度は、大體に於て各國を通じ極めて相互近廻して居た。故に各國軍に於ける各種軍需品の補給方法も大同小異にして、多種多様な資材の補給も、一般概則に依りて支配せられ、以下述ぶる所の如きことは必然之が實施を要するものなることを明示した。

(一) 各戰場に於ける既製品需要量の策定

右策定の爲、英國は陸軍省、米・佛・伊各國は陸軍省及總司令官をして之に任せしめた。

(二) 前項に對する所要原料需要量の算定

右算定に任せし各國の機關は左記の如し。

英國 兵器省 [Ministry of munitions] 及他の關係各省

白國 陸軍省

米國 陸軍省各補給擔任部局

佛國 關係各省

伊國 兵器省その他

(三) 前項所要原料の調辨

右調辨に任せし各國の機關は左の如し。

英國 兵器省及陸軍省

白國 陸軍省兵器及技術勤務局 [Direction Generale de l'Armement et des Services Techniques de l'Armée et le Ministère de la Guerre]

米國 陸軍省參謀本部所屬の購買・貯藏及輸送部 [Purchase, Storage, and Traffic Division of the War Department, General Staff]

佛國 關係各省

伊國 關係各省

(四) 工場へ原料の輸送

右輸送に任せし各國の機關は左の如し。

英國 船舶省 [Ministry of Shipping] と連繫して、陸軍省及兵器省

白國 陸軍省 [同省道路及交通局—Direction des Voies et Communications 主管]

米國 運輸諸機關と連繫して陸軍省

佛國 工業及運輸省 [Ministère des Travaux Publics et des Transports] と連繫して關係各省
伊國 運輸省と連繫して關係各省

(五) 集積倉庫へ既製品の輸送

右は集積業務の開始を意味するものにして、各國に於ける之が主務機關左の如し。

英國 兵器省及陸軍省、而して集積諸倉庫を總稱して勤務倉庫 [service depots] と云ふ。

白國 陸軍省、其の集積諸倉庫を根據地倉庫 [base depots] と稱す。

米國 陸軍省、集積すべき諸倉庫を勤務倉庫 [service depots] と稱す。

佛國 關係各省、而して集積すべき諸倉庫は之を集積品に依り區分し、造兵廠 [arsenaux] ・一般豫備倉庫 [entrepôts de réserve générale] 又は停車場倉庫 [Station-Magasins] と稱す。

伊國 關係各省、集積すべき倉庫は、之を豫備廠と總稱し、陸軍官營工場及第一次集積場を兼ねるものとす。

(六) 既製品の需要〔連續的ならざる特別需要〕

以上各項の順序に依り、内地々帯に於ては、各種補給品を各關係集積倉庫に送付し、出征軍總司令部は、特別の需要を生じたる場合は、之を關係倉庫に請求せしめた。

(七) 自國領土以外にて作戰せる各國軍に對する補給は〔イ〕請求を待たず自動的になすもの、又は定期形式的請求に依るもの及〔ロ〕請求に基く特別補給品に區分し、何れも之を一定の倉庫に前送した。該倉庫は最後の集積場にして、且つ各品種區分をなす最終のものであつた。此等諸倉庫を英軍にては根據地若は前進倉庫 [Base or advance depots] と

云ひ、白國軍にては野戰軍根據地倉庫、米軍にては中間及前進倉庫と稱した。

(八) 作戰地に於ける補給品の第一次〔最初の〕分配の爲、各國軍の實施したる概要左の如し。

英軍 規整停車場は單に前送を掌る機關とし、主として其の業務を行ひ、品種區分の如きは根據地若は前進倉庫にて實施した。

米佛兩軍 前述諸倉庫より前送りし補給品は規整停車場にて先づ配給區分を定めた。

(九) 次で補給品は、各野戰軍毎に各其の鐵道末端若は之に準すべき地點に前送り、同地點にて第二次の前送區分を行つた。該補給品は軍・軍團及師團の各倉庫を経由し、軍隊に交付するものにして、是れ其の分配の最終の階程である。但し白國軍に於ける普通補給品は師團末端停車場 [Station Divisionaire] を經て直接軍隊に交付し、又伊軍に在りては前記(六) 以下に記せる補給法に必ずしも依ることなく之を實施した。

事實上、或る種の材料に對しては、製造工場が一面一の豫備倉庫としての作用をなし、其の製造を直接中央集積倉庫に送付せるものもあつた。又或る他の材料及干草並藥の如きは中央集積倉庫を経由せず、蒐集地より直接各軍の前進倉庫へ送付した。

第二節 集積及貯藏機關

根據地若は中央倉庫より、直接軍隊に補給品を追送することを得ば、時間及倉庫設備等を省略するを得るも、調辨の便否及軍隊所在地移動の爲、特に貯藏所設備をなすの必要があつた。之が爲各國を通じ何れも根據地・中間地及前

進地に各集積所即ち倉庫を設けた。此等倉庫施設の概要は以下所述の如くであつた。

〔a〕 根據地集積 根據地倉庫又は總豫備倉庫に於ける集積の方法は二様に分つことが出来る。即ち英・白・佛及伊各國軍は、補給品の製造工場又は資源地との距離短少なりしを以て、根據地又は總豫備倉庫にてなせし補給品の品種に依る分類は、其の輸送途中之を維持するを得た。然るに米軍に在りては、本國にて資源地より港灣に到着せし列車の積載品を極めて速かに卸下し、又之を極めて速かに船舶に搭載し、以て滞荷なからしむるを要し、且つ本國港灣と出征地との間に大西洋ありて之を隔つるを以て、船舶の輸送能率を發揮するには其の往復を極力迅速ならしむること、に努めなければならぬ。而して佛國港灣の吃水深き船舶の出入に不便なること及其の揚陸設備の不完全なることは、天候の不順及敵潛航艇の出現と相俟つて、諸所に分散せる各根據地にて、各種補給品を雜然區分することなく受領せざるを得ざる状況の下にあつた。故に米軍の根據地は、補給品を主として迅速に處理することに努め、其の分類整理は、之を中間倉庫若しくは前進倉庫にて實施せしめた。

〔b〕 中間集積 各國軍は何れも、野戦軍と根據地との間に、補給品を分類整理して、之を集積する倉庫を設けた。該倉庫は第一線部隊より相當の距離を隔て、爲し得る限り敵の爆撃を免るゝ處に位置せしめ、且つ爲し得れば、規整停車場を経て十二時間以内に補給品を軍隊に交付し得る地點に在らしめ、又一方根據地又は總豫備倉庫とも十分の距離を隔て相互混淆することなからしめた。

〔c〕 前進集積 軍隊に其の必要とする總ての補給品を供給する爲、若干の現品は、之を軍隊の附近に集積した。但し集積量は最少限とし、以て軍隊が迅速に移動する際、不用となり、若しくは敵手に落つるの危険防止を期し、單に一部部の戦闘正面の日々の需要を充すのみに留めた。

第三節 補給品の性質上の區分

補給品又は諸材料の内には、規律正しく絶えず追送を要するものがある。此の種の需要は常續的にして日々の需要量も定まつて居た。之に屬するものは糧食・馬糞及機器用揮發油にして、此等は何れも自動的に送付し、何等の要求又は請求等を待たず之を軍隊に供給した。

然るに他の種の補給品は、特殊の状況に依り其の消費量を異にするものにして、彈藥・工兵材料即ち有刺鐵線・木材・架橋材料の類で、此等品種に對する軍隊の要求は、當面及豫定の作戰上の必要に基いて決せられたのである。

右兩種の外、尙他の種別に屬する補給品がある。其の給與量は編制表又は定量表にて定まれるものなるも、現地の状態に依り消費量に差異を生ずるもの、例へば個人供用の被服・裝具・兵器・通信裝備及自動車の如きものにして、准自動的に間斷なく追送を要するものである。此の品種の特殊交付を受くる必要がある場合は、軍隊より之を請求せしめた。

自動的に送付すべき補給品は、將來の需要量を稍正確に陸軍省にて豫定し得たるを以て、總ての補給品は、爲し得る限り、自動的にたらしむることを希望して居たのである。

第四節 補給品の所在位置

補給品は後方より第一線に縦長を持して梯形に集積せられたが、是れ單に後方より野戦軍地帯に至る間に於てのみならず、同地帯内に於て消費者そのものに至るまで此の形式に依り、且つ集積諸倉庫の容積は第一線に接近するに従つて減少せしめた。

各國軍にては左の如く集積區分を維持することに努めた。

英 軍

野戦補給倉庫 鐵道端末地に於ける缺乏に際し之を補ふ爲、若干の少豫備

前進倉庫〔規整停車場附近〕 主として糧秣・揮發油及脂油の十四乃至三十日分

根據地倉庫 根據地屯在部隊の爲二十日分

英 本 國 生産の最大限

白 國 軍

Calais 地方所在野戦軍根據地 糧秣二十乃至四十日分

Le Havre 根據地 被服六乃至十二ヶ月分、糧秣二ヶ月分

米 軍

鐵道端末地 糧秣二日分

前進倉庫〔規整停車場附近〕各種補給品十五日分

中間倉庫 各種補給品三十日分

根據地倉庫 同上四十五日分

佛 軍

前進集積場 規整委員の要求に従ひ、約二日分

規整停車場附近の中間倉庫 豫備品四日若は五日分

停車場倉庫〔糧秣及衛生材料〕十五日分

總豫備中央倉庫〔彈藥・工兵材料・被服等〕三ヶ月分、但し激戦間は貯藏品の消費著しく、在庫量激減す。

内地〔政府各省調辨の補給品〕最大生産若は調達の最大限

伊 軍

糧食隊〔陣地戰に於ける〕 糧食二乃至五日分

右糧食隊は糧食等の移動的機關なりしが陣地の固定せし結果、小補給倉庫となつた。

前進倉庫 糧食十日分

中央倉庫 糧食十五日分若は二十日分

國 内 生産の最大限

以上の如く、野戦軍不時の要求に應じ得る如く、豫備補給品集積量を決する爲には、各般の要求を考慮する必要があつた。即ち本國根據地よりの輸送距離、敵潛航艇の危険程度、使用可能の輸送力、海外根據地より軍隊に至る距離、現地調辨可能量、作戦地即ち野戦軍地帯に於ける輸送の交叉に基く困難等は、以上の豫備集積量決定の主なる要素を

なしたものである。

英國及佛國にては、本國內地所在の倉庫に一定日数の豫備集積をなすことなく、各工場は其の全力を擧げて最大限の生産製造に努め、其の製品は陸軍省の命する所に依り豫備倉庫に送り出した。此等豫備倉庫よりは各戦場の要求に従ひ更に送付せられたが、佛白戦場に於ける英軍は、爲し得る限り佛國領土内に保有する補給品の數量を最少限に留めることに努めた。白國及伊國にては、國內生産の不足を充たす爲、他國よりの輸入に俟つものが少くなかつた。特に伊國に於ては鐵道の不足及作戦地が大部分山地なりし爲、前進部隊の補給に尠からざる困難を感じ、其の結果前進倉庫の集積量を増加し置くことを極めて必要とした。米國にては、其の出征軍に三ヶ月分の豫備補給品を保有する如く企圖せしも、遂に之を實現するに至らなかつた。

佛國にて實施したる方式に依れば、各種補給品は陸軍省の命令に基き、自動的に總豫備倉庫に到着し、同倉庫は更に其の集積量を規定せられたる停車場倉庫若は之に類する次位的の倉庫に送付した。此等停車場倉庫等は特に陸軍省の命令に依り充足せらるゝもので、同倉庫は總司令官の命令に依り、補給品を各所の規整停車場に前送りし、規整停車場は何れも一若は二以上の停車場倉庫より一定の送付を受け、之を其の補給擔任の各軍に送付した。

英佛兩軍は輸送途上、其の流通口を扼するが如き地點なく、従つて陸軍省若は内地帯より、野戦軍に最大生産を順調に輸送するに當り、港灣設備の之を妨ぐるものなかりしのみならず、其の補給兵員の數も殆んど一定限度に達してあつたが、米軍に在りては全然之と事情を異にして居つた。

第五節 倉庫の位置

各國に於ける各種倉庫、即ち補給品貯藏所の位置選定の方法は、彼此何れも之を異にして居た。

英軍の方式は、英本國より海外諸々の根據地——Dunkergue, Calais, Boulogne, St. Valéry, Dieppe, Le Havre——に補給路を取るもので、米軍の根據地の如く著しく本國と隔絶せるものではない。此等英軍の根據地諸港は補給品を分類して集積せしのみならず、規整停車場の任務をも併せて之を行つた。而して該倉庫よりの補給品は、二個の兵站線に前送りせられ、第一線部隊に至らしめた。此の二個の兵站線中北方のものは、其の延長比較的短少なりしを以て、中間集積を要せず、又は輸送線の交叉するものなかりして以て、該線上には前進倉庫を置くことなく、前送品の規整は之を根據地にて實施した。然るに南方兵站線は比較的遠く延長し、之に對する補給資源地も亦比較的多くの地に分れありし故、該線上には所要の地に前進倉庫を設けた。

Le Havre に於ける白國軍の根據地は、廣く各所に散在せる資源地より補給を受け、佛軍と共同使用の鐵道に依り更に Calais 所在の野戦軍根據地に對して補給し、後者より野戦軍に至る區間は、一條の兵站線を以てした。米軍は先づ各所に散在せる根據地諸港——Le Havre, Brest, St. Nazaire, Le Rochelle, Bordeaux, Marseille,——にて補給品を受領し、此等根據地倉庫より Chevreux 附近に於ける倉庫に送付した。該倉庫にては補給品を品種に依り再分類をなし、一大豫備倉庫となりて、規定集積量以上に達せしものを、一條の兵站線に依り前進倉庫及 Tenthfield に在る主規整停車場に前送した。〔註、本主規整停車場は、百萬人の補給を目途とせり。米軍の漸増を豫期し之〕佛國にては國內諸處に總豫備倉庫〔註、に等しき大規整停車場を Tenthfield 構築せんとして工事着手せり〕

〔Entrepôts de Réserve (Réservoirs)〕及停車場倉庫〔Rations Magasins〕を設け、此等倉庫より無数の鐵道線に依り規整停車場に補給品を送付した。

伊軍にては、補給品の資源地を國の内外に設け、國內到る處及最重要の港灣には、總豫備倉庫を設け、該倉庫より數個の兵站線を設置して中央倉庫に補給品を送付し、中央倉庫よりは更に前進倉庫に、同倉庫より戰闘部隊に補給した。而して或る軍に對する兵站線は其の距離の關係上、中間倉庫を設けたるものもあつた。

第四章 補給機關としての各國陸軍省の編制

本章に於ては休戰當時に於ける交戰各國の陸軍省〔英 War Office、米 War Department、佛及白 Ministère de la Guerre、伊 Ministero della Guerra〕の官制中、主として補給業務擔任の部局に關して概要を述べることとする。各國の陸軍省の官制は戰役中或は戰況の推移に依り、或は一般的政治上の願應より、或は又國內政治の狀況に應じて變化せし故、全戰役間を通じて以下所述の如き制度を常に採つて居たものではない。

英國にては戰時中兵器省を新設し、又空軍省を陸軍より獨立せしめたるを以て、茲には單に陸軍省に關するものを述べる。戰前に於て軍需品の調辨は同省財務局契約課の任ぜし所なるが、戰時中新に調達局長〔Surveyor General of Supply〕なる一局長を設け、兵器省擔任の兵器彈藥及空軍省擔任の航空兵器々材以外、總ての軍需品調辨を統轄せしめ、各種軍需品の配給保管施設は補給局長〔Quartermaster General〕をして、輸送業務は輸送及鐵道局長〔Director General of Move-

ments and Railways〕をして、又人員に關する諸問題は軍務局長〔Adjutant General〕をして各統轄せしめた。而して陸軍會議〔Army Council〕は省内各局長を以て構成するものなるを以て、同會議をして各部局業務の綜合統一に當らしめた。

休戰當時白國陸軍省に於ける補給業務機關を述べれば、人員問題に對しては參謀局第一課〔Première Direction Générale〕之が責に任じ、其の補充事務は大臣官房の一特別課をして當らしめ、又同課の下には陸軍檢閱監〔Inspecteur Général de l'Armée〕を置き、同官をして新入兵教育の各地機關を指揮せしめた。又衣糧以外の軍需資材の調辨及其一部の製造は兵器及技術勤務局長〔Direction Générale de l'Armement et des Services Techniques de l'Armée〕をして主管せしめしが、糧食及被服品の調辨は獨立の民需及軍需經理省〔Ministère de l'Intendance Civile et Militaire〕をして統轄せしめ、以上各種軍用資材の輸送は陸軍省輸送及交通局〔Direction des Voies et Communications〕をして主管せしめた。

休戰時米國に於ける各種軍需品の調辨は陸軍省内の一部たる參謀本部購買・貯藏及運輸課購買班〔Purchase Branch of the Purchase, Storage and Traffic Division, General Staff〕監督の下に統一し、配給貯藏は同課貯藏班にて、輸送は同課運輸及輸送班にて各統轄せしめた。又當時に於ける人員問題は參謀本部作戰課〔Operation Division〕の掌りし所にして、法規の制定、戰時諸計畫及訓練は同部戰時計畫課〔War Plans Division〕をして之に任ぜしめた。

佛國に於ける陸軍大臣は軍の補給補充に對する責任者なりしを以て、此の點に關しては直接出征軍司令官の權内たる作戰地域を除きては佛國全土に其の權限を及ぼして居た。之が爲同大臣の補佐機關として陸軍省内に〔一〕大臣官房〔Cabinet du Ministre〕〔二〕數個の次官局〔Sous-secrétariats d'Etat〕〔三〕參謀本部〔L'Etat-Major de l'Armée〕〔參謀本部には

軍地域に關する事項を擔任する前方地帯課と、他省と連]及[四]各種戰鬥兵科及軍政勤務の各局を有し、兵器彈藥の製造及軍地域外に關する事項を擔任する内地地帯課あり]は兵器省 [Ministère de l'Armement et des Fabrications de Guerre]をして之に任せしめた。斯く佛國陸軍省は軍需品の調辨上、米國の陸軍省の如く集中統一の機關を設けずして終始したのである。

伊國陸軍省は參戰當初、各種軍需品の購買・準備及配給を主管し、各局長 [Divisioni Generali]に相當行政上の權限を附與し、此等局長を通じて右業務を實施せしめ、陸軍省參謀局 [Divisione Stato Maggiore]をして陸軍大臣の指示に基き各局の業務連繫を保持せしめた。然るに爾後軍隊の増加と一般國民の需要と相俟つて中央行政組織を變革するの要を生じ、(一)兵器彈藥省 [Ministero della Armi e Munizioni]、(二)航空次省 [Sottosegretariato per l'Aviazione]及(三)補給及消費省 [Ministero degli Approvvigionamenti e Consumi]を新設し、陸軍省より獨立して資材の補給に任せしめた。而して當時陸軍省は人員及某種の補給品に關する事項を掌りしが、各省間の協調連繫は大臣會議 [Consiglio dei Ministri]が之に當ることにした。

第五章 各國政府間、各省間及政府と總司令部との關係

第一節 國際諸機關

一九一四年八月初旬補給國際委員 [Commission Internationale de Ravitaillement]なる一委員を設置した。同委員設置の目的は英佛兩國政府の購買に協調せしむるに在つたが、爾後其の範圍を擴張し、其の他の聯合國の購買問題全般を包

括するに至りし爲、此等諸國間の競争を防止し、且つ各國の所要を充たすを得しめた。一九一六年に至り該委員の業務は一層進展し、特に英本國以外の市場に於ける聯合各國の購買及購買品の輸送に關し協調を緊密にした。

一九一五年十二月、英・佛及伊三國政府は小麥・麥粉及玉蜀黍の共同調辨の制を設けたるが、其の後約一年を経て三國政府は更に協定をなし、小麥調辨實行部 [Wheat Executive]なるものを設け、各國より一名宛の代表者を出ださしめ、三國にて要する小麥及麥粉〔其の他爾後の協定に依り追加すべき穀類〕の配當及輸送の處理に當らしめた。後右實行部の業務範圍は玉蜀黍・大麥・米・ライ麦・豌豆・蠶豆及燕麥に及んだ。

右小麥調辨實行部は極めて有效なる機關たることを事實證明せしを以て、他の所要品に對しても同様の機關を設くる必要を認め、一九一七年十二月には、肉類及動物性脂肪の共同調辨實行部を置き、前記三國以外の聯合國の所要をも共同調辨することとし、之と前後して植物性脂肪・油種・砂糖及硝酸曹達の調辨實行部を創設するに至つたが、此等實行部の組織は漸次擴張して英國揮發油調辨實行部に對する一顧問機關として聯合國委員をも設置した。

尙此の種施設の一として、英國陸軍省は獸皮の管理を實行し、以て補給國際委員をして露・羅・伊及白各國軍に對し、最低價格を以て迅速に軍靴を補給するを得しめ、又一九一七年四月より印度政府は印度產牛皮及犢皮を管理し英伊兩國政府に對し之を供給し、以て從來相互政府間又は民間當業者と競買せし場合に比し著しき價格の低減をなすを得た。當時又補給國際委員長を首座とせる他の一委員を組織し、聯合諸國の爲、羊毛及同製品〔羅紗を除く〕の供給を統一し、軍需及民需の要求は先づ該委員をして處置せしむることとした。

一九一七年秋、米國に於て實施せる或る種の爆藥及爆藥製造材料の調辨は、歐洲聯合諸國の爲に特に設けられたる聯

合國委員の助言の下に英國政府單獨に之に當り、該市場に於ける相互の競買を避けしめた。又西班牙産鉛の共同調辨の爲聯合國にて一國際委員を組織し、又其の他の金屬類調辨に關し聯合諸國協議の結果、米國にて調辨する金屬に對しては、米國政府所定の價格以上を仕拂はざることとした。

露國代表者が補給國際委員を通じ、大量の軍需品及諸材料の需要を訴へしを以て、之が處理の爲、一九一七年三月一委員を設け英國の戰時内閣の一閣員を以て委員長とし、補給國際委員は急を要する諸事項及閣議の決定を要する如き權限上の諸問題に關して、右委員長と商議せしむることとした。而して該委員は「ベトログラード」に駐在して露國政府と常に商議し、其の代表者と連絡を保持し、所用品の型式及緩急順序を明かにした。斯の如く委員が常に必要とする情報を明かにしあることは、露國に對する所用品供給上、極めて有利なりしを以て、後に至り羅國に對する資材の供給にも同様の方法を採用した。然るに露國は一九一七年末に至り革命の爲、同國に對する委員の業務は自然休止するに至りしも、羅國に對しては特に一委員を「ワルシャ」に置き、同國の需要品調辨に協力し其補給の統制に任せしめた。

是より先き、米國の參戰と共に、同國に於ける聯合國軍需品調辨問題を處理する特殊の一機關を設くるの必要を生じた。即ち米國政府の要求に基き英國政府は倫敦に聯合國會議を設置した。同會議には佛・露・伊及英各國の代表者を包含し、米國に於ける聯合各國政府の需要の調査及其の統一を掌らしめ、以て爲し得る限り此等諸國への資材の供給及財政的援助の緩急順位を定めしめた。同會議々長は米國大藏次官（Assistant Secretary to the United States Treasury）を以て之に任じ、米國に於ける戰時産業院（War Industrial Board）の創設と相俟つて、米國內に於ける聯合各國間の競

買を阻止し、且つ米國政府をして、歐洲聯合各國の的確なる要求を明かにし、最も有效なる方法を以て此等諸國への供給を處理統制するを得しめた。

一九一六年十二月、英佛兩國政府（後に伊國をも加ふ）は一協定を設け、中立國備船契約を統制する爲、倫敦に其の國際實行部を設くることとなつた。是より先き同年四月補給國際委員長を首座とする一聯合委員を設け、聯合諸國の爲最も有利なる備船料を以て中立國の船舶を備役するの手段を採りしが、前記協定に依り一九一七年一月十五日其の實行部は第一回の會合を催ほし、爾後中立國船舶の備役に關する總ての交渉を統一するに至つた。

上來述べし所は、各國政府間の協調方法の概略にして、各國政府が主として原料の獲得上共同して採りたる手段なるが、之と同時に等しく各國の協調を必要とせしものは、野戰軍に對する既成品の補給及同軍指揮官が事實上必要とし及豫め將來の所要を顧慮して統制する補給品に對する列國の協調であつたので、遂に野戰軍の後方地域に於ける補給及輸送の協調を確保する爲、聯合國軍事補給會議（Military Board of Allied Supply）を組織した。従つて同補給會議若は其の代表者と上來述べし各種國際委員とは常に密接なる連絡を保つを必要とするに至り、此の兩者の連絡機關の設置に關し右補給會議及各種國際委員間、並同會議及野戰軍の補給及輸送部長間に屢々意見を交換した。此等意見の詳細は後章意聯合國軍事補給會議に就て述ぶるに當り詳述することとする。

第二節 糧食統制機關

大戰の勃發に當り、英國政府は主要食品在荷に關する情報蒐集の爲、内閣附屬の食料供給委員を置き、特に國民の

需要に對する穀類供給の狀況に注意し、漸次歩を進めて遂に小麥の輸入管理を政府の手に收めた。即ち一九一六年十月國立小麥供給委員會〔Royal Commission on wheat supplies〕を設け輸入小麥を完全に管理し、該小麥の製粉業者への賣渡價格をも規整した。又是より先き開戦第一週たる一九一四年八月初頭英國政府は砂糖の輸入に對し統制をなすの準備に着手し、同月中、國立砂糖供給委員會〔Royal Commission on the Sugar Supply〕なるものを置き、砂糖の調達及之が分配の規整に當らしめた。此の外戦争の初期より商務省〔Board of Trade〕は軍隊所要の冷凍獸肉輸入の管理に着手する等英國に於ける糧食統制は品種に依り個々の機關にて處理せしめたるが、一九一六年十二月二十二日食糧省〔Ministry of food〕を設け、此等糧食問題を一途に統轄するに至つた。

英國が以上の如き處置を採りし時に於て、廣く聯合國に於ける糧食狀況を見るに、農業勞力は軍隊への徵募及軍需工業への吸収に加ふるに、一九一六—一七年小麥の一部減收と相俟つて、主要食品の一般的不足を訴へ且つ遠隔せる資源地よりの輸送は、船腹を最も有利に使用するを必要とせし等、之が利用には種々の故障があつた。此等の狀況に鑑み一九一七年八月米國食糧長官〔Food Administrator〕の發表せし公文に依れば、歐洲聯合諸國穀類の收穫は平年作に比し少くとも五億「ブツシェル」の減收を示すに拘らず、一方に於ては戦争の激動勤務に服する多數の者に供給する爲、平時に比し一層多額の獸肉及動物性食物を必要とした。然るに其の世界的供給は不利の狀況となりしと共に、聯合國は家畜三千三百萬頭以上を屠殺せざるを得ざるに至り、之が爲爾後の動物生産率を著しく減少した。尙米國食糧長官の述ぶる所に依れば、佛伊兩國の如きは従來自國所要の砂糖は之を自國にて生産せしも、其の産額三分の一に減少し、又英國の如きは従來の資源地以外の遠隔せる地に砂糖の供給を求め、且つ之が輸送に努めざるを得ざるの要

に迫られた。

英國は食糧省創設に至る迄砂糖以外の糧食品の配給に對し政府の監督若は統制の機關を缺いで居た。元來糧食品の配給問題は消費者に對する強制定量方式の程度、輸送力の状態、冷蔵の装置、集散狀況等種々の事情に依り其の手段方法に變化を來すものにして、従來何れの國も實際問題として當面せざりし所なるが故に、其の解決には極めて困難を感じた。

米國にては一九一七年八月十日所謂「レヴァア法」〔Levee Act〕なる法律に基き、食糧長官に所要の命令規則を發するの權限を附與したが、之に依つて始めて、米國より英國に輸入する糧食品の價格を安定せしむることとなり、同長官が之に協力するの權能を有するに至つたのである。又加奈陀食糧大臣は一九一七年六月十九日始めて任命せられしが、爾後英國に對する供給糧食品の價格は、従前に比し約半減することを得、以て英本國産の糧食品の價格をも低下するを得ることとなつた。而して前述の如く米國が食糧長官を任命せし以前は米國に於ける糧食品購買に關し、歐洲聯合國間、甚しきは一國の各省間に激しき競争を惹起し、従つて價格の昂騰を來したこともあつたのである。

英國に於ける食糧省設置後、補給業務上最も重要な進展を見たるは、聯合國戰時調達及財務會議〔Inter-allied council on War Purchases and Finance〕の設置である。同會議の設置に依り、佛・伊及英各國の糧食品及之に伴ふ財務及船腹に關する需要は共同統一したる形式にて物資の主資源地たり且つ財政上援助をなせし米國に向つて要求するに至つた。蓋し當時歐洲聯合國に於ける主要糧食品の六五％は北米大陸より供給せしを以て、斯の如き統一機關の設置の必要を生じたのである。本會議は従來複雑多岐なりし調達制度を綜合統一せしものにして、表面之が爲顯著なる變革

を示さざりしも、實質に於ては總ての糧食品を私人の手より移して政府管理の下に各國に輸入せしめ一種の經濟的革命を遂行せしもので、之に依り、英・佛及伊各國に輸入せし糧食品は、僅少の例外を除き、殊に設置したる機關を仲介とし各國政府に於て實際購買し且つ之を輸送せられたのである。かの英國に於ける小麥委員及同購買實行部等が食糧省創設以前より存在し、同省設置後も尙同省と連繫して之を存置せしが如きは、此の間の消息を語るものに外ならぬ。此の種機關は或は國際的のもの、或は半國際的の性質を帯ぶるもの、又は品種に依り其の業務處置方法を異にするもの等があつた。此等に關しては以下述ぶる所に依つて其の概要を示すこととする。

聯合國戰時調達及財務會議の獸肉及脂肪調達實行部〔Inter-Allied Meat and Fats Executive〕は英・佛・伊各國の代表者各一名より成り、毎月三國の所要量を蒐集し、需要に對し供給不足する場合は、適宜配當量を減じて、利用し得べき限度にて各國に分割配給し、不足量に對しては在紐育の聯合國供給輸出委員も亦英・佛及伊三國の代表者を以て組織し、米國に於ける糧食品〔穀類及砂糖を除く〕の購買に任ずるものにして、前記聯合國獸肉及脂肪調達實行部よりの購買命令に基き其の實施に當らしめた。而して其の購買の實施に際しては先づ米國食糧長官に其の所要を申告して承認を経たる後、右實行部に於て購買の時期を定め、指値に依り取引を實施した。之が契約は各國各別に其代表者に依り締結せられ、輸送に關する處理も亦各國の代表者各自國の爲に其の衝に當つた。然るに生獸肉及罐詰類にありては聯合國に於ける毎月の所要量を前記實行部より米國側の機關たる共同購買部〔Division of Coordination of Purchase〕に通知し、同購買部は毎月正當と認むる價格を指定して、聯合各國の需要を在荷の狀況に應じて適宜區分配當し、之を同じく米國側の機關たる罐詰業委員〔Packer's Committee〕に告達し、同委員は更に各當業者に之を配當供給せしめた。斯く現在

品の供給のみにて需要に對し尙不足するときは、該不足量に對し前記共同購買部を通じて入札せしめ、聯合國代表者は即時其の採否を決し、購買決定したるものに對しては、各國毎に契約を締結し、尙輸送其の他の要件を限定した。

英・佛及伊三國の米國に於ける糧食品購買は大要以上の方法に依り、之を實施したるもので、要するに購買所要品の決定は在倫敦の三國代表者より成る一團之に當り、其の實行は在紐育の他の一團之に任じ、在倫敦の調達實行部に代表者を有せざる白・葡其の他の聯合國の所要も之と同一の系統に依り其の所要品の購買を實施した。

脂油及脂肪類調達の爲には其の後聯合國脂油及種子調達實行部〔Inter-Allied Oil and Seed Executive〕なる一機關を設け、前記聯合國獸肉及脂肪調達實行部と協同して之と同一の方法に依り、在紐育の聯合國供給輸出委員を通じて其の業務を實施した。同實行部の取扱に係る品種は重油・人造牛酪・獸脂・硬脂等であつた。

又小麥調辨の爲には倫敦に實行部を置き、在紐育小麥輸出商會をして之に當らしめ、同時に加奈陀に於ける穀類の購買及輸出の爲該地に同種の機關を設置した。

砂糖の調達に就ては、獸肉及脂肪の場合と其の方法を異にして居た。即ち曩に一言せるが如く、英國は食糧省創設に先立ち國立砂糖供給委員會なるものを設けて之が調達に任せしめ、一九一六年初期より同委員會は佛國の爲、尋で他の聯合國の爲、砂糖購買の勞を取り、一九一七年九月米國食糧長官の發議に基き國際砂糖委員〔International Sugar Committee〕なるものを紐育に置き、玖瑪及米國産砂糖の購買及配當を統一せしめたのであるが、是に至て英國の砂糖供給委員會は其の代表者二名を新設の在紐育委員に送り、斯くの如くして聯合諸國の砂糖調達業務を完全に統一するに至つた。而して英國の砂糖供給委員會は創設時より一九一七年十月一日迄に一億二千萬磅の巨費を使用したと稱せらるる

を見ても、其の業務の如何に廣汎なりしかを推測することが出来る。

英國食糧省は同國に於ける牛酪の不足を補ふ爲、濠洲及「ニュー、ジブラント」より同地方輸出牛酪にして其の過剰品として現存せしものを全部購買し、又他の需要品の場合と同様専門的購買者を米國及加奈陀に派し、獸肉及脂肪調達實行部を通じ、此等兩地方にて牛酪の購買を實施せしめた。

生肉・鹽豚肉其の他の拂底に對し、英國食糧省は米國食糧長官及加奈陀食糧大臣と密接なる連繫を保持し、以て英國其他聯合國の窮乏を米國及加奈陀兩地方民衆に痛切に訴ふるの手段を採り、其の結果兩地方民衆は自ら奮つて無肉日・無小麦日等を設けて其等食品の消費を節し、且つ生産に對する努力を倍蕪し、著しく輸出货量を増大するを得るに至り、之と同時に英國の専門購買官及在紐育の同國食糧委員は、極力所要品の蒐收購買の爲奮闘した。

英國で一般的に定量配給制を布きたる最初の商品は砂糖である。即ち國內に於ける砂糖の全消費は全國の砂糖業者を登録して最も嚴密に之を政府に管理し、之と同時に各消費者をも登録して各戸に砂糖購買券を配布すると共に、其の購買すべき小賣店をも指定するの制を採つた。其の後穀物・生肉・脂肪・牛乳・乳脂及乾酪の供給を持続する爲、嚴格なる制限を此等商品に課し、又一九一七年初期には製粉工場を政府の管理下に置き、尋で國內在荷各種商品を管理し又は徵用するの手段を採り、而かも此等の統制は各個人への配給計畫にまで之を及ぼした。之が爲には地方行政官廳を利用して地方機關に相當の權限を附與し、英本國を十六個の糧食區に分ち、各區に當該地方糧食管理委員を置き、漸次其の責任と權限を擴張し、遂には全國的の糧食定量分配制を確立するに至つた。

英國に於ける糧食配給上、重要な改善施設は冷蔵設備を増加擴張せしことで、食糧省は之と同時に道路の改修及

鐵道の輸送を便にした。即ち當時冷蔵設備の増加は其の積一千萬立方呎に達し、恰かも食糧省創設當時に比し其の約三分の一を増加した。又道路輸送局〔Road Transport Board〕なるものを新設し、既存行政各省と協力し糧食配給を迅速ならしむることを努めた。

一九一七年六月英國食糧大臣は公會の席上に於て、主要必需品の價格の低下、生産者より消費者に至る各階程に於ける利益及暴利獲得防壓の急務なることを述べ、此の目的を達する第一著手として、食糧省に評價局を置き、國防法〔Defence of the Realm Act〕の條項に依り同局をして糧食品の製造者は販賣者の各利益額を明瞭にせしめた。爾後同局の報告に基き食糧大臣は、供給の管理及配給統制の準備を着々整へ、各當業者の得る利益の正不正を決し、且つ糧食に關する各種工業を順次管理下に置くを得るに至つた。然れども卸商若は其他正當なる仲介業者を排除したのではない。食糧省は此等當業者を以て正規の配給上の連鎖機關として必要のものと認めたと、唯其の獲得する利益は一定の手數料に限られたるを以て、總て此等當業者は其の取扱ひし分量に對し之に應ずる手數料を受くる政府の代理機關たるの狀況を呈したのである。故に管理糧食品工業に關係ある總ての卸商若は仲介業者は許可若は登録の下に其の職業を行はしめた。又地方食糧官憲は糧食品の價格を低減せしむるの權限を有せしも、之が昂騰は食糧大臣の承認を經るを必要とした。斯の如き糧食の政府管理の結果は、英國勞働省の統計が能く之を明示するところで、之に依れば一九一八年一月一日に於ける主要糧食品二十一種の内十三種の小賣相場は前年の同日に比し却つて低落を示した。是れより先き大戰開始以來此等商品の價格は漸次絶えず急激に昂騰せしを以て、世人は食糧省に對し單に其の暴騰を防止することを期待せしに過ぎざりしに拘らず、一九一八年一月一日に於ては之を前年の同月同日に比し、普通勞

働階級家族の糧食費を八乃至一〇%減少するを得た。

英本國に於ける糧食の供給及分配は、以上の如く國內的に調節せられ且つ具體的形態を備へて實行せられしに當り、他面に困難なる事情生じ、既存の國際的供給組織を更に完備することを要することとなつた。當時聯合國側の戦況を見るに一九一七年秋期伊軍の敗北に次ぐに、一九一八年春期には西方戰場に於ける獨軍の勝利ありて、此等彼我の勝敗は聯合國側の多量の貯蔵品を失はしめたるのみならず、多額の收穫を豫想せし土地を敵手に委ね、聯合各國の糧食問題を困難ならしめたと共に、敵潛航艇の跳梁の爲、多數の船舶を沈められ、益其の困難の度を増大し、遂に國際的補給組織上一改新を爲すの必要に迫らるるに至つた。是に於て船腹の不足を補ひ、且つ之を有利に使用する爲、航路の短縮を圖るの手段を採りしが、米國政府は當面の狀況を見て、歐洲聯合國に對し物資及財政上の援助を與ふることに努めた。從來に於ても米國に於ける聯合國共同調達の機關は存在せしも、今や其の調達に對し各國協調するのみならず、共同の趣旨に鑑み、各國の所要を適當に考慮して之を各國に配當することを、一層徹底的に勵行する必要を生じたのである。

右の結果英國食糧大臣は佛・伊及米國各食糧大臣〔長官〕と協調を一層密にすることとなり、爲に聯合國間に一機關を設け、以て歐洲諸國の米國に於ける糧食に關する方針及行務を統一し、其の共通の需要を代表し、調達費の公正なる分配を期するの手段を採るに至つた。固より斯の如き機關の基礎は既に設置せられありしもので、曩に述べし小麦調達實行部、獸肉及脂肪調達實行部の如きは、各個々の事項につき關係諸國の協調を目的としたるものにして、共同調達に關する業務は着々實施せられ、又聯合國科學委員會の如きは、關係當局より廻付せられたる事項の調査に任じ、

養價上各國の要する各種糧食品の所要量等の研究に努めありしも、茲に至つて全般に涉り糧食問題を包括統合するの機關の設置を必要とし、遂に一九一八年夏米國食糧長官歐洲訪問の際他の諸國の食糧大臣と協議し、各國の此等大臣〔長官〕を以て組織する聯合國糧食會議〔Inter-Allied Food Council〕の成立を見ることとなつた。然れども其の業務實行は各國各自に設置せし當該委員の活動に依りしものにして、前述小麦調達實行部其他の機關は依然從來の業務を續行し、唯各國委員の處理以前に各國間需要の調節を圖る等の手段を講じたのである。

第三節 海運統制機關

戰爭の初期、聯合諸國は各個々に單獨にて其の物資供給及輸送問題を處理し、間もなく、佛・伊兩國は一定噸數の船腹の供給を英國より受け、兩國は其の範圍内にて更に各自國の需要に應じ之を配當使用せしが、戦局の進展に伴ひ斯の如き方法の不適當なること明となりしと同時に、益々船腹の不足を訴へ、最も之を有利に使用することの戰爭遂行上極めて緊要なることを痛感するに至つた。而して船腹の配當は各國の實際所要に應じて之をなすを肝要とするに拘らず、以上の如く單に一定噸數を漫然配當する方法に依り、且つ各國間の需要の程度及緩急を策定するの機關を缺きしを以て、其の運用上の効果を擧ぐるに缺くる所があつた。加之船腹の運用を發揮せんとせば、單に海運當局のみならず一層廣範圍の職能を包む機關を組織するを必要とするに至つた。即ち斯の如き機關を缺くに於ては、必要なる供給品の緩急順序の決定の如き、又は各資源地より輸送すべき糧食品の品種及數量の如きを海運當局の裁定に委することとなり、其の業務を適切ならしむを得ざるは明瞭なる事實にして、此等の事項は全然糧食供給を管掌する機關に

於て裁定すべきものなることを痛感した。

又船腹の使用に關し聯合各國間に競争ありしのみならず、一國內に在りても、所管事務毎に之が争奪を惹起するの状況を呈した。是に於て各國個々の需要よりは寧ろ聯合各國を通じて必要とする糧食品と、其の兵器彈藥の所要量の輸送の緩急輕重とを考査する必要を生じたのである。

以上の外海運に關する廣範圍の關係者を包含する新機關の設置を促進せしものは米國の參戰である。從來英國のみより船腹の供給を受けし佛・伊兩國は、米國の參戰後、英・米兩國に之が供給を仰ぐこととなり、従つて英・米兩國は個々獨立して之を供給し、又其配當をなすを得ざるに至つた。是に於て一九一八年初當聯合國海運會議〔Allied Maritime Transport Council〕なるものを組織し、其の第一回の會合を倫敦にて催した。同會議は佛・伊及英各國の大員各二名、米國の代表者二名より成り、其の目的は戰爭遂行の爲、船腹を最も有効に使用する如く聯合國海上輸送の一般的行爲を監督するに在りて、同時に各國には各自國管理下に在る船腹の使用に關して責に任せしめた。

右の目的を以て同會議は、佛・伊・英・米四個國政府間に所要の情報を交換し、且つ方針及行動を協調し、以て聯合各國にて、使用可能の船腹に適應する如くし、尙陸海軍の需要を顧慮して、各自國の輸入を調節し、戰爭の要求に應じて最も有利に之を配當し、且つ其の處理をなすこととした。

聯合國海運會議は、其の業務執行上の常設機關として英・米・佛・伊各國班を有し、英國班の首座は會議幹事の職に就いた。而して會議は各班を通じて、主要輸入品・輸入順位及各國使用可能船腹状況を詳かにし、又各國にて不足する資源を調査し、之に對しては他の輸入を制限するか、或は爲し得れば、輸送船の増加を圖るか、或は又既得船腹の使用

を一層經濟的にし、又は協調互讓を周密にする等の手段を採り、各國の議員は會議の決定推獎事項を各自國に通知し、之に基き各國をして行動せしむることとなつた。右四個國班の業務を統一する爲には、會議實行部〔Executive of the Council〕を置き、同實行部には更に船腹小委員〔Tonnage Subcommittee〕及輸入小委員〔Imports Subcommittee〕を附屬した。

一九一八年四月巴里に開催したる聯合國海運會議は聯合國輸入順序調査の爲め各種委員〔Inter-allied Program Committee〕の設置を推獎し、同委員をして、聯合各國討議の結果協定したる輸入を要する總ての品種の輸入順序を定めしむることとした。此の推獎に基き設置せられたる主要なる機關は左の如し。

- (一) 糧食會議〔Food Council〕本會議は小麥・脂肪・油種及砂糖に關する委員若は其の實行部と協調して業務を處理した。
- (二) 兵器會議〔Munitions Council〕本會議は硝酸・航空機・化學藥品・爆藥・鐵以外の金屬・機械的輸送具及鋼に關する委員と協調して其の業務を處理した。
- (三) 需要順序調査委員〔Program Committee〕需要順位調査決定の爲、羊毛・綿・皮革・煙草・紙・木材・揮發油・各種麻・石炭及骸炭の各品種毎に委員を設けた。

以上各種會議若は委員は輸入品の順位を測定し、尙狀況の變化に伴ひ之が調節に任じ、且つ其の實行に對しては海運會議と協議の上之を處理した。尙此等機關中兵器會議は其の本部を巴里に置きしも、其の他は之を倫敦に置いた。聯合國海運會議は以上の外、尙主として左の諸機關と連繫を保持した。

(一) 最高軍事會議 [英 Supreme War Council、佛 Conseil Supreme de la Guerre] 本會議に對し海運會議は其の本部所在國たる英國の戦時内閣書記官局 [War Cabinet Secretariat] を通じて連絡を保持し、海運會議の諸報告及記事の書類は同局を通じて、在「ベルサイユ」最高軍事會議に送付した。

(二) 聯合國海軍會議 [Allied Naval Council] 聯合各國海軍にて要する商船の船腹に關するもの如き、共通の利害關係あるものに關して、海運會議は直接海軍會議と連絡を取つた。

(三) 聯合國戰時調達及財務會議 本會議と海運會議との連絡の爲には一連絡將校を任命し、輸入品の分類、輸入豫定順序及購買實施に關する狀況を相互交換した。即ち輸入に使用すべき船腹の狀況と購買の實施とを交換せしものである。

(四) 補給國際委員 本委員と海運會議連絡の爲にも一連絡將校を置いた。

海運會議の第一回會合は、一九一八年三月十一日にして、恰かも休戦に先づ正に八ヶ月なりしが、此の短期間に於て聯合國の海運及需要所の供給狀態は全然改善せられた。而して之が効果を擧ぐる爲に前述の諸會議及各種委員を設けたのであるが、海運會議が此等機關と協力して各國に於ける用途に應じ、其の所要を充すことに努めた。左に其を概要を述べることにする。

(イ) 伊國の石炭需給 伊國參戰の初期に於ける同國の石炭需給關係は既に困難の狀況であつた。即ち一九一七年中毎月の消費量は約六十萬噸に達せしに拘らず、毎月平均輸入量は約四十四萬噸にして、其の在荷は忽ち消耗し盡すに至つた。然るに當時英國より毎月五萬噸の石炭を供給する以外、他の聯合國は何等之が供給の義務を負はざりしも、

海運會議は此の實狀に鑑み其の第一回會合に於て、毎月六十萬噸を供給することを決議し、以て伊國の石炭供給を辛うじて維持するを得しめた。

(ロ) 佛國の石炭需給 佛國に於ても石炭の需給關係は切迫し、特に一九一七年春期獨軍前進の爲、Pas de Calais 地方炭坑の出發を激減せし爲、海運會議は其の後、之が補充に努力せしに拘らず、一般的に石炭の不足を訴へありしと港灣に於ける滯貨と相俟つて、極めて之が處理に困難せしも、海運會議の主管たる船舶輸送は最も有効に實施せられ、佛國に對する石炭の供給に努めた。

(ハ) 聯合諸國の糧食需給 一九一七年中佛伊兩國に對する糧食品の供給は極めて圓滑を缺きしが、一九一八年夏期に至る期間及爾後同年收穫期に至る期間に對し、海運會議は其の輸送の改善を圖り、英・佛・伊三國に主糧食品即ち主として「パン」材料及穀類輸入の配當區分を定め、尙收穫期以後には其の他の糧食品に對しても各國に船腹配當の效力を繼續し、其の範圍を擴張して肉類・砂糖・油種等總ての糧食品に及ぼし、圓滑に之を實施した。

(ニ) 聯合諸國への兵器供給 一九一七年の冬期は伊軍の Cavento に於ける敗北の影響を受け、聯合各國に對する兵器器材の供給上船腹の運用極めて困難に陥りしが、海運會議の努力に依り其の供給を繼續し、一九一八年秋期以降は前述糧食品と同様の方法に依ることとなせしも、其の運用は完全の域に達するに至らずして休戦となつた。

(ホ) 原料の供給 兵器々材及糧食以外の原料にして聯合各國に輸入を要するものは其の量比較的少にして、之に關する輸入順序決定の如きも比較的困難ならざりしも、佛・伊兩國に對する其の供給に付ては海運會議は少からざる援助を與へた。翻つて一九一八年中に於ける海運の狀況を見るに、聯合各國の需要は益々増加を來し、且つ一九一七—

一八年に亘る收穫期に臨んで糧食の輸送急を告げありしに拘らず、歐洲聯合各國は其の造船能力以上に約二百萬噸の船舶を失ひ、米國は其の喪失船舶に比し過數の新船を建造せしと雖、未だ以て同國の遞増せる軍事の要求を補ふに足らなかつた。海運會議は此等の狀況に直面して善處するを要する以外に、白國避難民救護の爲めの要求にも應じ、且つ前記米國軍事輸送の援助をも之を爲さざるを得ざりしを以て、中立國の船舶五十萬噸餘を備役し、彼此調節安排して此等を最も有利に使用し、各國の必要とする原料の供給に支障なからしめた。

狀況斯の如き時に當り、更に三箇の重要な聯合諸國間の問題惹起し、之を處理する必要を生じた。即ち其の一は希臘の巴爾幹方面に於ける參戰にして、其の二は露國に供給の爲同國へ向け輸入の途に在りしものは同國の革命に依り之を他に轉用配當を要するに至りしこと、其の三は白國其他被占領地域の恢復せしものの農工業の復興である。右の内希臘の動員に關しては一九一七年九月巴里に聯合國會議を開き、英・佛及米三國間に希臘に對し所要の供給をなすの分擔責任を定め、以て倫敦に於ける關係諸國政府代表者の會合を催し、其の決議に基き希臘動員の順序を變更せしめ、物資の供給と相俟つて之を實施せしむることとし、一面塞國軍所要の資材供給の爲には英・佛兩國の協同援助を確實にする爲、「サロニカ」に兩國代表者の會議を設けた。又露國に對しては同國が聯合國より脱退せしに依り、同國へ供給せんとせし物資を聯合諸國に有利なる如く使用する爲め、速かに其の處置を講じた。次に又白國に於ける被占領地中恢復せしものの農工業復興の爲めには白國農工業復興聯合國委員會なるものを設け之を處置せしめたが、其の他の恢復地に於ける同種の業務は何れも之に倣つて其の復興を圖つた。以上は聯合國海運會議の活動と連繫せる各國への各種物資供給の狀況の一端である。此の外各國に對する糧食品の輸入中、重要な地位を占めたものは、曩にも一言せ

し英國の小麥調節實行部の活動である。以下同部の穀類輸送上に於ける國際的活動の概要を述べよう。

開戦初期より一九一五年十二月に至る迄、英國政府は小麥購買に關し種々の手段を採りしも、當時に在りては要するに穀物供給委員〔Grains Supplies Committee〕なるものを置き、英國政府の爲、外國小麥を購買し、英本國に於ける其の配給に任せしむることとし、此等業務を同委員の手裏に集中し其の活動範圍の擴張に努めしめた。然るに上記一九一五年十二月、英・佛及伊三國政府の代表者は數次會合協議の結果、一聯合委員を常設し、英國は同委員に對し責任を以て、三國の爲小麥・小麥粉及玉蜀黍を購買することとし、同委員の第一回會議を一九一六年一月開催した。但し同年中、各國は其の所要穀物の全部の供給を聯合委員より受けしにあらすして、各國各自にも若干は依然購買した。例へば聯合委員は佛國軍用小麥の供給に任せしも、民需の小麥に付ては依然同國商務省之が供給を主管し、英國に於ける所要小麥も大部は普通の商取引に依り供給を持續した。一九一六年十月、最近新設せられたる英國々立小麥供給委員會〔Royal Commission on wheat Supplies〕は同國へ輸入の小麥全部を管理せしむると同時に、同年十一月二十九日英・佛・伊三國は小麥調節實行部を設け、同部をして聯合國所要の穀類全部に關する問題を處理し、且つ其の調達及輸送を統一せしめた。而して此等三國は更に協定して、一九一七年末迄各國の小麥の輸入所要量を英國五百二萬噸、佛國五百二萬噸、伊國五百二萬噸と豫定した。

以上の如く當初英國が主として自國の小麥供給の爲設置せし機關は、他の聯合國に對する供給をも包含することとなり、尙其の規模を漸次擴張して小麥及小麥粉以外の穀類及穀類製品に及ぼせしものにして、現に一九一七年一月より玉蜀黍を取扱ふこととなり、同年末に於ては總ての穀類・穀類製品及豆類を其の取扱品中に包含するに至つた。而し

て斯くの如く小麥調達實行部が聯合諸國の爲穀類の調達に當りし結果、聯合各國間に於ける競買の弊を一掃し、従つて價格も之を低下せしむるを得たるも、尙各國は自國所要穀類の購入金を調達し、及之が輸送方法を講ぜざるを得なかつた。然るに米國參戰以後は同國より各國に對し財政的援助を與ふることとなり、各國間の協定に依り供給せらるる糧食に對しては米國の右援助ありしを以て、爾後小麥調達實行部は戰時購買及財政會議に其の所要を通報するの手段を採つた。各國の糧食輸入に關する債務は斯の如くして其の難關を打開することを得たが、之と前後して其の輸送問題も解決し得るに至つた。即ち一九一七年十一月英・佛・伊三國は協定の結果、各國所要穀類の輸送に要する船腹は各其の輸入量に比例して配當することとし、此の主義に基き一九一八年二月以降英國船舶省は佛・伊兩國に船腹を配當せしも、其の完全に實施せらるるに至りしは、一九一八—一九一九年産穀類の輸入期の初期にして、休戰時佛國は其の輸入穀物に對する九七・八%、伊國は同じく九四・八%の船腹の配當を受けつつあるの狀況であつた。

第四節 購買・生産・糧食供給及輸送に關する機關

聯合各國に於ける軍隊及國民に對する糧食供給の問題は、全戰役間を通じて絶えず深甚なる注意を要せし所にして、此の問題處理の爲各國は特に一行政官廳を設けた。即ち

英國 食糧大臣 [Food Controller]

米國 食糧長官 [Food Administrator]

佛國 農務及補給大臣 [Ministre de l'Agriculture et des Ravitaillement]

伊國 補給及消費大臣 [Ministero degli Approvvigionamenti e Consumi]

白國 民需及軍需經理大臣 [Ministre de l'Industrie Civile et Militaire]

糧食其の他の需要品の輸送も亦其の調達と相俟つて極めて重要な問題なりしを以て、各國は之が爲にも各専門官廳を新設し、若は平時機關を擴大した。即ち

英國 陸軍省運輸及鐵道局長 [Director General of Movements and Railways]

本局長は陸軍會議の文官議員の一員となり、陸軍に關する輸送業務の統轄に任じた。

米國 鐵道長官 [Director General of the United State Railroad Administration]

佛國 戰役中數次の變遷を経しも、休戰時に於ける輸送及港灣に關する業務は、内地帯にありては公業及輸送大臣 [Ministre des Travaux Public et de Transports] の主管に屬した。

伊國 輸送大臣 [Ministero di Transporti]

本大臣は主として海運及鐵道輸送を主管した。

白國 陸軍省運輸及交通局長 [Direction des Voies et des Communications]

右の外英國政府は戰時中、一般國民及在佛英軍に對し補給に要する船舶を管理する爲、船舶局 [Shipping Board] を新設し聯合國間の一機關とせしが、其の後更に之を擴大して船舶省 [Ministry of Shipping] と改稱し、海外植民地間との補給品及材料の往復輸送を統制せしめた。又米國に於ては全航運會社を政府の指揮監督の下に置くこととし、總ての船舶を船舶院 [United State Shipping Board] をして管理せしめた。爾餘の聯合國は、何れも陸軍省内に英米政府の

船舶關係機關との連絡を擔任する一部局を設け、且つ民需及軍需原料の配給を主管する一省若は獨立部局を設置した。即ち此等原料配給に任せし各國に於ける所設官衙は左の如し。

英國 糧食以外の諸材料補給の爲、兵器省〔Ministry of Munitions〕

米國 當初は軍需局〔Munitions Board〕、後改めて戰時産業院〔War Industrial Board〕

佛國 各品種毎に各別に擔任の各省大臣をして其の生産及分配を司掌せしめた。即ち商工大臣〔Ministre du Commerce et de l'Industrie〕、郵便電信及商船大臣〔Ministre des Postes et Telegraphes et de la Marine Marchande〕、兵器及軍需〔Ministre de l'Armement et des Fabrications de Guerre〕、農務及補給大臣〔Ministre de l'Agriculture et du Ravitaillement〕又は陸軍大臣、此等各大臣は各其の主管原料の使用を監督せしのみならず、軍需原料の製造をも管理し、恰かも英國の兵器省及米國の戰時産業院の業務に齊しき任務に服した。

伊國 佛國と同様にして特設機關として兵器及彈藥省〔Ministero delle Armi e Munizioni〕を置いた。

次に燃料問題處理の爲、戰時中各國の設けし機關は左の如し、但し英國は特に此の機關を設けず。

米國 燃料管理局〔Fuel Administration〕

佛國 探發油及燃料委員會〔Commissariat Générale aux Esences et Combustibles〕、國立石炭局〔Bureau National des charbons〕、木材事務總監部〔Inspection Generale des Service des Bois〕

伊國 燃料委員會〔Commissariato Generale per i Combustibili〕

大戰中航空業務に關し、英國にては特に一大臣を設け之を統轄せしめたるが、米白兩國にては該業務を陸軍大臣統

轄の下に置き、佛・伊兩國は航空次官局〔Fonds Secréariat d'Etat de l'Aéronautique〕を置き陸軍大臣に附屬せしめた。

人員、主として勞力動員處理の爲、英國にては國民勞務省〔Ministry of National Service〕を戰時中新設したが、他の聯合國は此の種の業務統轄の爲、特に一省を設けたるものはなく。

戰時各省の活動統一に關して英國は戰時内閣〔War Cabinet〕其の衝に當り、米・佛兩國は關係各省大臣及高級武官等より成る國防會議をして之に當らしめた。而して歐洲聯合各國では各省の組織變更は首相の決定に依り必要に應じて之を實施したるも、佛國は更に議會の協贊をも必要とした。然るに米國は「オヴァマン」法〔Overman Act〕に依り戰時中政府の組織變更の權限を大統領に附與し、戰爭の要求に應じ最善の効果を收め得る如く之を變更するを得しめた。尙各國共、自國需要品の補給に任ずる各省の活動は倫敦に會合する聯合國戰時調辨及財務會議〔Inter-allied Council of War Purchase and Finance〕が之を統一した。

第五節 各國政府と出征軍との關係

戰時軍需品補給に關する政府と出征軍との關係を、最も簡單なる形式に要約すると、調辨及貯藏機關と分配機關との關係に過ぎぬ。而して此の關係は英・米兩國に於ては、各其の陸軍省と出征軍との間の問題として實現し、佛・伊・白三國に在りては各其の政府と出征軍との間の事項として處置せられた。

英國は佛國內及「フランダース」に出征せる軍隊補給の爲、佛國に或る種の調辨及製造機關の設置を必要とし、所要の此の種機關を出征英軍總司令部に隸屬せしめたるも、出征軍に要する大部分の補給品の調辨・製造及貯藏は在

英本國の機關之に當り、當初は總て陸軍省、其の後兵器・彈藥の如き一部のみは兵器省にて實施した。而して出征軍の需要は通常同軍所屬の各種軍需補給擔任部より本國陸軍省の當該局長に之を請求せしめしも、主義方針に係るものに就ては其の要求を總軍補給部長〔Quartermaster General〕に提出し、同部長は更に之を總司令官に提示し、同司令官より陸軍省に要求するの手續を採つた。

白國にては陸軍大臣が各種資材の調辨及製造確保の任に當りしが、其の最も困難を感じしは、一般的資源拂底の際なりし爲、他國政府より供給を受ける品種は極めて順調を缺いたことであつた。

米國は本國と出征地との距離遠隔しありし爲、歐洲の他の聯合國と趣を異にし、其の軍用資材の供給資源を大別して二途に求めた。即ち其の一半は本國より追送し、他の一半は之を佛國及其他の歐洲各國に求めたのである。之が爲出征地に於て野戦軍の後方適當の位置に此等資材の集積貯藏場を設くるの必要を生じ、且つ之が管掌機關として補給勤務部〔Services of supply〕なるものを特設した。

佛軍に在りては其の補給を要する品種・數量を總司令官と政府の代表機關とにて協議し、其の結果決定したるものを内地帯〔zone de l'intérieur〕より追送する方法に依つた。故に總司令官は補給品の調辨及製造に對しては直接關係する所なく、其の隸下軍隊の需要は、陸軍大臣より配屬せられたる中間倉庫〔entrepôts〕又は停車場倉庫〔stations-magazins〕より之を受領するか、若は直接關係各省大臣に之を要求した。然し軍地帯〔zone des armées〕に在る資源の開発利用は全然同司令官の掌裏に置かれた。

伊軍の補給は佛軍と略々同様の方法に依り、中央各省即ち陸軍省・兵器彈藥省・航空次省等は各其の擔任の軍需品

を中央諸廠に補給し、出征軍總司令官は此等諸廠より其の所要のものを受領することとした。而して此等諸廠より野戦軍への補給は總經理部〔Intendenza generale〕若は軍經理部〔Intendenza d'armata〕の擔任する所で、前記中央補給擔任各省は最高統帥部〔Comando Supremo〕若は總經理部より直接の要求に依り軍需品を補給し、各省間の統一協調は大臣會議〔Consiglio dei Ministri〕が之に任ずることとした。

聯合各國共新なる型式若は新發明に依る資材を使用せんとする場合は、必ず専門機關の調査研究の結果推奨せられ且つ出征軍總司令官の同意を経ることとした。

第六章 各國野戦軍總司令部に於ける補給業務統轄機關

野戦軍總司令部は、元來野戦軍戰團の指揮を主眼とするものなる故、何れの國にても、人員及資材の補給に關する總司令部の業務は爲し得る限り之を軽減することに努めた。而かも戰況の變化に應じ間斷なく軍需を補給するは最も緊要のことなるを以て、各國軍共補給に關する所要の機關を總司令部内に置いた。

英軍總司令部は參謀部〔General Staff Branch〕・軍務部〔Adjutant General's Branch〕・補給部〔Quartermaster General Branch〕の三部より成り、參謀部は諜報・作戰及訓練を掌り、軍務部は人員に關する事項を主管する外補給部と協力して衛生施設及傷病者の後送業務を統轄し、補給部は各種資材の補給及一般の輸送を主管した。英軍總司令部内三部の任務中爾餘の聯合國軍と全く異なる所は、傷病者の後送及治療業務を他の諸國にては補給擔任部の業務とせしも、英軍に於ては右の如くであつた點に在る。

米國出征軍總司令部は、陸軍省若は出征地補給勤務部にて充實せる補充廠若は集積場より人員若は軍需品を受領し、之が配給業務を統轄した。同司令部内に於ける之が擔任機關は參謀部にして、同部は之を五課に分ち、此の内第四課〔G-4〕は補給品の調辨及分配に關する方針の決定に任じ、第一課〔G-1〕は人員及馬匹の補充を、第三課〔G-3〕は作戰課にして以上事項の運用を掌つた。第五課〔G-5〕は未教育兵多數に上りしと、之が教官不足せし結果、其の教育の効果を擧ぐる爲、特に設けしものにして、他の諸國にては概して作戰課の任ぜし所である、又第二課〔G-2〕は主として作戰上の目的より必要とする諜報蒐集の機關である。

佛軍總司令部は參謀長たる少將及數人の參謀副長〔Adj.-Major Generaux〕より成る。此等參謀副長は左記の業務を各分擔して各課長たるものである。

編制及資材部 人員〔司令部所屬部隊及命令下達を含む〕。

作戰部 第一線の電信勤務及暗號通信を含む。

航空部 一九一七年の中葉以前、本業務は作戰課にて管掌せり。

衛生部 一九一八年以前は本課の業務は後方勤務課にて管掌せり。

後方部 補給・通信連絡・輸送・地區編組等。

佛軍總司令部には右參謀部各部の外、勤務監〔Inspecteur des Services〕砲兵・工兵及醫務の三總監を置き、此等の者をして總司令官の各専門事項の檢閲に關する業務を掌らしめた。

伊軍に於ては、統帥と補給との分界を明瞭に區分し、前者は最高統帥部〔Comando Supremo〕之を掌握し、後者は總

經理部〔Intendenza Generale〕をして之に任せしめた。總經理部は最高統帥部の指揮命令の下に、航空器材以外の各種軍需品の補給に任じ、其の隸下に輸送司令部〔Direzioe Transport〕を有して鐵道の運行を管理した。因に航空器材は最高統帥部内の航空司令部に其の補給を掌らしめた。而して最高統帥部は之を作戰・諜報・編制及戰團部隊教育・諸勤務編制の各課に分ち、尙別に占領敵地の政治及行政並民間勞力の獲得に關する業務を管掌する爲、民政部〔Segretariato Generale per gli Affari Civili〕を置いた。

各國軍共、總司令官の募僚中に補給業務統制の爲めの一機關を置くことは上述の如く、何れも其の揆を一にして居る。其の各國軍に於ける名稱を更に茲に列記すれば左の如し。

英國 總補給部長〔Quartermaster General〕

米軍 出征軍總司令部參謀部第四課〔G-4, G. H. Q.〕

佛軍 總司令部參謀部後方部〔Direction de l'Arrivee a l'Etat-Major〕

白軍 總司令部參謀部第三及第四課

伊軍 總經理部〔Intendenza Generale〕

總司令官の募僚中に於ける補給業務統制機關は上述の如しと雖、各種資材の補給勤務を指揮する爲、各國軍に設けし機關は何れも多少其の趣を異にして居る。即ち米軍に於ては補給擔任の各勤務部は之を總司令部指揮の下に置かず補給勤務部〔General Headquarters of the Services of Supply〕に隸屬せしめ、參謀部第四課は各勤務部の代表者と常に連絡し後方に於ける補給狀況を明かにするに止め、伊軍は總經理部をして總司令部の一般的指示に基きて補給業務を

實施せしめ、英軍にありては總補給部長をして補給品の調達・維持・分配の責に任せしめ、兼ねて輸送業務を統轄せしめ、各勤務部は補給部長統轄の下に總司令部編制内に之を置き、各其の主管事項に關し根據地より第一線に至るまで其の權内に屬せしめ同時に之に對する責任を有せしめた。又佛軍にては總司令官をして内地帯に於ける軍需品調達に其の權限を及ぼさしめざりしも、陸軍大臣が倉庫若は諸廠等を開設するには同司令官の意見に基づき大臣は之を管轄するも、其の收容品種及數量等に關しては全然總司令官の意見に依つた。次に又伊軍に在りては、佛國の陸軍大臣に於けるが如く、總經理部は補給及輸送に關し總司令部の意圖に基き、同部參謀長は部長の命に依り各勤務部の業務を統一し、輸送司令部も同部長に直屬せることは既に述べた如くである。

作戰地域内に於ける補給品の貯藏及集積に關する各國軍の統制機關の一般を述べれば左の如し。

英軍 各前進倉庫は總司令部之を統制す。

米軍 各前進倉庫より前送すべき補給品は、總司令部參謀部第四課の指示に基き規整係將校之を統制す。

佛軍 運輸交通及補給は、總司令部募僚の一部たる後方部〔Direction de l'Arrivée〕之が確保に任ず。後方部は左の趣旨に依り編成す。

- a. 輸送及補給を一途に統轄すること。
- b. 各勤務部を總司令部にて直轄すること。
- c. 後方部長は參謀副長中の一人たる將官にして其の補佐官として同部にも其の參謀長を有す。
- d. 後方部は其の募僚部及諸勤務部より成る。募僚部は二課より成り、一は編制を他は補給を掌る。諸勤務部

の内には輸送勤務部及自動車輸送部をも包含す。

伊軍 作戰地域に於ける補給品の貯藏集積は各軍經理部の任にして、各軍の中央倉庫〔Depot Central〕は總經理部長の意圖に基き、陸軍大臣若は兵器及彈藥大臣より送付せしものを以て補充す。

要するに補給勤務は軍の生活力及戰鬥力を維持發揮するに必要な總ての補給品を供給するにあるを以て、其の任務遂行の爲、所要の手段を具備するを緊要とする故に、各國共軍隊の維持・分配及貯藏・集積に關する業務を統轄せる長官は併せて輸送業務をも其の統制下に置いたのである。

第七章 各國軍の補給業務

第一節 英軍の補給業務

〔本節は英軍總補給部より聯合國軍事補給會議に報せしもの要旨とす〕

大戰當初に於ける英軍は、人約十二萬、馬約四萬より成る所謂出征軍〔Expeditionary Force〕と稱へた小陸軍を有するに過ぎざりしが、其の末期に於ては勞働者及補助勤務者を加ふれば人約三百萬、馬約五十萬を有する大軍となり、従つて之が補給を主管せし陸軍省補給局長系統〔Quartermaster General's Branch〕の業務も極めて擴大するに至つた。即ち同局長の主管する補給及輸送業務は戰役間、漸次其の量に於て増大せしのみならず、戰局の進展に伴ひ新規業務を創始するの必要を生じたるに拘らず、補給局長は能く此の間に處して十分なる成績を擧げ、將來に對し有益なる研究

の資料を供給した。

開戦以來約二年間は戦況に大なる變化なく、従つて補給勤務にも重大なる脅威を感じざりしも、一九一六年 *Zoume* 戦に於ては輸送施設上改善を加ふるの必要を生じた。當時迄は初よりの協定に基き、佛國は英軍の爲、鐵道輸送の責任を負担し來りしも、右 *Zoume* 戦當時佛國の輪轉材料及鐵道の状態は漸く不良に陥り、且つ佛國鐵道従事員の多數は兵役に徵集せられしを以て、鐵道に關する物件及人員の更新を要するに至りしに拘らず、何れも之が補充源の拂底を告げ、佛國は英國に對し鐵道業務を分擔せんことを提唱するの已むなき狀況となつた。そこで英國は之が爲、佛國內に於ける英軍輸送業務統轄の爲、輸送本部長なるものを新に置くこととなつた。

(一) 輸送本部長 [Director General of Transportation]

右輸送本部長は一九一六年十一月始めて之を任命し、英軍の上陸港灣より軍隊に至る輸送の統轄、輸送材料其の他各種鐵道用材料の供給及鐵道の構築に任せしめた。此等の業務は前記佛國の事情と相俟つて當時益々緊要の度を増加し來たりたるものである。其の以前と雖、英軍には輸送機關の缺如せしにあらざりしも、茲に至つて在來の關係機關を統一し、尙船渠部をも輸送本部中の一部に加へた。即ち在來の鐵道部 [Directorate of Railways] は輸送本部の新設と共に分割して廣軌鐵道部 [Directorate of Railways (broad and meter gauge)]、輕便鐵道及道路部 [Directorate of Light Railways and Roads] 及輸送部 [Directorate of Transportation] の三部とし、此等は何れも輸送本部内の屬部となつた。要するに同本部新設當時に於ける其の所屬部は船渠・内地水路輸送・廣軌鐵道・輕便鐵道及道路の各部にして、新設の船渠部は特に港灣に於ける作業を改善し船舶の停滯防止に任せしめた。因に輸送本部の職員は本部長以下殆んど總

て民間當業の實驗者を採用した。

一九一七年初期戦局の進展に伴ひ、輕便鐵道及道路部は之を輸送本部より獨立せしむるを可とするに至り、又一九一八年三月には廣軌鐵道部は輸送部と合し、鐵道輸送部 [Directorate of Railway Traffic] なるものを組織した。茲に注意すべきは馬匹及自動車輸送部 [Directorate of Transport (horse and mechanical transport)] は最初より輸送本部に隸せず、常に獨立の一部をなしたることである。

斯の如く輸送組織の完備せるに伴ひ、從來存せし交通總監 [Inspector General of Communications] の職は、自然其の存続の必要を失ふに至り、從來同總監の管掌せし鐵道業務は擧げて新設の輸送本部長の掌裏に移つた。同時に總補給部長は兵站管區内に於ける諸設備及諸廠等の業務統轄に任じ、同總監の管掌せし兩餘の職務は兵站地區司令官 [General Officer Commanding, Lines of Communication Area] の主管する所となり、交通總監の職は茲に消滅するに至つたのである。一九一七年前半期に於て輸送本部の業務は著しき進捗を示せるが、此の時始めて運動戰の初期に際會したのである。當時英軍の輸送は順調に行はれしと共に、輸送上、佛國も輪轉材料及従事員等の供給をなし得るに至り、曩日の困難も漸く緩和せらるゝに至つた。

以上の如く一度輸送組織が健全なる基礎の上に確立するに至り、之が統轄は寧ろ當初の如く補給部をしてなさしむるを肝要とすることを明示し、一九一八年輸送業務は再び之を總補給部長管掌の下に置いた。是より先、専ら塹壕戰に従事せし當時、英軍の輸送組織は英本國大鐵道會社の夫れに倣ひて終始し、好成绩を收め得たるも、戦況の變化に伴ひ茲に新しき困難を惹起した。即ち一九一七年十一月 *Passchendaele* に於ける英軍の整然たる輕便鐵道組織は敵の

極めて正確なる集中砲撃を受け、爲に友軍に要する多量の彈藥・工兵器材・糧秣等の輸送は困難となつた。實に當時此等軍需品を輸送せる輕便鐵道は、其の前方及後方に於て各敵火の爲遮斷せられ、事實行動不能に陥りしを以て、新に其の輸送方法を講ずるの必要に迫られた。そこで路上の車輛及自動車輸送に軍需品供給維持の重責を殆んど負はしむるに至つた。當時右の外、鐵道は一般に早晚使用困難となるべき情勢を豫想し、總補給部長は自動車輸送の餘力保有と其の他の車輛及之が要員の節用の要を認め、自動車輸送組織を革新するに決し、一九一八年一、二兩月中該決心の實行に着手した。當時總補給部長の採りたる方針中主要なるものは、自動車使用を各業務に共通とするにありて、特種のもの即ち電燈用及通信用等の貨物自動車以外、總て各部隊の専用を禁じ、之が爲從來存在せし軍・軍團又は師團の彈藥廠・糧食縱列・補助揮發油中隊等の自動車隊に代ふるに單一の自動車輸送中隊 [Mechanical Transport Companies] なるものを以てした。其の結果は多數の自動車及所屬人員の餘裕を生じ、總補給部長の掌裏に多くの豫備を控置し得るに至つた。此等は全部總豫備とし、其の一部を自動車輸送中隊の自動車交換用に充て、殘餘を以て總司令部豫備自動車輸送中隊なるものを編成した。

(一) 總司令部豫備自動車中隊 [Headquarters Reserve Mechanical Transport Companies]
右自動車輸送の整備に先ち一九一八年三月二十一日開始せる獨軍の攻勢は、自動車輸送組織を更改して機に應ずるの必要を生ぜしめた。即ち右獨軍の攻撃に依り鐵道の運行系統は攪拌せられ、巧みに之が利用に努めしと雖、所要軍需品の補給を充たすに足らず、次で Amiens - Achielt - Arras に亘る線の如き後方連絡線を失ふに至り、曩に前送せし空輸轉材料の送還益々困難となり、爲に主要線路は何れも幅狭し、且つ軍隊の行動又は補充、彈藥及糧秣等の補給は遅延し

て常に時機を失した。一面に於て各軍司令官は資材を敵手に委することなからしめんことに苦心し、又傷病者の後送に努むるの要ありしと共に、新防禦陣地構成の爲、工兵器材の需要急を告げたるが、之と同時に佛國住民及物件の撤退後送、佛・米及葡各國軍に對する補給等も忽にすべからざる狀況となり、眞に輸送業務の危機を告ぐるに至つたのである。

鐵道運輸系統の混亂に加ふるに St. Just - Amiens - St. Pol - Hazebrouck に亘る左側方線に敵の集中砲火を蒙るに至り該地方の鐵道輸送は全然之を放棄せざるを得ざることとなつた。當時唯 En - Abbeville - Etrappe の線は尙聯合軍の使用を許せしも Etrappe に於ける Chanche 橋は常に甚しく敵の空中攻撃より脅かされた。狀況斯の如くなりしを以て第一線部隊後方の鐵道數哩は極めて幅狭して補給の圓滑を缺き、軍の戰鬥能力に重大なる危険を及ぼすに至つた。而して此の難關を救ひしものは實に自動車輸送にして、鐵道は軍と遠隔せる地點までの利用に過ぎざりし當時に於て、該地方より第一線部 への各種軍需品補給は殆んど全然自動車に依ることとなつた。

總司令部豫備自動車中隊は、爲し得る限り最後まで之を豫備として控置し、特殊の困難生じ之を特別の目的に使用したる場合と雖、狀況の許する限り速かに總補給部長は之が回收を勵行するの方針に依り全軍の輸送を實施せし結果、師團・軍團及軍は自動車輸送中隊の使用間は之が最大の能力發揮と經濟的運用とに努めた。而して同中隊は其の創設後漸次其の隊數を増加せられ、鐵道輸送の危機に瀕する頃は能く全軍の補給を確保し得るの數を有するやうになつた。

其の後戦局は轉換して、英軍が敵を追撃する時期となりても、自動車輸送は再び此の狀況に應ずる偉大なる效績を擧げた。遂に塹壕戦漸く終焉を告げ、英軍が獨軍を急追するに至りしも、一度破壊せられたる鐵道の復舊工事は遅々

として進捗せず、軍の進出に伴ふこと到底不可能なりしを以て、長距離に亘る軍の補給は全然自動車に俟たざるを得ざるの状況で在つた。要するに前述の如く自動車の運用を總司令部に統一せる結果は、戰場に於ける輸送力を最善に使用し得、且つ輸送上の危急に際し特に所要の方面に之を善用し得て、Amiens - Arras に亘る鐵道線が使用不能となりし以降、一九一八年七月之が恢復に至るまで全軍の補充給は一に自動車に依りしものと稱するも過言でない。

一九一八年は全戦役期間中、各方面の事情が最も困難を告げた時で、幾多の難關に遭遇した。即ち人員及資材の資源は極度に切迫を告げ、英本國に於ても、又在佛國出征軍に於ても總てに亘り節約緊縮を要するに至り、補給部は之に對し極力其の勵行に努むると同時に、第一線部隊の作戦行動を之が爲に危殆に陥らしむるが如きことの絶無を期した。尙當時一般に各種原料は世界的に拂底を告げしに際し、敵潛航艇の跳梁は船腹の不足を來し、人員及資材共本國より追送に依るものは微細のものと雖之を愛惜利用して、戦争繼續に資せざるを得ざるの状況であつた、形勢斯の如くなりしを以て當時の局面に對する唯一の解決法は、あらゆる方面に於て組織的節約を斷行するに在りしを以て、補給部は人員及輸送具に對し、曩に良果を收めし自動車輸送統一の方針に等しき主義を以て臨み、尙其の管掌する各般の業務に之を及ぼすの必要を生じた。

(III) 資源利用部長 [Controller of Salvage]

出征軍の愛惜利用上採りたる重要な處置は、出征軍に資源利用部長なるものを新設せしことである。一度支給したる諸資材にして委棄せられ、又は廢棄せられたるものを回收利用することは財政上極めて重大なる意義ありしのみならず、戦役の後期に至つては、單に金錢上の問題に止まらず、軍事上極めて重要な價值あるものとなつた。即ち戦

局の益々遷延するに伴ひ、軍需品の世界的資源は漸次拂底を告げ、同時に國內の諸工場には戦闘員を割いて其の従業者を保留するの状況なりしを以て、各方面に於ける資材の愛惜利用は物資及人員に對する脅威の輕減を意味し、且つ委棄物等の回收利用の爲めには各種の工場を出征地に設け、莫大なる再使用品を供給し、以て本國等よりの追送に要する船腹を節し得たることは實に多大の量に達した。

(IV) 農産部 [Directorate of Agricultural Production]

出征軍に農産部を新設したることも亦組織的に資源を利用せんとする有效なる一施設である。同部の活動に依り本國に於ける野菜類の供給難及之が戦地への輸送を輕減し、又佛國に於ける一般市場よりの野菜類購買量を輕少するを得たるのみならず、一時敵に占領せられ後恢復したる佛國領土に於ける耕耘及收穫に少からざる援助を與へた。實に同部開設後に於ける効果は直接軍隊に新鮮なる野菜を本國等の煩累以外に立ちて多量に供給せし外、之が爲の所要經費を控除して、尙少なからざる金錢上の利益を收むるを得たのである。

(V) 馬匹飼養及節用監部 [Inspector of Horse Feeding and Economies]

馬匹飼養及節用監の任命は、經費及輸送の輕減と馬匹使用上の効果を發揮せんことを期したもので、軍馬補充及獸醫勤務に關する一九一八年中の統計に徴すれば、經費及軍馬の節約に資せし所大なるのみならず、馬匹其のものゝ状態をも著しく改善した。

以上資源利用・農産・馬匹飼養及節用の三部は特に經費・人員及資源節用の目的を以て設置したるものなるが、補給部管掌の下にある其の他の業務に對しても同様の趣旨を貫徹せしめた。其れ等各業務の概況は以下述ぶる所の如き

ものである。

(六) 給養部 [Directorate of Supplies]

給養部は補給部隷下の一部にして、其の業務に對しても前述の如く極力節約利用の方法を講じた。英軍の給養部は出征英軍將卒全員のみならず、聯合諸國軍の一部に對しても其の給養を擔任し、日々費消する所莫大なると共に、給與日量も品種に依り區々にして最小日量のもは百分の一「オンス」より最大のもは一封度二分の一に至り、此等の節約利用には細心の注意を要せしを以て、給養部には特に調査課 [Investigation Department] を設け、總ての支給品に對し嚴密なる檢定を行ひ、苟も統制管理の餘地あるものに對しては之が勵行に努めた。給養品の總量は戰役中漸次増加し、例へば凍肉の如き一ヶ月の所要一九一四年中には最高百二十五萬封度の數を示せしも、一九一八年中には同じく最高の月は二千二百萬封度の所要を示し、又「パン」は一九一四年中の最高の一箇月は六百萬封度、一九一八年中の夫れには六千五百萬封度の所要を示した。此等の「パン」は總て陸軍の製「パン」所にて製造したものである。次に發揮に油の如きも一九一四年最高使用の某一ヶ月の需要は八十四萬二千瓦に過ぎざりしも、一九一八年の夫れには千三百萬瓦を算し、又干草は一九一四年中の一ヶ月最大使用量五十九萬封度に對し、一九一八年中の夫れは一億三千二百二十五萬封度の巨額に達して居る。此等の數字を一見しても此の方面に於ける資源の節約利用の効果を發揮すべき必要の極めて大なることを推知することが出来るであらう。

次に輸送關係機關中、曩に一言せる如く初め一獨立勤務部として設けられ、後に輸送本部の屬部に入れるものゝ業務の概要を述べ、此の種活動の狀況を窺ふこととする。

(七) 輸送部 [Directorate of Transport]

輸送部は當初僅かに千二百の自動車をも以て其の業務を開始せしが、休戦時に於ては總計約四萬八千七百輛有つた。之を車輛の性能に依り區分すれば貨物自動車三萬三千五百輛、牽引自動車千四百輛、乗用自動車・二輪自動車及側車附二輪自動車一萬三千八百輛にして、百五十四に亘る異型の自動車は同部業務の一として佛國出征地にて修理し、爲に多大の部品の廢棄に歸すべきものを再用し、金額に換算すれば百十五萬三千磅以上に達する額を節約し得た。

(八) 船渠部 [Docks Directorate]

船渠部は其の設置に依り多數船舶の停滯を防止し補給上著しき効果を收むるを得た。是より先、一九一七年一月中の平均一時間の揚陸數量は十二噸半に過ぎざりしが、一九一八年七月中に平均一時間三十四噸に達せし狀況で、當時船腹拂底の際に當り其効果は決して尠少なからざるものであつた。又同部業務中の海峡横斷列車渡船及舢艫業務の如きも顯著なる成果を示した。即ち列車渡船業務は車輪を附したる儘の機關車及貨車並大口徑砲車の英佛海峡横斷輸送を掌り、一九一八年中に約二十四萬噸の輸送を完うし、舢艫業務は彈藥輸送を主なる目的とせしも、其の他木材・工兵器材・鐵道材料・干草等の輸送に任じ、同年中九十六萬三千噸以上の貨物を出征軍に追送した。

(九) 輕便鐵道部 [Directorate of Light Railways]

同部の業務も其の實施概況を知らんと欲せば、數字で之を示すを便とする。今一九一八年中に於ける統計に従へば、其每週平均輸送量は約一萬六千噸にして、同年三月中には九百二十哩の延長里程を運行し、機關車約五百、貨車約五千を使用した。

(一〇) 道路部 [Directorate of Roads]

次に補給上肝要なる一要素をなしたものは道路部で、同部が休戦時に於て四千四百十二哩の道路を維持して之を管理し、又一九一八年中三百萬噸の道路用石材を採取し之を使用したるを見ても、其の任務の容易の業にあらざりしことを知るを得る。而かも道路部長は軍の前進に伴ひ所要の道路の構築を完うし、爲に軍の補給上何等支障なからしめた。

(一一) 内地水路輸送部 [Directorate of Inland water Transport]

同部は鐵道の補助機關として活動せるものにして、最初四十二艘の一船隊を以て業務を開始せしが、休戦時には同部使用の船數九百八十艘となり、十三萬二千五百六十二噸の輸送力を備へ、七百六十二軒に達する水路を運行し、現に一九一八年中に約三百萬噸に達する貨物の輸送に従事した。

輸送關係の機關に就ては以上に止め、以下補給業務關係のその他の機關に關して概説する。

(一二) 軍馬補充部 [Remounts Directorate]

同部は軍用馬匹及騾の整備調教及配給を掌りしもので、佛國及「フランダール」に出征せし英軍に對し馬匹五十七萬頭、騾十三萬千頭を供給した。

(一三) 陸軍獸醫團 [Royal Army Veterinary Corps]

一非戰鬥兵種たる陸軍獸醫團は、戰役末期に於て二十二箇の病馬廠 [Veterinary Hospitals] 及療養馬廠 [Convalescent Home Depots]、十七箇の兵站病馬廠 [Veterinary Evacuation Stations]、六十六箇の移動病馬班 [Mobile Veterinary Sections] 及細菌試驗所 [Bacteriological Laboratory] を有し、軍馬衛生の爲大に活躍して、疾病に依る軍馬の喪失數を著しく減少

し、爲に其の補充難を緩和し、且つ國費を節約し得たること多大であつた。

(一四) 陸軍器材兵團 [Royal Army Ordnance Corps]

同じく非戰鬥兵種の一なる陸軍器材兵團の任務は、兵器器材・被服及裝具等に亘る廣汎なる範圍を掩ふと共に、其の取扱ひ數量も極めて莫大なる額に達した。一例を以て之を示せば、一九一八年四月乃至六月の三ヶ月に同兵團の手を経て軍隊に交付した彈藥は約六十五萬噸で、其の金額は約四千五十萬磅に達し、又同年七月二日の一日間のみの英軍の發射彈數は九十四萬三千八百五十七發で、其の價值格三百萬磅以上に達せしを見ても、之が補給業務の容易ならざるを推知することが出来る。陸軍器材兵團一部の機關たる輕・中及重各移動修理工場 [Light, Medium and Heavy Mobile Workshops] は各種合して其の數六十五を算し、各種火炮の部品を支給及修理の迅速に於て甚大なる効果を擧げた。

其の他同團の業務には火炮修理工場・靴修理工場・防毒覆面及鐵兜工場・護謨品修理廠・皮革洗淨工場その他被服裝具に關する諸工場等の活動を包含し、單に作戰地域のみならず、兵站地帯にても此等業務を擔任して活動した。現に休戦時兵站地域に於ける右器材兵團諸廠及倉庫等は其の數三十二に達して居た。

(一五) 工事部 [Directorate of Works]

工事部は兵站地域に於ける建造物の構築を主として管掌し、其の他に之に類似の業務に服し、戰役中兵站地域に於て病院百四十五、兵營五百六十一、機械工場四十五、諸廠及學校八十五を建設した。一九一八年三月迄は工事部は兵站地域内の土地及建造物の借入を、又同年八月迄は工兵器材の補給をも擔任し、一九一七年三月迄は佛國內森林よりの木材獲得にも任じ、又一九一六年十一月迄は石炭採取をも掌りしも、此等は各専門機關の設置と共に之に其の業務を移

管した。工事部の終始従事せる業務は建造物の構築の外、兵站地域に於ける電気及給水設備にして、諸工事の爲、戦役中費したる金額は約千八百五十萬磅に達した。

(一六) 勞働力

特に一機關を以て統轄するに至らず、各機關に分屬せしも、戦争に關し勞働力が重要な地位を占むることは決して看過すべきでない。休戦時に於て英軍の爲實働せし勞働者は約二十五萬人にして、十二萬人以上の有色人種を含有して居た。

(一七) 林務部 [Directorate of Forestry]

林務部は加奈陀林務兵團 [Canadian Forestry Corps] と協力し、軍及兵站兩地域に亘りしのみならず、其の他の全佛國森林の利用を掌りしものにして、戦役間を通じて軍需の爲木材約三千五百萬噸を獲得した。

(一八) 賠償勤務

開戦後所要に應じて新設せし損害請求に對する賠償委員 [Claims Commissions]、徵發部 [Directorate of Requisition Services] 及び工事部土地課 [Land Branch of the Directorate of Works] の三機關は一九一八年の初期に於て之を一勤務部として統一せるが、此等の業務は右統一の前後を通じて休戦時まで約七十萬件の賠償請求に接し、之が決解の爲約七千萬法を仕拂つた。而かも業務の性質上爾後尙莫大なる金額の仕拂を要せしことは敢て多言を要せぬであらう。

(一九) 陸軍會計部 [Army Pay Department]

陸軍會計部の事務は其の量に於て實に巨大なるものである。即ち三十六箇國の通貨を取扱ひ、此等は約千五百種の硬

貨及紙幣に分れ、各國間の爲替相場は常に變動せしを以て、其業務の複雑多端なりしは之を推知し得べく、今休戦時に於て會計部の仕拂金中俸給のみの數字を掲ぐるも、將校に對し九億六千二百萬法、下士卒に對し四十五億法に達して居る (一〇) 郵便部 [Postal Service]

郵便部が出征軍人の精神上に對し與へた功績は實に顯著なるもので、同部業務實施の爲設置した郵便局の數は、休戦時移動局四百十二箇、常置局百一箇を算し、毎週戦地への著信數千百萬通、戦地よりの發信數九百萬に達し、全戦役間を通じて郵便行囊四百五十萬個を取扱つた。

(一一) 洗濯部 [Inspectorate of Launderies]

洗濯部は一九一七年七月設置せしもので、洗濯そのものにおいて、民間に之を請負はしむるに比し總額約十四萬六千磅を節約し、又其の修理部にては僅かに一萬二千磅の經費を以て約百十二萬七千磅の價値ある物品の再使用をなし、屑物の蒐集利用に依りては十三萬二千磅を利した。

(一二) 防火部 [Department of the Fire Expert]

防火部は一九一八年初期に至り創設せられたもので、同部が周到なる注意と有效なる業務統轄とに依り火災の防止に努め特に爆撃に對し火災を豫防し、之が爲要する國費の支出を防止せし效果は到底金額を以て之を表示すること能はざる偉績を挙げ、單に英軍に關するものに止まらず、一般佛國人に對しても偉大なる援助を與へた。

(一三) 出征軍酒保 [Expeditionary Force Canteens]

補給部長統轄の下にあつた以上各部の外、同じく其の統轄下に活動せし出征軍酒保の業務も決して看過すべきで

ない。即ち出征軍設にけられし多數の酒保は各階級の軍人に對し甚大の効果を及ぼせしものにして、例へば休息所及娯樂場等の施設並各種日用品の供給に任じ、實に全戦役間を通じ各軍人個人の購買額のみにも六億法以上に達した。上來述べし所は出征英軍總補給部長統轄の下に活動せる補給業務關係關の業務の概要を示したものである。斯の如き巨大なる業務を統轄する總補給部長は二人の次長〔Deputy Quartermaster Generals〕を直接の補佐官とし其の下に數人の部員を有せしに過ぎぬ。右二人の次長は後方及前方の兩地域に其の擔任を區分せしも、監督検査業務以外は此の兩地域の業務の區分困難なるもの多く、其の協調統一に少からざる苦心を要した。尙補給部長の下には聯合各國軍より派遣せる連絡將校ありて、當該各國との關係事項に付總補給部長の業務上に便せし所は決して少くない。

第二節 白國軍の補給業務

〔本節は白國軍 M. F. Delell 中將の所述す〕

白國參謀本部は大戦直前、野戦軍の補給に關する問題を研究し、動員に際し之が規定を發布せるが、該規定は大戦に於ける白國軍の補給問題解決の基礎となりしものにして、其の補給方針の決定の如きも總て之に基き其の實施を圖つたのである。

右規定に依れば、野戦軍に對する補給品は Anvers〔Antwerp〕の要塞内に蒐集せんとするものにして、補給施設として左の件を包含してゐた。

(1) Anvers 陸軍「パン」焼所〔生「パン」及乾「パン」〕

(二) 燕麥專用倉庫

(三) 罐詰及乾物專用倉庫

(四) 揮發油及石油專用倉庫

(五) 師團人馬厰舎・被服・裝具・馬具・小兵器・小銃及拳銃・彈藥等各倉庫

(六) 野戦本倉庫〔Grand Parc de Campagne〕〔戰用兵器々材及彈藥〕

(七) 移動砲兵廠〔Parc sur rails de l'Artillerie〕〔鐵道貨車内に置き、彈藥の臨時補給に任ぜしむ〕

(八) 工兵倉庫〔Depots ou Génie〕〔工兵器材及爆藥〕

(九) 豫備醫療品倉庫〔Depot du Matériel hospitalier de réserve〕

(一〇) 中央藥劑部

(一一) 陸軍病院〔師團に日々生ずる患者用〕

(一二) 郵便部〔國家機關にして陸軍機關にあらず〕

(一四) 鐵道小包勤務部〔同上〕

野戦軍と要塞に於ける根據地との連絡の爲には、日々二種の列車を運轉した。即ち其の一は毎朝補給列車〔Train du jour〕と稱し、各師團に對し一列車を配當し師團毎朝鐵道端末〔Gare divisionnaire du jour〕と稱する地點に至らしむるものにして、該列車は右端末地に午前十時到着し、午後一時出發歸還せしめた。其の二は毎夕補給列車〔Train du soir〕と稱し、各師團毎に衛生材料を積載し師團毎夕鐵道端末〔Gare divisionnaire du soir〕と稱する地點に至らしめ、同端末

地に午後六時より七時に至る間停車せしめた。

右日々列車の外、恒例以外の師團補給列車を運行せしめて、特殊の需用及後送に當らしめ、且つ狀況之を要すれば、軍需品の前送及患者等の後送の爲、特に列車を派することがあつた。該列車は師團毎に派遣するものにあらず、所要の地方に在る全部隊の爲にするものにして、其の給補者は後送の中心地を命令を以て示し、之が利用を圖らしめた。

毎朝補給列車の編制は一定しありて、生「パン」・乾「パン」・揮發油及石油の補給に任じ、其の補給量は師團編制上の兵員數より稍多量のものとし、師團の兵力に大なる移動を生ぜざる限り之を變更することはなかつた。

騎兵師團に對する毎朝補給列車は糧食以外に七五密砲及騎銃用彈藥の補給車並負傷者收容車をも含有せしめた。

毎夕補給列車は傷病治療者を師團に復歸せしむると共に、新に生じたる傷病者を收容せしめた。該列車は一病院に一列車を配當し、各列車は横臥用車六輛及坐席用車二輛より編成せられた。

以上の趣旨は開戦當初に於て實行し、現に毎朝補給列車は一九一四年八月五日より、毎夕補給列車は同月六日より之を運行した。然るに同月十九日以降は患者輸送に任ずる毎夕列車の運行は必ずしも日々之を實施せざることゝした。即ち傷病者の有無に拘らず定期之を運行するの必要を認め、之を轉用して一種の移動廠〔*Parasutaire*〕としたのである。

戦役當初にありては、豫備人員及資材の豊富、鐵道網の調密、輪轉材料及鐵道従業員の充實、根據地の保護の完全、同地と野戦軍との距離の短少なること等相俟つて補給は圓滑に行はれたが、*Arras* 撤退後は事漸く複雑となり、種々の困難を惹起した。即ち先づ根據地諸施設を *Bruges*, *Ostend*, *Zeebrugge* の海岸に、尋で *Calais* の附近に移動せしめざる

を得ざりしが、*Calais* 附近には既に英・佛兩國軍の諸施設存在せしに加ふるに、白國軍は急遽此處に其の根據地施設をなさざるを得ざりしのみならず、該地方と白國とを連絡する鐵道は唯單線一條を有せしに過ぎなかつた。

Arras 撤退及 *Ypres* 戦の全期間は、根據地施設の位置を數次變更せしに拘らず、軍隊への補給は日々の補給列車に依り正規的に之を實施するを得た。然るに *Ypres* 戦後、後方勤務の根本的改善の必要を認め、以て野戦軍をして戰闘遂行上何等支障ならしむることを期し、特に陣地固定後に於ては後方勤務の組織の變更を行つたが、該組織を以て遂に休戦時に至つた。

全戦役期間を通じ野戦軍の糧食の需用は日々補給列車を以て之を充した。又戦線固定後は騎兵師團を後方に位置せしめし爲、同師團に對する日々補給列車は騎銃彈藥車を聯結する必要なきに至つた。後方勤務組織の改善と共に軍政命令を以て補給品の缺乏及空容器返送の不實行等の場合に於ける責任の歸着をも規定した。

一九一六年中、日々補給列車勤務部を廢止した。之が理由は同列車勤務を以て軍政勤務の一部として存在せしむべきものにあらずして、鐵道關係官憲の根據地に於ける施設中に包含する輸送の手段として取扱ふを適當とせしに依るものである。

鐵道小包勤務部は之を陸軍の軍政勤務の一部とするを適當とし、私用品・軍隊公用品・遺棄物等の蒐集品等と共に之を取扱はしめ、各其の歸屬を明かにした。

經理〔*Intendance*〕は經理勤務總監〔*L'Inspecteur General du Service de l'Intendance*〕の豫め準備したる所に基き之が實施を勵行せしが、戦役中新に施設せし所も亦少からず、特に *Flanders* 地方に於ける攻撃作戦間及休戦後に於け

る此等諸施設の移動は注意を値するものなるが、其れ等の變更・移動等ありしに拘らず、野戦軍の補給は終始日々列車に依り之を維持した。

彈藥及材料の補給方法も野戦軍の需要逐次増加せる爲、戦役間屢々之を變更した。其の詳細は茲に省略する。

要するに一九一四年の開戦時に於ける白軍の後方勤務組織は、休戦時たる一九一八年の夫れと全く其の趣を異にしてゐたのである。是れ其の時々の戦況に應ずる必要上逐次變更せしものにして、敢て他に理由の存するものではない。即ち開戦當初に於ては *Anglo* の要塞地帯を固守し、此を最後の根據として維持するの趣旨の下に總て計畫し、且つ實施せしも、間もなく同地は之を放棄し聯合各國軍と協同作戰するに至り、要塞固守の觀念は全然之を變更するに至つたのである。爾後野戦軍所要の補給品は、之を軍隊に分配するに先ち、白國內敵の侵入を蒙らざる地方及佛國內同様の地域に倉庫等を設けて集積し、尙後に至り補給資源を在外白國調達機關よりの供給に仰いだ。今戦役間を通じ補給上の主義として白國の採りたる所を要約すれば概ね以下述ぶる所の如きものである。

抑も戦時最高統帥部は全然自由意志を以て作戰を計畫し、軍隊を編成し且つ指揮すべく、補給問題に關し豫め拘束せらるべきものでない。元來作戰は貯藏・輸送若は資源利用等に關する問題の爲煩はさるべきものでない。然るに軍隊に對する補給施設は作戰の推移如何に關せず、敵手に之を委することなき如く組織するを必要とすると同時に、補給施設は成る可く軍隊に接近して之を置き、其の使用上最大效力を發揮せしめ、最少時間にて之を利用し得しむるを要する。白國軍は戦役中屢々後方勤務の組織・運用等を變更せしと雖、其の主義は以上所述の本旨に基きしものにして、各勤務は共同の目的の爲に協調し戰爭を有利に遂行するを得たるも、補給組織は未だ完全の域に達せざる以前に

休戦となつた。

第三節 米軍の補給業務

〔本項は Lt. H. Harrod 少將の所述をす〕

其の一 上陸及其の後の處置

Pershing 將軍渡佛以前、米國は將校數人より成る米國軍事委員 (*American Military Mission*) なるものを佛國に駐在せしめたが、同將軍は自ら出征に先ち、米軍第一上陸部隊の揚陸地に關する調査を右委員に電報を以て要求した。而して將軍は一九一七年六月八日出征の途次、英國「リパブル」に於て右委員中の一大尉と會見し、揚陸地に關する調査の結果を聴取したが、右軍事委員の調査は主として佛國陸軍省の指導の下に之をなせしものにして、開戦以來の實驗及佛國そのもの、諸種の必要と調和せしめんとせしものであつた。翻つて當時佛國の諸港灣の状況を見るに、平時佛國自ら多く使用せし、英佛海峡に沿へる諸港は佛國內及「フランダース」地方出征英軍に依り殆んど全部を使用せられ、佛國自らの海陸運輸は大西洋沿岸諸港に之を移さざるを得ざるの状況にありて、此等諸港は米軍にて之が使用を企圖する以前に於て既に滯船停貨甚しく、容易に米軍の上陸地たらしめ得ざりしも、當時に於ては之を此等大西洋沿岸諸港中に選ぶか、然らざれば地中海沿岸の馬耳塞を採るの外、他に方法を發見するを得ざる状況であつた。然るに馬耳塞は米國よりの航程延長し且つ地中海に於ける敵潛航艇跳梁の爲、當初に於ては上陸地として豫想以外のものなりしが、如上の状況の爲、之をも考慮の内に置かざるを得ざるに至つた。

Pearling 將軍は其の後倫敦に至り、米國軍事委員より送付せる書類報告に接せしも、尙揚陸地を確定するの資料を得ざりしを以て、總司令部工兵部長〔Chief Engineer〕及同補給部長〔Chief Quartermaster〕其の他三名の將校より成る一調査會を設け、此等將校は直ちに佛國に到り St. Nazaire, La Pallice, 及び Bordeaux の各港を實視し、各其の狀態を調査し米國出征軍上陸地として最も適當と認むるものを、爲し得る限り速かに報告すべきことを命ぜられた。而して該揚陸場としての調査事項中には、通常此の種の場合に於ける要項に基き、深水、船渠の有無、一般商業の爲の滯船・停貨の有無、港灣附近諸設備即ち軍隊收容の爲の兵舎・厩舎・倉庫・第一線方面に適する鐵道の便否等を包含せしめたのである。

右出征軍根據地として揚陸港灣選定上、尙顧慮を要せし事項は、將來米軍の作戰すべき西方戰場に於ける方面に關することであつた。米國大統領の定めし一般方針に依れば、米國は海上に於ては英國と、又陸上に於ては佛國と協同動作をなすに在る。而して出征米軍を如何なる方面に使用すべきか、之を一地方に作戰せしむべきか、將た數個に分割使用すべきか等は佛國の意向に委すべき問題であつた。而して當時佛軍戰線の左翼は St. Quentin の稍北方にありて佛軍の中堅は首都巴里と敵との間に介在し、此の方面に對する敵の壓迫は特に強硬なりしが、佛國民は一般に此の首都と敵との中間に於ける防戦は全然佛軍を以て之に當るべきことを高唱した。

此の間に於て、曩に揚陸地選定の爲め派遣せられたる將校の一團は、Pearling 將軍英國到着後未だ一週を出でざるに歸來し、先づ馬耳塞使用には反對の意見を具申した。蓋し此等將校の意見は、Sme 提督の意見に基きしものにして、同提督は米國よりの航程四日を増加し、而かも敵潛航艇の跳梁せる西部地中海を航行する運送船の保護は到底其の應

下の艦隊を以て之を全うし能はざることを言明した。且つ馬耳塞は當時「サロニカ」及其の他の東方地方出征の英・佛兩軍の人馬及軍需品の乗船地なりしを以て、更に米軍揚陸の爲に之を使用するを適當ならずと認めたのであつた。

右の如く米軍の馬耳塞上陸に反對の意見を具申せし將校の一團は、其の採るべき方針に關し所見を開陳せしが、其の要旨を述べれば「St. Nazaire に佛國より米軍の使用に譲り得べき若干の錨地あり、且つ人馬收容の爲、兵舎及厩舎に使用し得べき建物あるを以て、第一次上陸部隊の揚陸地として同地を推奨す。尙 Bordeaux を去る遠からざる Nantes 港は港灣設備に若干の改善を加ふれば將來米軍の揚陸地として使用し得べく、又 Talmaut 港も揚陸地として適當し、特に吃水深き船舶の出入に便なり。此の外 La Pallice 及 La Rochelle 兩港をも調査せしが、要するに馬耳塞の使用は全然不可にして、第一次上陸軍は St. Nazaire に揚陸せしむるを可とす」と云ふにあつて、Pearling 將軍は其の意見を採用了。

次で Pearling 將軍は六月十三日巴里に到着した。當時英・佛戰線を觀察し、兩國軍の編制及補給業務の研究に従ひありし米國陸軍省參謀本部及各補給擔任部局長將校十二名より成る委員の一團ありしが、「P」將軍巴里到着後、直に同將軍の部下たる出征軍補給擔任各部の代表者をも英・佛戰線及佛國陸軍省に派遣し、補給及補給機關の編制等に就て調査せしめた。

米軍第一兵團の到着前、七月中旬及下旬に於て本國より差遣の前記十二名の將校及出征軍の幕僚は數次巴里に於て會議を催したるが、同會議の主要問題は出征米軍の戰術的編制の基礎を決定するにありて、之が爲には友邦たる英・佛兩軍の過去三ヶ年に亘る實驗を参照し、之より得たる教訓に基き之を決定することとした。會議は約三十名の將校よ

り成り、「バ」將軍自ら之を主宰し、數次討議の結果、出征米軍の根本編制は軍・軍團及師團に區分することに決議して、遂に之を確立し、之を編制の基調として大戰を終始したのである。

右巴里に於ける米軍首腦者の會議にては、以上の外補給上自動車輸送及動物輓曳車との價値の比較等を討議し、尙補給の數量、使用し得べき船腹等に就ても研究する所ありしも、此等に關する重要な決定をなすことは爾後に延期することゝなつた。

各種軍需品の補給を擔任する各専門部長の提案に依る補給品の性質及數量に關しては、總司令官及參謀部にて統一研究して之を統制した。蓋し専門各部長は其の擔任業務を偏重するの弊に陥り易きことは人情の然らしむる所なるを以て、特に公平に之が統制を要せしものである。加之當時一般に船腹拂底の際なりしを以て、米軍各種補給は佛國戰場に其の豫備を若干日間保有する必要ありて、之が迅速なる解決を促されありしと共に、各品種間の輸送順位をも定め、尙補給品貯藏の位置及其の根據地・中間地及前進地への分配等を決定するの要に迫られてゐた。

曩にも述べたるが如く、米軍を使用すべき方面は、佛國の意向に依るもの多き状況にして、當時の形勢上、同軍は稍東方に偏せる地方に作戰するに至るべき豫想を抱かざるを得ざりしが、果して然らば米軍は大西洋海岸より第一線部隊まで平均約五百哩の間に兵站線を設置するの要がある。而して當時西方戰場到る處、彼我の兵力概ね均勢を維持し、如何なる方面にも敵の攻勢移轉を豫期せざるを得ざる状況であつた。米軍總司令官は以上の如き情況に鑑み其の部下軍隊に對する補給の爲、適當と認むる根據地・中間地及前進地倉庫〔Base Intermediate and Advanced Storage〕を夫々決定した。

殆んど均等の勢力を有する敵を前面に有する時、我が第一線部隊に近き後方地區に多數の補給品を集積するが如きは假へ輸送の便宜なる場合に在りても、決して賢明なる處置と云ふことは出来ない。且つ天候に因る鐵道交通の障礙、新方面に於ける戰況の進展、橋梁等に對する空中より敵の攻撃、其他状況上の變化は、單に揚陸地たる海濱と第一線直後の地との二個所のみ補給品を分割集積するは不適當なるのみならず、元來前進地域に集積すべき補給品の數量は當面の短期間の需要を充すに足るに止むべきものなるを以て、某地點を選びて之を補給品の主要集積場とすることになつた。

右の必要より設置するに至りしものは所謂中間倉庫〔Intermediate Storage〕である。同倉庫所在地選定の爲には概ね左の諸件を顧慮した。

(a) 補給部隊が北方若は遙か東南に移動する場合に於ても、補給能率を減少することなき様、第一線部隊より適當の距離にあらしむること

(b) 重要な鐵道交又點の附近に位置し、假へ事故ある場合と雖、第一線部隊との交通に一線以上を使用し得ること
(c) 第一線より適當の距離を存するを要す。補給品は總て海岸より鐵道にて輸送し來り之を集積するものなる故、更に前方短距離の所に輸送して、再び卸下集積の經費及勞力を徒費せざる如き場所たること

一九一七年六七兩月に於ける敵潛航艇戰は甚しく有力ならず、友軍の海軍は相當之に對し有望の地位にありしも、又全然之に信賴するを得ざりし状況であつた。而して敵は其の喪失する潛航艇數に比し一層多くの新艇の建造に努めたるが、他面當時に於ける歐洲の聯合國及中立國諸資源の狀況は米軍之を知る得ず、如何なる種類の補給品は歐洲に

て之を獲得し得べきかの研究の如きも未だ十分なるを得なかつたと共に、海上三千哩を隔つる本國よりの補給品の追送及之が揚陸後軍隊への輸送に對し、聯合軍の援助は熱誠を極めたるものと云ふを得ぬ状況であつた。佛國參謀本部は當時米軍の佛國に揚陸量最大限を一日三萬噸とし、一面當時にありては敵國側に於ても米軍の参加は戦争の大局に影響を及ぼすものにあらざると判断したりと傳へられたる状況にて、米軍に對する期待は彼我共に多からざしを以て、米軍は自ら奮勵努力して出征の効果を發揚せざるべからざる情勢にあつた。是に於て米軍參謀部は補給の確保を期する爲、最大五百萬人に達せしむる計畫の出征軍總員に對し、常に九十日分の豫備軍需品を蓄ふることに決定し、之が集積を前記の如く根據地・中間地及前進地の三に區分し、全量の半數を根據地に、三分の一を中間倉庫に、六分の一を前進倉庫に集積することとした。

然るに右中間及前進倉庫の位置の選定に就ては、就中佛國の好意に俟つもの頗る多きに拘らず、當時は殆んど佛國の全土に亘り佛軍自體の爲の諸設備に使用せられ、鐵道の如きも米軍は全然之に指を染むるを得ざる状態であつた。且つ戰線に併行して運行する鐵道線路に在りては、時々一側より他の側に軍隊を至急移動せしむるの必要ありしを以て、之を横斷する鐵道は一日中の運轉回數に制限を附せらるゝの不便ありしのみならず、特に中間倉庫地としては右の外、給水の便否・動力の存否・地積・地形・勢力特に修理工場等に所要の婦人勞力等の顧慮を要するを以て、佛國側に於ても之が調査をなし、其の推薦に依る地方には米軍より更に關係幕僚等を派遣して調査を實施した。

以上の如き状況の時に當り、出征米軍の第一師團は既に *St. Nazaire* に上陸を終りしが、實戰に對し未だ完全なる教育訓練を経ざるものなりしを以て、佛國側の決定に基き該訓練をなしつゝ、戰團参加に適當なる *Condrecount* 附近の溪

谷方面に之を使用することとした。從來同方面に在りたる佛軍は大部他に移動し、米軍の練訓補佐の爲所要の人員を殘置した。佛國側にて此の地方に米軍を使用せし理由は該地が第一線部隊より相當後方にありて安全に訓練を實施し得ると共に、戦争氣分を味ふには十分なる距離にありしに依りしものにして、斯く米軍の擔任方面の決定と共に、爾後同軍の増加を要する部隊數も漸く之を算定し得、且つ右訓練地と根據地港灣との間連絡線も定まり、同線上に中間倉庫設置を要することも確定的のものとなり、此等に關し種々研究の結果、米軍は主中間倉庫の位置を *St. Nazaire* より *Tour* を經て *Dijon* に至る主要鐵道線路上にある *Cievers* に決定した。

當時佛軍の規整停車場は *Tesart-Tille* 及び *Gray* にありて、西方戰場中の東方に位置せる軍の爲に之を使用してゐたが、米軍は佛軍と協議の結果、*Tesart-Tille* 停車場は依然佛軍にて使用すると同時に、米軍補給品の分配をも之を負擔せしむることとした。

然れども米軍は當時尙戰團に参加しあらざりしを以て、同軍に對する追送補給品は *Tesart-Tille* よりの配給に便なる *Condrecount* 附近の訓練地に於て交付せられ、従つて此の地點に前進倉庫を開設することとし、規整停車場よりの軌道の構築及倉庫建設等に着手した。

曩に述べたる如く佛國は港灣に於ける米軍補給品の一日の最高揚陸量を三萬噸と制限せしが、之を鐵道に依り前送するに當り、*St. Nazaire* より *Tour* 及び *Cievers* を經て輸送し得べき一日最大量は約二萬五千噸なりしを以て、殘餘の五千噸の前送は要すれば傍系をなせる *Orleans* 及び *Corse* を經由する線路に依らざるを得なかつた。

Cievers の倉庫建設着手後、米軍は將來に對する状況を考究の結果、戰局若し遷延せば、根據地として *Bordeaux* は

St. Nazaire に比し一層重要なことを知るに至つた。蓋し前者は附近に Reims の船渠を有し、且つ同じく附近にある Talouet は港湾施設完備し、此等と共に大規模に使用し得るに反し、後者は港湾としての諸設備を帯ふるに十分ならざりし故である。加之前述の如く中間倉庫を一地に置くは、敵の空中攻撃を受けし際、其の補給品を全滅せらるゝの虞あるを以て、他に之を分割するの必要を認め、Cherbourg と相俟つて中間補給に任ずべき倉庫を開設することとし、其の位置を Bordeaux より St. Nazaire 及 Iles-de-Ré 間に亘る線に至る主要線路上に在る Chateaufort 附近の Montreuil-sur-Mer に選定したのである。

其の後間もなく敵潛航艇の跳梁も漸く其の勢を失し其の他の状況も良好となり、佛國內に各軍の有する九十日分の豫備補給品は、之を半減して四十五日となすことゝなつた。但し之が各地に於ける貯蔵区分比は依然として、根據地に半部、中間地に三分の一、前進地に六分の一の率を保つことゝした。

米國の參戰後出征せしむべき總員は約五百萬を以て最大限とせしも、一九一七年秋に至り、今後戦局を有利に終結するには、尙以上の兵力を出征せしむるの要を認むるに至つた。然るに從來米軍が主として荷物の揚陸に使用せし St. Nazaire 及び Bordeaux の二港は、それ以上多數の客船の出入を許さず、爾後の兵員揚陸の爲、更に一港灣を選定するの必要があつた。而かも當時此の目的の爲、使用し得べき港灣は單に Brest あるのみなりを以て、同地を米軍根據地の一に加ふることゝし、一九一七年十一月根據地業務を開始した。但し同地には殆んど荷物を揚陸せず、米本國より到着せる軍隊の主要上陸地として之を使用することゝなつた。

一九一八年春期、Amiens 方面に對する獨軍の攻勢及之に對する英・佛兩軍高級幹部の恐慌は、米國の歩兵及機關銃

部隊の急遽出征を要望するに至り、之が爲英國は其の船舶を米軍輸送に提供し、途中英本國の使用をも認め、且つ Dover 港に於ける海峡渡船施設をも整備せしを以て、米軍多數の兵員は英國を経て同港に上陸した。但し其の内若干は Cherbourg にも上陸した。

一九一八年の春期及初夏に至り、敵潛航艇戰に對する聯合國側の對應も漸く其の効果を表はし來りしに當つて、米軍の渡佛出征計畫及實施も着々進捗し、從來の根據地のみにては不便を感じしを以て、馬耳塞の完備せる港灣施設及其の他同港の有利の點に着眼し、再び同之を使用の議を生じ、遂に同港を荷物揚陸地として使用することに決し、一九一八年初夏より揚陸業務を開始した。但し同港に揚陸すべき荷物は假りに喪失するも戦局に重大若は致命的影響を與へざる品種、例へば馬糞及糧食の一部、揮發油、工兵材料の一部の如きものにして、米軍は所要の錨地を得ると共に人員を派して相當機關を設けた。

一九一八年秋期に至り、翌一九一九年六月迄に米軍總員四百萬人を出征せしむることゝなつた結果、馬耳塞の使用範圍を前述以外に擴張することに決し、同港に於ける米軍使用錨地を増加すると共に、同港を去る遠からざる Toulon 「從來は佛國海軍の爲、特に他の使用より控置せし港とす」の錨地をも加へ、尙 Cette の港灣設備を改善し、Mitsunaga に倉庫を建設した。且つ馬耳塞より里昂を通じて北方に走る鐵道は比較的自由に米軍の爲使用し得たるを以て、今や馬耳塞は米軍根據地の主要なるものゝ一となつた。

大戦前に於ける米國陸軍の陣中要務令には、兵站線を経て野戦軍に對する補給勤務の概要を掲げあり、之に依れば兵站管區には司令官たる一將官と之が幕僚とを置き、該幕僚中參謀副長中の一人は所要の場合に司令官の名を以て兵站

管区内の各地區に對し命令を發し得るの權限を有せしめた。而して大戰に當り佛國に到着後、實際の狀況に鑑みても根據地諸港には、總司令部を代表し若は直接其の隷下にある者の指示を受けて責に任ずる相當權限ある機關を置くの必要を認め、當初に在りては總司令官自ら其の衝に當りしも、漸次處理すべき事項繁多となり、寧ろ同司令官の部下に專任者を置くを適當とし、當時の出征軍總司令部所在地たる巴里に兵站總司令部を設けて兵站管區を設定した。而して各根據地には特に一機關を常設して其の業務を統轄せしむるの必要を認め、一參謀副長を長とせる機關を設置した結果、各根據地及其の附近に對しては、軍政を布くの要を見るに至つた。

根據地々區に於ける或る兵種就中砲兵の訓練及其他の事情は、前記參謀副長が遠く兵站總司令部に在る兵站司令官を代表して事を處理するに比し、別個の機關を特設するを適當と認め、各根據地に兵站總司令官〔Commanding General Line of Communication〕を代表し、一定の地區内を指揮する機關として地區若は區司令官〔District or Section Commander〕を設けることとなつた。而して現在使用し若は將來使用豫定の數個の根據地の各境域を定むるに當りては、成るべく佛國の行政地區々分と一致せしむることとした。

是より先、米軍が最初に兵站管区内に設けし根據地は、第一根據地區〔Base section No. 1〕即ち St. Nazaire 及第二根據地區〔Base section No. 2〕即ち Bordsaux-Bassens の二個所にして、其の後 Cherves 及其の附近に於ける倉庫其他の設備の進捗に伴ひ同地を以て中間地區〔Intermediate Section〕と定めた。之と殆んど同時に佛國の所謂戰地帶〔Zone des Armes〕の後方境界と其の界限を同うして師團の訓練地を包含せる前進地區〔Advanced Section〕を設定し、尙其の後、漸次必要に應じ英國に第三、Le Havre に第四、Troy に第五、馬耳塞に第六、伊國に第八の各根據地區を設け、又當初の第

二根據地の一部を割き La Pallice, La Rochelle 及其の附近を第七根據地區とした。爾後戰局の進展に伴ひ此等根據地にては、何れも時々兵員十五萬以上を收容する場合ありて、以上の如く軍政的見地より一定の地區を設定せしことは便益少からざりしものと認められてゐる。

其二 戰闘間に於ける補給

〔本項は米軍總司令部參謀部第四課長 V. H. Mosley の所述す〕

一九一八年春期獨軍は數次攻勢を取り聯合各國軍の擊破に努めたが、當時に至るまで米軍は未だ實戰に参加せず、出征米軍は専ら後續部隊の訓練に任じ、同時に其の補給施設の整備に努めてゐたのである。即ち當初は常に佛軍との協同動作にのみ従事せし關係上、米軍の補給上の活動は主として訓練部隊に限られたるも、今や戰闘部隊に對する補給を要するに至りしを以て以下之に述べることとする。

(一) Château-Thierry 方面に於ける米軍の補給

一九一八年五月獨軍は Aisne に對し攻撃を開始し、爲に巴里防禦に關する問題は重大なる情勢を齎し、聯合軍總司令官 Foch 元帥は、戰闘に使用し得べき米軍を擧げて其の直接隷下に置き、此等米軍の既教育部隊を Château-Thierry の正面に集結せしめた。是に於て米軍第二師團は巴里の北方地區より前進し、其の第三師團は Chaumont 附近の訓練地より進出し、次で第一・第四・第二十六・第二十八・第三十二・第四十二・第七十七の各師團も此の方面に出動し、其の總員三十萬以上に達する部隊を集中した。

然るに當時米軍の編制上、軍〔Army〕を有せざりし爲、以上各師團の補給に對する責任は米軍總司令部參謀部第四課

之に任ぜざるを得ざりしを以て、同課は *La Ferté-sous-Touarre* に之が爲事務所を開設した。是より先、前述の如く米軍の戦闘参加に決するや、傷病者の治療及後送勤務は參謀部第四課B班〔醫務班〕に於て統轄せしが、右同課の事務所新設と同時に之が統轄をも同事務所長の管掌に移した。

狀況以上の如くなりしを以て、米軍は其の補給施設を急速完備するの必要に迫られたが、最初戦線の東部に使用する豫想なりし爲、前述の集中地方面に於ては未だ一の前進倉庫を有せず、*Orléans-Montargis* に於ける倉庫建築は計畫中なりしも、尙之が着手を見ざる状態であつた。

前記の如く戦闘参加の爲、集結せし米軍は最初糧食及馬糧の補給を佛軍より受け、其の他の補給品は *Issy-Tille* の前進倉庫より補給せしが、同地より軍隊集結地への距離は、中間倉庫所在地たる *Chevre* より距離に比し却つて遠隔し、且つ前進倉庫よりは逆送をなすこととなり、往復の鐵道幅輻せしを以て、參謀部第四課は一九一八年六月四日以降 *Chevre* を以て前進倉庫地となし、巴里の東北方所在軍隊の補給に當らしめた。是より先、米軍は *Creil* に規整停車場を設けたるも敵の空中攻撃を蒙り、之を後方 *Bouquet* に移した。同地は佛軍の *Clâteau-Thierry* 正面に對する規整停車場として使用せし所で廣裕なる地域を有し、且つ佛國東部及北部の二主要鐵道線を連絡する要地である。然るに此の二線を使用するも佛・米兩軍の補給には不十分なりし故、米軍の右規整停車場は *Clâteau-Thierry* 正面に近く位置せし軍隊即ち巴里方面軍と稱せしものに對する補給を掌らしめた。

前述の如く中間倉庫地たりしものを前進倉庫地に變更せし *Chevre* は幾多の點に於て不便不利あることを發見するに至つた。即ち同地より戦線方向に運轉する列車は各其運輸系統を異にする三線を経るを要し、此等三線は各一列車の輸送能力を異にせしを以て、先づ此の障礙を防ぐには特に此の點に注意して運行を計畫し、必要の場所に於て列車の分離をなし各線に適當の列車を編成せしむるにあつた。之が爲運行の混雜遲延を免れず、努力の結果一列車の最小限の運轉距離を約四十八哩とし辛うじて其の用を辨じたが、至急を要する補給に當り時機を失するの虞ありしを以て、諸倉庫を更に前方に推進せしむるの必要を生じた。

是に於て軍倉庫〔*Army Depots*〕なるものを設くることとし、新倉庫地として *Seine* 及び *Marne* 間に *Issy-Tille* を選定した。同地を倉庫地として選定せし要旨は、後日 *Argonne* を同種の倉庫地として選定せしとは之を異にしてゐる。即ち當時獨軍は各方面に急激なる進出を敢行し、巴里も亦再び危急に瀕せしを以て、野戦軍に對する補給施設は規整停車場より前方に設くるの要を見、斯く新に軍倉庫なるものを開設したのである、而して規整停車場も軍が更に前進する場合は、之を *Issy-Aubrais* に移すの計畫を立てた。

Issy-Tille は當時將に進出せんとせし第一線部隊所在地帯の直後にありて、*Meaux* の鐵道端末を去ると五十軒、巴里の東南三十五軒の距離にある地なるが、此處に貨物自動車中隊を配置し第一線部隊の急需に應ぜしめた。即ち同地を以て臨時倉庫地となせしもので、之が爲爾後の戦況に應じ迅速なる補給をなすを得た。例へば友軍が獨軍の瓦斯攻撃を受けたる際は速かに防毒衣約十萬を前送し、其の外多大の衛生材料及他の補給品を機を逸せず前送するを得たるが如く大に其の價値を發揮した。右臨時倉庫には若干の豫備糧秣及野戰糧秣を集積せしが、第一線より比較的遠隔しあらずりし爲、其の數量を限定し、容易に他に移動し得、且つ退却に際しては直ちに軍隊に分配し得る程度に止めた。然れども同倉庫に於ける彈藥の集積に關しては困難なる問題を惹起した。蓋し米軍の彈藥は爲し得る限り佛軍より之が補

給を受けたが、獨軍の攻撃に依り佛軍既設々備等は多く破壊せられ、若は危険に陥りしを以て、新に彈藥の補給維持の方法を講せざるを得ざる状況となり、Mortier [Seine 及 Marne 間] に彈藥を集積することとした。同地を選定したる理由は其の位置第一線を去ること比較的遠からず、其の間自動車輸送を爲し得るに依るものにして、右彈藥集積所位置選定と同時に同地に鐵道端末諸設備の構築に着手せしが、之に先ち實際鐵道端末として使用し日々の補給を實施した。或る鐵道線に於ける補給列車が敵の攻撃の爲運行不能となり、之を他の線に連絡せしめし一例として、一九一八年六月十八日獨軍の攻撃に對し聯合軍に於て逆襲を敢行せし際、米軍第二師團の經驗の概要を述べることとする。米軍の同師團は當時佛國の「東部」鐵道の支線に依り軍需品の補給を實施しありしが、同線路は敵の爲遮断せられしを以て、補給列車は之を「北部」鐵道の佛軍々用線より支線を設けて之に連絡せしめ、以て右師團の新鐵道端末に至るまで運行して、之に依る補給品の前送は電信の連絡に依り支障なく繼續した。

尙其の當時聯合軍側は獨軍の攻撃進出を豫期し諸種の準備に着手しありしも、俄然聯合軍は大逆襲に轉ぜし爲、多數の軍隊より急に莫大なる需要ありしが、所要の方面に遲滞なく鐵道支線を設け人員・資材の補給維持を完うした。此當時迄米軍師團は他聯合軍の内に混じて行動せし故、軍 [Army] の編制を有するに至らざりしも、一九一八年七月末迄に右戰團正面に於ける米軍の数は佛軍を超過せしを以て、同月二十四日米軍第一軍を編制し、其の司令部を La Ferte sous-Jouarre に置いた。然るに此の正面を米軍に委するの計畫を實現するに先ち、同軍は St. Mihiel 方面に於ける攻撃作戦參加の爲、同方面に移動せしめられた。

(一) St. Mihiel の追撃戦に於ける補給

米軍は歐洲上陸當初、Toul 附近の地區に之を使用することを豫想し、其の補給施設も該方面に對し準備することとし、先づ一前進倉庫及規整停車場を Tressy-Tillie に開設し、尙同地より補給する他の一前進規整停車場を Liffolle-Grand に建設することとし、同前進規整停車場をして Toul 附近地區所在軍隊の補給に任せしめた。而して Verdun 附近及其の以西に在る部隊の補給は既存の佛軍補給施設を利用し、St. Diar に米軍専用の倉庫開設を企圖し、其の補充の爲、Poison に前進倉庫及規整停車場を設けて之に當らしむる計畫を立てた。然るに Poison 及 Liffolle-Grand の建設工事實施は、獨軍の攻勢に對し米軍の使用方面に移動を來したるを以て自ら遷延し、米軍が第一軍を編成して Chateau-Thierry 正面より Toul 附近に移動を開始すると共に、其の補給は直接 Tressy-Tillie より實施することとした。

訓練地より直ちに進出したる師團・軍及軍團直屬の砲兵、航空隊及戰車隊、並各種修理班長及患者輸送隊等補給の爲、新に途中調節の設備を要することとなり、更に一規整停車場を St. Diar に開設し、同時に曩に Chateau-Thierry の正面に對する前進倉庫として補給に任せし Cherve 所在倉庫は、茲に再び新戰團正面に於ける一前進倉庫となり、該方面所在軍隊の補給に任じた。

獨軍の攻撃に對し一九一八年七月十八日聯合軍が逆襲に轉じて以來、彼我の形勢は變化を呈し、St. Mihiel に於ける戰團の初めに、聯合軍は漸く優越の地歩を占むるに至つた。而して同地方の戰團は極めて迅速に經過し聯合軍の勝利に歸して敵を驅逐し、米軍は大なる成果を收めて、更に Argonne-Meuse 方面の地區に移動して作戰することとなつた。此の時に至り米軍は全然攻撃作戰に轉じ、曩に Chateau-Thierry 方面に於て經驗したるが如く、戦況不利の場合、鐵道端末地所在の補給品の處理に關し顧慮するの必要なく、唯軍の進出に伴ひ補給品を遲滞なく、前送追従せしむる

ことを主眼とし、此の要求に應ずる爲、鐵道端末前方の輸送に毎日自動車を使用した。此の場合に於ても鐵道端末地に於ける糧秣の集積量は補給擔任部隊一日乃至二日の所要に限定せられありしも、工兵器材及彈藥は軍の進出に應じて必要とする量を集積せしめた。而して前述の如く米軍の活動は漸く開始せられ、軍需品の補給量も増大し、且つ急を要するもの少からざりしを以て、便宜の處置として佛軍集積場を譲り受けたる外、自動車用揮發油・機械油及其他の脂油保管の爲倉庫を建設した。此等の作業は攻撃實施の當日たる九月十二日中に總て完了し、續いて實施せる軍の急速なる進出に對する補給に何等の支障なからしめた。

獨軍を追撃すること四日の後、米軍使用の鐵道は之を延長するの必要を生じたるが、主線たる Comerey-Verdun 間は既に敵火の虞もなきに至り、容易に之を實行するを得た。而して爾後の作戦は Argonne-Meuse の正面に移り、補給に關しても此の方面の處置を必要とするに至つた。

以上の状況に伴ひ、米軍の第二軍は十月十日に編成せられて Verdun 東南の正面を擔任することとなり、之が補給の爲に Is-sur-Tille 規整停車場を使用し、Cot. Dist. 倉庫は専ら第一軍の補給に任せしめた。

(三) Argonne-Meuse 正面の補給

此の正面に於ける作戦地域の交通状態は稍複雑にして、補給施設も極めて單純ならず、即ち該地域は Verdun の東南 Frances-en-Woivre [Meuse] の Ste. Menchould [Marne] の東方 La Harcelle [Marne] に亘つて居た。而して Ste. Menchould 及 Verdun に通ずる鐵道より分岐し、豫想新作戦地域たる北方に至る線路は廣軌線二條を有し、一は Ste. Menchould より Challenge に通じ、他の一線は Verdun より Meuse 河に沿うて Gexat に通じた。然るに前者は佛軍作戦區域内

にありて其の第四軍「米軍の左翼に作戦す」に對する補給に使用せられ、後者は獨軍砲火の下にありて、Meuse 河東方地區の占領後にあらざれば之を使用することを得ざりしを以て、米第一軍は Verdun, Ste. Menchould, Montfaucou を通ずるもの以外に廣軌鐵道の使用を許さず、唯前記北方に通ずる二線の間地區中に佛軍の構築せし六十種輕便鐵道ありて一は Montfaucou 方向に至り、他は Argonne 森林を通過するものありしが、其の後戦況の進展に伴ひ此の兩線を獨軍にて敷設せし六十種線と連絡せしめ専ら彈藥の前途に用ひ、時に一定の制限の下に糧食をも輸送した。而して鐵道端末地より前方地區に於ける補給品は、其の大部を自動車若しは車輛に依り之を輸送せしを以て、鐵道端末は爲し得る限り推進し、一時は敵の砲火を蒙る場所に之を設けたることありて、唯敵の砲撃開始せるとき一時他の地點に之を變更した。右の如き鐵道端末地には集積を避け、師團輜重に對する補充の爲、別に豫備及野戰糧秣の集積場を、敵の空中攻撃及砲火の被害の及ばざる場處に設け、又直接敵の砲撃を受くる虞なき鐵道端末には若干の糧秣を集積した。

又當時特に數個の軍倉庫 [Army Depots] を開設したるが、曩に Lieusaint に設けたる夫れとは稍趣を異にして居た。即ち Lieusaint に於ける倉庫は各勤務に對し共通のもので、且つ當時敵進出の脅威ありたるを以て、第一線を去る遙かの後方地區に設けたるも、今回は單に友軍の前進を豫想し、極めて前方地區に之を開設し、且つ各勤務毎に各別の倉庫を設けた。但し此等施設も臨時的のものにして、鐵道の設備之が實施を許せし狀況のもののみ實施せしものなるが、要するに其の施設としては待避線に沿うて補給品を集積し、之を偽裝したる防水布を以て覆へるものであつた。St. Mihiel 追撃戦の終つて Argonne 攻撃戦の開始との間に十日を有せしが、此の期間に於て米軍は Ste. Menchould 及 Verdun を通ずる主鐵道線路に沿ひ各所に鐵道端末補給設備を整へた。即ち最前線にある部隊の爲には Les Islettes,

Chernont-en-Argonne, Aubréville, Dombasle 及 Verdun 並 Revigny より通ずる一米軌道上にある Nixerville に、之に次ぐ戦團部隊の爲には Froides, Fleury-sur-Aire, Souilly, Vadaincourt, 及 Rampart, Dugny, Rattenfont に、又豫備部隊戦場に到着すべき軍隊の爲には、Revigny, Vaubécourt, Nançois-Tronville Robert-Espagne に、何れも補給倉庫を開設した。「以上各倉庫地は總て Meuse 縣内に在り」

聯合軍攻撃の進捗に伴ひ、其の六十種輕便鐵道線は獨軍の遺棄せる同線に連絡し、米軍の最前進部隊は此の線路を利用して Montfaucou より補給し、又同時に Argonne 地方の同種の輕便鐵道も其の整理を了した。然れども此等の線路のみにては軍の補給を完うするに足らず、且つ是より前方の道路幅狭して數日に亘り自動車運轉すれば甚しく道路を害し、自動車輸送は實行困難となるの状況なりしを以て、鐵道の延長敷設の急を訴へた。

攻撃の當初に於て米軍工兵は、Aubréville より所謂無人郷〔No Man's Land〕を横斷し、Varennes-en-Argonne〔Meuse 縣〕を経て Apremont〔Ardennes 縣〕に至る標準軌道の築設に着手し、尙同軌道を Apremont より Châtel-Chéhéry 及 Grand Pré〔兩地共 Ardennes 縣所在〕に達せしめた。

工兵は、右の外 Verdun-Sedan 間の鐵道が敵火の被害より脱すると共に直ちに之に修理を加へ、又鐵道端末より前方地區の道路交通維持の爲派遣せられた。此等鐵道及道路の構築工事には、多數の鐵道材料及砂利等の輸送を要し、此等は戦團部隊が日々必要とする補給品と同一徑路を経て輸送せられし爲、彼等の補給上少からざる混雜を來した。

上記各鐵道は當時人六十七萬五千、馬〔騾共、以下同じ〕十一萬五千に對する日々補給に任じたるものなるが、之と同時に砲兵戦は前古未曾有の激烈を極め、爲に消費彈藥も莫大の數に達した。此等を實際の數字に就て見るに、

九月二十六日より十一月十一日迄に消費せし彈藥は、七五密野砲三百十萬六千四百四十四發、一〇五密砲十四萬六千八十發、佛國式一五五密加農砲二十六萬八千七百七十二發、一五五榴彈砲四十九萬八千九百九十二發を發射し、尙此等以外の口徑の諸砲銃及海軍用重砲も亦少からざる彈藥を消費した。又 Meuse 波河の爲には莫大なる工兵材料の追送を要し、或は全師團を交代せしむるものあり、或は又日々生ずる傷病者の補充輸送あり、此等傷病者後送の爲には日々十列車を要し、十月中に後送せしものみにも十一萬三千五百九十九人に達した。此の外毎日鐵道構築の爲六乃至七列車を、道路修理の爲三乃至五列車を運轉した。

以上の如き輸送上の難關に當面せし結果、兵站線は之を推進し、既存鐵道を急速に修理する外、多數新設を要するものがあつた。又道路も通行不能のもの多く、之が修繕も極めて急を要した。而して鐵道の荷物輸送力は輪轉材料の多寡と端末設備の如何とに係り、且つ荷物を迅速に卸下し停滯を防止する爲には、規整係將校〔Regulating Officers〕の綿密なる監督が必要であつた。又鐵道の構築及同端末地勤務の將校には到着列車の貨物を速かに卸下し得るに足る十分なる勞働力を保持せしめ、以て作戰地域内外に貨車の出入を絶つことなからしめ、毎日午前到着せし列車は同夜必ず之を還送せしむることゝした。又砂利及枕木を積載せる列車は停車後直ちに卸下し、前送し來りたる機關車を其の儘使用して後退せしめた。斯くの如くして尙或は時に滯貨するを免れなかつたが、之が爲野戰軍の補給に支障を生ぜしめたることなく、又同時に兵站に於ける構築及修繕工事を遷延せしむることなくして此の難關を經過した。

十月二十六日より十一月一日迄、戦團は中止の狀であつたが、此の間に Aubréville より北走しつゝ Varennes-en-Argonne に至る鐵道は其の構築及端末設備をも完了した。該端末は十二萬五千人に對する補給施設を有し、尙病院列車に乘車

の爲の分歧線及歩廊を設けた。又同鐵道端末より Apremont に至る道路を平坦にし其の一部は砂利敷となし、且つ枕木其の他の鐵道敷設材料を準備しありしが、聯合軍第二次の攻勢移轉後四十八時間にして此の兩地間の連絡を完うした。是に於て前進部隊に對する鐵道端末を更に推進し、Varennes-en-Ardenne Apremont, Grand-Pré 及 Challemange の線に之を設け、其の内 Challemange に至る列車は Ste. Meuse より北方に通ずる線を越え佛軍作戦地域を通過せしめ、又其の東方には Chateaucourt [Meuse 縣] に一鐵道端末を設けた。聯合軍の前進に伴ひ米軍も Meuse 河を渡り、今や Verdun より Sedan に通ずる鐵道は Seny に至る迄、敵火を蒙ることなかりしを以て、大破せる該鐵道を應急的に修繕し Dun-sur-Meuse 迄開通し、十一月十一日頃同地に鐵道端末設備を施した。此の地點は曩に獨軍の鐵道端末たりしものである。又 Apremont-Challemange 線上に在る Châtel-de-Chéry は Puzancy [Ardenne 縣] まで修理を了せる六十種軌道線と本線との轉換地點として之を使用した。其の後戰闘部隊の前進に伴ひ兵站線を延長して新鐵道端末地を所々に設け、豫備部隊の爲の同端末は Ste. Meuse 線より Verdun 線上の各地を使用した。尙新鐵道線を構築する計畫ありたるも休戦と共に此等の工事は一切中止した。

Argonne-Meuse 地方の戰闘に於ける軍需品の補給勤務中、注目すべきものは揮發油の補給に關する事である。同戰闘中に於ける揮發油日々の消費量は十五萬瓦に達したが、此等は補給用自動車の所要以外、自動砲車及戰車の爲に費せしもので、此等の活動は一に揮發油の補給如何に依り左右せられたのである。故に佛軍にては各規整停車場の後方に揮發油庫を設けて油槽車を常に準備せしめ、同倉庫地にて五十「リットル」入油罐に詰換へ、之を規整停車場を経て鐵道端末及揮發油前進停車場に前送した。此の補給徑路は前記の如く佛軍の採りたるもので、同軍は通常の鐵道端末

に比し揮發油の爲の前進停車場を重要視したのである。然るに米軍に於ては油罐潤澤ならず、加ふるに空罐の返送意の如くならず、益其の拂底を告げしを以て、一車七百五十瓦の油槽自動車百臺を Fleury-sur-Aire に、其の後之を Clermont-en-Ardenne に集め、同所にて五千五百瓦鐵道油槽車より補充し、所要に應じて各師團に之を前送した。右 Clermont には同地が尙敵砲火の下にありし時より揮發油の非常豫備補充倉庫を設けたが、當時二十萬瓦を容るゝ大油槽數個を地下に設備し、鐵道貨車よりの卸下及油槽自動車への積載には機械装置を設備した。

其の三 戦略的補給

〔以下本項記する所は米軍總司令部第四課の記述なり〕

作戦に關し戦略及戰術の別ある如く、軍の補給に於ても戦略的補給と戰術的補給との區分をすることが出来る。之を米軍の例に見るに、出征軍總司令部參謀部第四課は出征地に於ける補給・建築及輸送業務の統轄を其の主要任務とするものなるが、同課の管掌する所は、此等各勤務の戦略的方面にして戰術的のものではない。換言すれば戰術的補給事項は各勤務部之に任すべきものなるも、戦略的問題は總司令官直屬幕僚の一員として、常に將來の作戦に關し、同司令官の意圖及計畫を知悉しある者をして、出征軍補給勤務部長 [Commanding General, S. O. S.] と協調して之を處理せしむるを要するものである。右參謀部第四課が戰術的補給事項に關與する場合は、同課よりの派出員たる規整將校 [Regulating Officers] を通じ、野戰軍と各補給勤務部との連繫調整をなすことに殆んど限られたるも、全補給施設に關する戦略的問題は常に同課の管掌に屬した。

其の四 佛國內に於ける米軍の地位

第七章 各國の補給業務

一九一七年六月十四日米軍第一次出征部隊が佛國に上陸せし際、他の聯合各國軍は瑞國々境より英佛海峡に至る六百二十五軒の正面に互り敵と交戦中にして、當時一般の戦況は固定的となりありしを以て、各種軍需品は第一線附近に多量に之を集積するを得て、補給に關する問題は比較的單純なりしも、一面に於て陣地戦の特質上、新資材の要求を増大し、其の品種は極めて多數となつた。之が爲鐵道は極度に使用せられ、且つ陣地の前進と共に鐵道の推進を必要とせしも、此等の場合は通常六十輻輕便鐵道を以て當面の急に應じた。

當時英佛海峡諸港及之に接続せる鐵道は英軍にて使用し、巴里より北方戰線に併行せる各鐵道は佛軍にて使用した。巴里附近の地區は戰線との往復の爲、車馬輻輳し交通路は既に充溢しありて、此等の港灣及鐵道は米軍の使用を許さず、強ひて其の兵站線を此等地方に設けんとせば、英・佛兩軍の兵站線を横斷せざるべからざるの状況であつた、然るに一方Marseille及Toulonの兩港は敷設水雷の爲、其の使用に制限ありしのみならず、Garonne方面に出動せし軍隊及之に要する補給品の大部は、此の兩港を往復に使用せしを以て、是れ亦米軍の用に供する餘地少なく、同軍の使用し得べきものとしては僅かに大西洋に面せるBrest, Loire河沿岸諸港・La Pallice, La Rochelle, Gironde河沿岸及附近の諸港を残すのみであつた。

Brest以外の上記諸港より佛國內地に通ずる鐵道は、Toulon, Bourges, Nevers, Dijonを経て、北方Neufchâteauに至る主線を構成せしものにして、Neufchâteauよりは放射線狀の支線ありて、同支線は米軍集中地として選定せられたる地域の大部に通じて居た。以上諸港を米軍根據地として選定せし結果、同軍は英佛兩軍に累を及ぼすこと最小限度に止まり、且つMarseilleをも利用し得る時期至らば、他の地中海沿岸諸港をも米軍に使用し得るを以て、其の軍隊及補給品の輸送は概ね支障なきを得た。

前記鐵道に依り補給を實施するに當り、各種補給倉庫の配置は殆んど理想的に之を爲すを得た。即ち之をTours, Orleans, Montargis, Bourges及Châteaurouxに亘る地域に配置したが、此等倉庫は特にNancy附近に於ける軍隊の補給に便であつた。當時佛軍側の言に依れば、Dijonを経て毎日二萬五千噸の荷物を輸送し得べく、尙之以上の輸送を要する場合はOrléans-sur-Seineを経て一萬五千噸を前送し得るのみならず、若し右兩線を使用して尙不足する時はTroyes-Briçonを経て一萬噸を輸送することを得る筈であつた。爾後間もなく米軍はSt. Mihiel方面に作戦し獨軍の主要鐵道たるMetzよりBriey鐵道地區へ通ずる線に進出し得る戰略的有利の地位にありし等、諸種の場合より判斷して總司令官は以上の如く計畫し、且つ所要の建造物を構築せしめたのである。

元來佛軍補給の要領は、全國各地にて補給品を蒐集し、之を所要の方面に自由に移動して使用せしむるにあつて、佛の各軍は何れも之に依り給養及補給を受け得る如き鐵道線上に數個所の倉庫を設け、此等倉庫よりは補給擔任の各軍に對する規整停車場に補給品を前送し、同停車場より更に各軍に補給して居たが、斯の如き補給組織を米國出征軍は直ちに倣ふを得なかつた。即ち之が爲には兵站に對し過重の任務を帯びしめ、且つ輸送交通の自由を確保することを必要とするも、何れも當時に於て之を求むべからざるものであつた。米軍の訓練地及爾後の戰闘參加地方は一九一七年夏期に略ぼ決定したが、戦況の變化に依りては、西方戰場の如何なる正面に之を使用するも其の補給を準備するの必要があつた。而し米軍兵站地區は當初根據地〔Base Section〕・中間地〔Intermediate Section〕及前進地〔Advanced Section〕の三に分ち補給組織を構成せしが、同時に規整停車場を設くる佛軍の方式を採用した。該停車場は軍需の補給を適當な

らしむるには極めて肝要のものであつたのである。

當初米軍は戦線の東部に使用せらるゝ豫定で、其の訓練地も之が附近に設けたるを以て、補給施設も *Laur-Tille* の方向に實施した。同地に補給設備をなすことは佛軍當局と協議の結果決定したるもので、當初は訓練中の米軍の補給に任ぜしむるを其の目的とせしも、爾後同軍の戦闘に参加するに及び、第二流の前進倉庫 (*Advanced Depot*) 若は規整停車場とした。尙當時米軍は佛軍と協議の結果 *Tripoli-Ce Grand* に一規整停車場を設け、既設規整停車場を経て補給するに不適當なる地域にある軍隊の補給を擔任せしめた。而して所要の各地に設けたる倉庫は、其の補給方面移動するも轉換容易なる如く融通性を帯びたる位置に之を設置した。

其の五 前進倉庫

前進倉庫の位置の決定は單純な問題ではない。鐵道の系統と密接なる關係を有し、尙成るべく前進しあるを可とするも、戦線の小移動にも影響を蒙むるが如きことなきを要する。而して米軍は其の作戰方面が確定しあらざりし故、其の前進倉庫の位置も軍隊の移動せし場合、之に應じて補給を完うし得べき場所を選定することが必要であつた。而して元來倉庫は如何なる急迫の場合に於ても、側方を迂回し急速推進し得るものにあらざるを以て、補給施設の戰略的顧慮は當初より特に之を周密にするを要するものである。而かも戦況の變化に依り建設着手當時は最も合適の位置にありしものも、其の工事中軍隊の移動に依り無用に歸する例も無いではない。

其の六 上陸當初の給補一般の要領

歐洲戦は從來補給の原則とせし「糧に敵に據る」の主義に反し、補給品の大部を出征地にて獲得せざるを得ざりしものである。米軍參戰當初に於て佛國は自國軍の補給維持に窮しありし際のこと故、米國出征軍は其の補給品を遠く大西洋を隔てたる本國より佛國港灣に送付し、更に同所より第一線に輸送せざるを得なかつた。而して此等の補給をなすに當り、米軍が如何なる正面に作戰するも支障なからしむる施設をなすの必要があつた。

米國出征軍の編成期に於ては各種軍需の補給及技術的勤務は、何れも均衡を持って平等に進捗せしむること極めて切で、或は時に一を抑へ他の進捗を促がし其等の平衡を保たしむるの必要を見たることもあつた。此の主義は其の後戦地にも實行するの必要を生じ、例へば糧秣及彈藥の前途急を要する爲、他の器材の輸送を抑制したることもあつた。而して此等に關する決定は戦勝を得る最上手段を掌握せる軍の意志に基いたのである。各機關に分擔の趣旨は、爲し得る限り之を實行し、以て最大能率を擧げしむることに努むるにあつた。但し分權主義の弊は人員及業務上重複に陥ることなきを保し難きも、此の弊害は各機關をして適當に協調せしめ人員及業務等を一機關の専用とせず、彼此相融通する如くせば之を除くを得るものにして、現に此の各機關の協調及分權に依り良果を收め得たる實例は上陸港灣に於て既に之を示した。即ち米軍出征の當初に於ては、各揚陸港灣に港灣司令官 (*Port Commander*) なるものを置き、同司令官は單に衛生・警察及軍紀に關して責に任じ、他の諸勤務は何れも個々分立して其の業務を遂行しありしが、其の弊を認め先づ *Bordeaux* の右組織を改變し、港灣に於ける一切の業務は之を港灣司令官にて統轄し、其の下に幕僚を置いて各種勤務の統一に任ぜしめ、其の結果不振の業務は標準點まで向上せしむるを得た。之が爲に一機關にて使用しあらざる人員及材料等は、之を所要の他の機關に流用し又は輸送を統制して緩急相通じ、其の能率の増進を圖つた。

曩に述べし如く出征軍は其の根據地港灣の選定をなすと共に、直ちに繋船場の増設及揚陸の設備を整へ、且品種毎

に分類せる上屋並引込鐵道線を構築した。

其の七 根據地倉庫

揚陸港灣及根據地區内に於ては所要の場所に各勤務の爲所謂一般倉庫〔General Depots〕を設け、揚陸せる總ての補給資材を集積した。但し石炭・馬糧・凍肉其の他此等に類する品種にして、分類を要せず船側に在る鐵道貨車に直ちに積載し、且つ該列車は其の儘前方地帯に運行せしめ得べきものは、必ずしも右一般倉庫に一旦收容することはなかつた。一般倉庫には多大なる收容力を有せしめ、以て鐵道の輸送力が不足し中間及前進地區に對する補給に制限を附せらるゝ場合の大豫備倉庫たらしめたのである。

米本國より追送せる荷物及之を搭載せる船舶を各港に平均に配當し、若は特定の港灣に特種の荷物を送付することは實行不可能なりしを以て、各根據地倉庫は其の集積量が一定して居なかつた。此の缺點を補ふ爲、直接戰禍より絶對に安全なる地域内所要場所に中間倉庫〔Intermediate Depots〕を設け、各種補給品集積量の平衡を保たしむることを期した。而して各中間倉庫の目的は直接軍隊が補給を受くべき第一線に一層近く設けられたる倉庫の補充をなすにあつて、該倉庫は所謂前進倉庫〔Advance Depots〕と呼び、中間倉庫より常に補充を受け、常續的に軍隊の所要を充すを以て其の任務たらしめた。

米國の補給計畫は、出征地に全軍に對する九十日分を保有せしむることとし、根據地諸港に豫備として四十五日分、中間倉庫に三十日分、前進倉庫に十五日分に區分集積せしむるの豫定なりしが、遂に其の實現を見ずして止んだ。

Tours, Orleans, Montargis, Bourges, Chateauroux の各地に設けたる中間倉庫は、何れも殆んど西部戰場中如何なる方

面に作戰する軍隊に對する補給にも適當なる位置で、此等中間倉庫は各勤務に要する各種補給品を集積した。特に (Hierres) にありしものは主要なる一般倉庫〔General Depots〕であつた。

Orleans 及 Montargis 地方には一時前進倉庫を開設するの議ありしも、之を設けざることに変更した。巴里方向に獨軍の進出せる際、其等地方に米軍を集結せしに當り、該地方に前進倉庫を缺きし故、Orleans を中間兼前進倉庫とした。同倉庫は其の後 St. Mihiel 及 Argonne-Meuse の戰闘間にも同様使用した。

斯くの如く中間倉庫を前進倉庫に兼用するが如きは、之を豫期せしものではなかつた。元來中間倉庫は前進倉庫の補充をなす爲設けらるゝもので、各種補給品は一定の標準を保つて之を集積せしめた。然るに前進倉庫は必要に應じ特種の品種を集積するものにして、唯 Taux-Tille に於ては各種補給品を集積せしめ、又第一規整點となせしも他に此の類のものはない。

元來根據地及中間倉庫の主任務は、補給品の受領・分類及貯藏にして、前進倉庫は此等に加ふるに軍隊に對する分配なる大任務を掌るものなるを以て、常に所要の貯藏品を充たし、軍隊の通常所要品は之を維持せしむる爲絶えず補給するを要した。之が爲 Taux-Tille の前進倉庫に對する後方よりの補充は同倉庫長之を按排し、其の要求に應じて所要品種を前送することとした。故に同倉庫長は豫め需要を豫測して之を準備し、規整係將校の要求に従ひ所要の品種を補給するの任務を有した。然れども前進倉庫より前方の補給は、時に状況の變化を來し軍隊に對する最後の分配に關し最も願慮を要するもので、前送補給は確實に且つ常に平均を持し、實際軍隊の消費に應じ得るものでなければならぬ。抑第一線に接近せる補給品の集積量は固より支給上支障を訴ふるほど過少ならしむべきではないが、同時に其の集積

品は敵の砲撃を蒙り若は捕獲の危険に遭ふことなきを保し難く、又軍隊に過多に之を交付し置くときは其の運動性を害することとなり、且つ攻撃準備の爲戦線近く集積場の設備をなす時は、敵に我が企圖を察知せられ、爲に奇襲の効果を減却することある等、第一線附近に於ける補給に關しては周到なる注意を要するのである。

其の八 補給機關の運用

出征軍補給業務の統轄は、總司令部參謀部第四課の任ずることは曩に述べた如くである。同課は其の實施に關しては經理〔Quartermaster〕・兵器〔Ordnance〕・醫務〔Medical〕・工兵〔Engineer〕・輸送〔Transportation〕・自動車輸送〔Motor-transport〕・信號〔Signal〕・航空〔Aviation〕及化學戰〔Chemical Warfare〕の九勤務部を通じて之が運用をなすのである。他の各國に於ても然るが如く、米國に在りても、戰闘部隊は常に十分に補給せられ且つ裝備せしむべきことを努むるも、此と同時に過重の負擔を課し軍隊の行動に累を及ぼし若は之を制限することなからしむる爲、補給上の組織は戰闘部隊の勞務を最少限度に止むるを主眼とした。

上記九個の勤務部は參謀部第四課と協同し、各専門的補給の確保に任ずるものなるが、前進地帯〔Zone of Advance〕の後方に在りては、此等各部は總て補給勤務部〔S. O. S. 即ち Service of Supply〕なる一大編制中に包含せられた。而して補給勤務部長〔Commanding General, S. O. S.〕は、出征地たる佛國內にある全米軍に對する一切の補給品・材料・裝備工場其他の施設の整備、上陸地に於ける軍隊及貨物の揚陸、爾後の鐵道輸送を掌り、尙有ゆる補給品の根據地・中間地及前進地に於ける集積比率を適當に維持するの責に任じた。此等の業務上各勤務部は各自其の専門に屬する事項を個々に處理せしも、其の業務上の成績に就ては何れも補給勤務部長に對して責に任じた。

各勤務部は概ね同一の趣旨の下に其の業務を實施し、何れも根據地には根據地倉庫を、中間地には中間倉庫を、前進地には前進倉庫を有し、尙爲し得る限り各勤務部は之を一所に集團せしめ、共通機關を置き全般の業務を管掌せしめた。Civres 及 Taux Title の如きが適例である。

各勤務部の業務を通じ大略之を(一)所要量の決定、(二)在歐の一般購買部 G. P. A. 即ち〔General Purchase Agent〕及米本國に於ける徵發に依り行はるゝ調達、(三)貯藏〔根據・中間及前進各地に於ける區分〕、(四)軍隊に分配〔規整係將校統制の下に〕の四に分類することを得る、以下此等に關して少しく述べようと思ふ。

所要量の決定には常に困難な問題が伴つた、例へば一九一七年夏に於ては米國出征軍の總人員を二十五萬とし、總て之を基礎とせしも、其の後間もなく一躍して五十萬となり、更に九十萬、次で二百萬に増加し、遂には四百萬に達するに至りしのみならず、之が實際所要を決定するは頗る容易の業でなかつた。固より英・佛等の先例は貴重なる教訓を與へしも、米軍には其の特質ありて必ずしも他の諸國軍の例に倣ふを得なかつた。是に於て經理團〔Quartermaster Corps〕は補給單位を二萬五千人と定め、之に對し補給品を爲し得る限り自動的に補充する方法に依り、次で兵器及醫務兩部も之に倣つた。斯く二萬五千人を以て補給上の單位とし、之が一ヶ月分の所要を自動的に補充する如くし、其の他に豫備として全出征軍に對する四ヶ月分を米本國より絶えず追送し、内一ヶ月分は新に出征する部隊が本國出發より最終到着地に至る途中に消費するものとし、出征地には總て九十日分の豫備補給品を有せしむるの計畫を立てた。

各種補給品は歐洲に於ては殆んど極度に拂底を告げしを以て、其の主要資源地は米本國に之を求めた、而かも一九一八年十二月迄の經理團の現地調辨のみにても其の金額三億八千二百萬弗に達した。又兵器にありては米本國に於け

る補給力整備に至る迄、全然之が補給を英・佛兩國内に仰がざるを得なかつた。

米軍參戰の當初に於ては、各補給擔任の勤務部は各別に其の需要品を調辨せしも、其の間競争を惹起し、市場を攪亂して價格を騰貴せしむるの弊ありし故、此等の缺陷を醫する爲、總調辨局 (General Purchasing Board) を設け各勤務部の調辨業務を統制せしめた。同局は各勤務部の代表者より成り、英・佛・伊・西班牙・瑞西各國に於て大調辨をなす場合は、豫め關係各國と密接なる連繫を保ち、尙佛國內の現地調辨に就ては聯合各國の協定に基き之を規整した。米軍の歐洲に於ける調辨法は概ね左の四種であつた。

- (一) 原料を補償することなき直買 (愛蘭に於ける馬鈴薯の如き)
- (二) 原料を補償する調辨 (七五密砲の如き)
- (三) 聯合國陸軍諸倉庫より諸材料の直接購買 (干草・四輪車輛の如き)
- (四) 米軍の勤務部監督の下に製造をも行はしむる調辨 (菓子類及硬パン等の如き)

米軍總調辨局は其の編成後著々活動を開始し、各種補給品の調辨上大なる効果を收め得たるが、之が具體的叙述は後章に譲る。曩にも一言せし如く出征米軍の爲、豫備補給品を出征地に九十日分集積し置くの計畫ありしも、絶えず兵數の増大の爲、遂に之を實施するの期はなかつた。規整係將校統制の下に軍隊に補給品を分配する方法及系統は各勤務共全然同一にして、其の趣旨とする所は補給の爲軍隊の運動性を阻害することなく、而かも同時に成るべく短少時間に必要な之を充足するにあつた。

補給品の種類も之を四種に大別することを得る。各種の分配法は左の如く相異つて居た。

第一種 軍隊の行動状態如何に關せず、日々之を必要とし、且つ消費する品種、例へば糧食・馬糞及燃料の如きもの、此等は人馬の生活に必須のものにして實際自動的に補給した。

第二種 若干の時を隔て、必要を生じ、日々補充又は交付を要せざるもの、即ち被服・靴の類。

第三種 速かに消耗するにあらざるも、不時破損に當り之が補充を要するもの、即ち炊爨車及小銃の如き此の種に屬し、此等の補給は自動的でない。

第四種 殆んど専ら作戦の状況に依り必要とするもの、即ち彈藥及陣地構築材料の如きものにして、攻撃若は攻勢防禦の位置にある軍隊は此等を要すること多大なるも、靜穩なる方面又は休戰地區にある軍隊は殆んど之を要しない。

以上の如き各種補給品を経済的に使用し且つ之を適當に分配するには、將來の計畫を知悉せる最高司令部の適切な統制に俟たなければならぬ。之が爲には同一物件に在りても其の取扱上右四種の性質を彼此轉換することがある。例へば第二種及第三種に屬する物件が極めて不足せし場合は、之を第四種のものと同様に取扱ひ、以て保管品を最も有利に使用するが如きである。

右第一種即ち糧秣の類は絶対に自動的趣旨に依り其の補給をなすものにして、日々師團若は軍團參謀部第一課は隷下部隊人馬の現數を軍參謀部第四課に通報し、同課は之を電報を以て規整係將校に傳達する。同將校は之と共に、其の擔任地區内にある軍隷下外部隊の人馬數の通報を受け、此の兩者を集計して各前進倉庫に之が補給を要求する。此場合規整係將校は各師團の需要を指示することもあり、又前送總數を示すに止まることもあつた。後者即ち單に前送

總數を前進倉庫に示す場合には、貨車若は列車の區分は之を規整停車場に於て實施せしめ、又鐵道端末に集積する補給品の數量は、單に不足を生ぜし際に備ふる範圍に止めしめた。

第二種即ち被服の類は、先づ中隊長其の所要を要求し、聯隊長が之を承認したる時は、聯隊の所要を集計して師團及軍團參謀部第一課(軍直屬部隊にありては軍參謀部第四課)に提出し、此等各課は規整係將校に、同將校は更に之を適當なる前進倉庫に補充することを通達し、同倉庫は輸送部の供給する列車に依り之を補充した。別に軍諸廠(Armory Parks)を置き、右正規補充の補足的に使用したることもあつた。

第四種即ち彈藥の如きもの、補充系統は、前記第二種及第三種の夫れと異なる所なきも、此の種のもののは爲し得る限り軍にて補給し、其れ以上の需要は軍參謀部第四課より總司令部參謀部第四課に要求し、後者は各部隊の需要の緩急及將來の行動を考査して其の補給法を決定した。總司令部は斯の如き正規的補給系統に依らしむの外、各軍に對しては第四種に屬する品種の一定量を限り、軍司令部が任意に軍隊に補給し得るの制を設けた。即ち該品種の一定量以内の需要に在りては軍司令部は總司令部を経ずして豫め承認せられある前進倉庫に直接請求するものなるが、此の場合に於ても總司令部參謀部第四課は其の補給量の報告を得て常に全般の補給状態を明かにした。而して總司令部にて第四種補給品の請求に對し、之を支給することを決定したる時は、擔任前進倉庫・規整係將校及軍司令部に其の旨を通達した。

訓練地に於ける師團の補給系統も前記戰鬥部隊の夫れと全く等しからしめ、師團幕僚及部隊をして其の手續に慣熟せしむることを期した。

一九一八年五月、六及七の三ヶ月間、米軍新師團は陸續佛國に到着し、之が補給に少からざる困難を惹起した。當時出征の米軍師團は師團所要の裝備を軍隊と共に搭載せしが、殆んど毎回紛失又は過誤を生ぜしを以て、總司令部は陸軍省に意見を具申し、爾後、渡佛師團は各員の各自裝備品のみを携行せしむることとし、追送補給品船舶輸送上少からざる効果を收めた。即ち從來の方法に依り師團と共に其の裝備を携行せしむるも、敵潛艇活動の状況に依り船隊の分離することあるのみならず、鋪地・各港灣間の距離、上陸後に於ける軍隊の配置等諸種の關係は、上陸師團が其の訓練地に至る迄に、其の携行品と軍隊と多くは分離し、徒らに輸送上の困難を來すのみなりしを以て、上記の如く改善方法を探るに至つたのである。右の如き方法を採用せし以前に在りては、補給勤務部内の各勤務部は補給品の現存する倉庫より之を前送した。而かも此等各勤務部長等は鐵道の状態を知悉しあらざりしを以て屢々端末地に於て貨物輻輳して滞貨を來し、特に數個所の根據地より時を同うして輸送し來りたる場合の如きは、鐵道の運行上少からざる支障を生じた。故に既に述べた如く補給組織の統轄を完全にし、繁文褥禮に依る業務の遲滯を除去し、總て補給は爲し得る限り自動的に之を實施し、戰鬥部隊が過重の補給品を擁して其の運動性を阻害するが如きことをなからしめた。

各師團には補給品を集積所有することを嚴禁せしに拘らず、一般補給組織の整ふに至る以前は、鐵道端末地及訓練地に於て其の停滯集積を生ずることありしが、後此等は總て分配することとし、最も急を要する方面の需要に充てた。

一九一八年二月米軍の一師團は同軍擔任正面より離脱し、佛の第六軍と共同作戰することとなつた。此の方面には補給上米軍は何等施設を有せざりしを以て、其の補給は先づ全然佛軍に依らんとせしも、佛軍の糧食は米軍の給與に適應せず、即ち佛軍にて支給する葡萄酒其の他の酒精飲料は米軍にて之を欲せざるも、肉類・珈琲及砂糖の定量は米兵に

は不足を告げた。是に於て兩軍は協定して、米・佛兩軍に共通なる品種は米軍の給與定量に基き佛軍側より供給し、米軍のみ使用する品種は米軍側の倉庫等より之を補給することとした。此の成績如何は爾後の聯合各國共同作戰の場合に於ける給與方針に大なる影響を及ぼすものなるを以て、兩軍高等司令部は深く其の結果に注意せしが、後に至り各國が同一方面に聯合作戰の場合、各國軍の給養に關して聯合各國高等統帥部は尠からざる苦心をした。

右の如く米軍の糧食の補給を米・佛兩軍にて聯合擔任する爲、佛第六軍に補給しありし *Orléans* (オーラン) の佛軍規整停車場に接して米軍の同停車場を設け、佛軍規整委員は米軍規整係將校の要求に基き其の需要品を交付し、此等補給品を積載しある列車に、米軍側より送付せる補足糧食品貨車を連結して之を前送した。而して其の後米軍擔任の補給品増加し、従つて佛軍擔任の夫れは減少せしを以て、佛軍の設備の一部を米軍にて使用し、所要の規整係人員を之に配置した。

補給を統制することは極めて肝要にして、嘗て英・米・佛及伊各國軍の師團が小地域に共同して作戰せし場合にも、總て一個の規整停車場を経て補給し、何等支障なからしめたるが如きは、能く統制の效果を示せしものと言はねばならぬ。但し師團以下の小部隊の作戰する場合に於ける補給は、却つて圓滑を缺けること多く、特に米軍専用の品種を適時輸送すること困難にして、此の場合已むを得ず佛軍よりの補給を受けしも米兵の嗜好に投じなかつた。

一九一八年初、米軍總司令は英軍總司令官 *Sir Douglas Haig* 元帥と協定し、米軍六師團を米本國より英國船を以て輸送し、該師團到着後は英軍の作戰擔任方面にて七十日乃至九十日間訓練せし後、米出征軍作戰方面に復歸せしむることとした。然るに同年春期に於ける獨軍攻勢移轉の爲、兵員の増加を必要とするに至り、右協定を擴張し二十萬

人即ち十師團 (砲兵及彈藥縱列を缺く) に達する部隊を包含せしむることとした。此等師團到着前、米軍は第二軍司令部を編成し、之を英軍總司令部の附近に置き、爾後到着せる米軍師團は英軍最寄部隊の補給を受けた。尙此等米軍師團は戰時裝備を有せしも、輸送具・自動小銃・火焰發射砲・三七密火砲を缺き、此等不足品中三七密火砲は佛軍より、其の他は英軍より之が供給を受け、其の内車輛及輓曳動物・火焰發射砲等は米軍に永久交付とし、自動車・ピツカース」及「ルキス」銃等は英軍と所在を同する期間に限り貸與せられた。又英軍用小銃及小銃彈藥は米軍が英軍地域内に在る間、一時米軍用のものに代へ使用し、乘馬及乘馬具並彈藥輸送車は、師團彈藥縱列を缺きし爲英軍の供給を受けた。尙此等米軍師團は英軍より糧食の補給を受けたも、「ラム」は之を除き珈琲は茶に換給した。被服中帽・軍衣・軍袴以外は亦英軍より補給した。斯の如き狀況なりしを以て米軍補給勤務部は、英軍よりの補給が圓滑に行はれざる場合か、若は米軍特殊の所要の外、其の活動を開始するに至らなかつた。

斯く補給方法を定めて之を實施せしと雖、一九一八年三月に於ける獨軍の進出間、英軍は軍需品を喪失せしこと少からざると、元來米軍の編制は英軍の夫れと異にする所少からざりしを以て、此等の事が相待つて米軍の補給上幾多の困難を惹起した。

米軍編制中に於ける聯隊本部 (*Regimental Headquarters*) 及本部中隊 (*Headquarter Company*) は英軍にては之を缺き、此等に對する補給は屢々齟齬を來した。而して前述の英軍作戰地域に送られし米軍十師團の多くは其の訓練完成に至らず、又英軍と共同作戰をなすに至らざる以前、即ち六・七兩月中に他の方面に移動せしめられ、唯第二十七及第卅兩師團のみ休戰時迄英軍と其の行動を共にした。之が爲此の兩師團に於ては、軍隊の編制を英軍と調和せしむる爲各

大隊を米軍特有のものに比し一層軍政〔經理〕的性質を濃厚ならしめた。最初米軍の炊事卒は英軍用糧食の大部は之を調理するを得ざりしを以て、此の方面に於ける兵卒は一般に純米軍用の糧食に依る他部隊と、同様の給與を受けあらざる感を抱きしも、炊事卒に適當の教育を施せし結果、此の缺陷を補ふを得た。

英軍よりの供給に依らず米軍補給勤務部より補給するを要せし品種、就中被服及兵器を取扱ふ爲、Calais 及 Dunquerque に小規模の倉庫を設けた、但し此等倉庫開設前、右品種に属するものは、新に出征地に到着せる師團の過剰品を回収し、所要の部隊に補給したのである。

以上は英軍と協同して行動せる米軍補給組織の概要である。曩に述べし佛軍隷下に屬せしめたる米軍の補給と對照比較せば研究上得る所がないでもなからう。斯の諸種の經驗をなせし結果、遂には聯合各國軍間の協同を確保し、多數の國家及民族の混淆せる軍隊を以て、能く戰爭の目的を遂行することを得たのである。

米軍の補給上最も困難なりし時期は、一九一八年五月六兩月頃から始まつた。此兩月中米軍は毎月佛國に到着する者三十萬人に達した。其の以前の豫備補給品の輸送に要する船腹は、未だ九十日分の豫備品を充實するに至らざりしも尠て不足したではない。然るに同年七月中の到着總員三十萬六千三百六十二人に達し、此等に對する補給の爲に要する船腹は現存したが、其の以上豫備貯藏品蓄積の爲の輸送に要する船腹はなかつた。尋で曩に述べた如く英軍が十師團の出征を援助するに至り、英軍に依り補給せられし者二十萬ありしも、其の他に尙八十萬の兵員を有し、之が補給及豫備貯藏品の追送に多大の困難を感じた。

其の後間もなく右英軍の補給を受けありし十師團が、米軍に復歸せし結果、米軍は從來に比し更に二十萬の給養人

員を増加せしに拘らず、之が補給に要する船腹は増加せられず、九月に至り始めて右人員と船腹との増加比率の平衡を稍々得たが、其の間之が補給は全然出征地蓄積の豫備品を以て充當した。斯くして一時は全出征軍の消費する補給所要量の追送を受くるを得ざりし爲、九月一日以前に於て豫備蓄積品も全部を消費し盡すの虞を生ずるに至つた。之が解決には船腹の増加を必須とせしを以て、出征軍總司令部は本國陸軍省に打電し、陸軍の爲太西洋航路船腹を増加配當すること、及之が爲、造船能力を増大することの急なる旨の意見を提出した。固より船腹及本國に於ける軍需品調達の如きは出征軍の關與すべき問題にあらざるも、出征地に於ける補給品の蓄積及維持は同司令部の責に任ずべきものなるを以て、之を完うする爲斯の如き意見を提出したのである。本國政府に於ても此の間の狀況を察して努力せし結果、出征地に十分の豫備を蓄ふるには至らざりしも、爾後軍隊の輸送は之を圓滑に實施し得るに至つた。

第四節 佛軍の補給

〔本節は「第一線に於ける補給及輸送」と題し、一九二二年十一月三日米國陸軍大學校に於ける佛國 *Levy* 將軍の講演を轉載せしものなり〕

予は短少時間に、補給及輸送組織の如き複雑なる問題の全般を論ぜんとするものではない。予は茲に單に大戰中聯合各國軍にて組織せる其れ等勤務の主義の存する所を簡單に述べようと思ふ。開戦の初期に於ては其の主義も各國毎に著しく相異なるものがあつたが、其の後漸次相接近し來り、遂には事實上何れも殆んど相等しきものとなつた。近世戦に於ては補給が極めて緊要なる地位を占むると、補給系統の組織には必ず相當長時日を要するとに鑑み、何

れの國軍にありても、補給勤務を主宰する首長は、總司令官の全信任を有し、以て同司令官の計畫を豫測し、一旦時機に會せば、何等の遲滞なく、該計畫を實行するに便なる如く處置し得るものであるを必要とする。

斯くの如き補給勤務の首長には、二つの主要なる資格を必要とする。即ち彼れは優秀なる軍人で、事物を豫察するの明を有し、其の供せられたる情報に基き實行的決論を把握し得るが如き人なるを要すると同時に、組織的才能を有する者でなければならぬ。彼れは能く需要を明確且つ迅速に豫測し得る人でなければならぬ。かの奈翁の所謂「戦争の技術は單に實行するに在り」との明言を、爾餘の事項に比し補給問題に對して一層實際的に應用するものでなければならぬ。又彼れは其の統轄する各種部門毎に各其の部門を指揮する専門家を有するを必要とする。而して彼れは専門的問題を了解し得るの能力あるを要するも、自ら専門家に過ぐるは避くべきことである。蓋し概して熱心なる専門家は其の前途に横はる困難に着眼するに過ぎ、時に不可能として中途挫折するの傾向あるが故に、斯の如き時機に於ても全軍の補給勤務に長たる者は、右専門家の言に關せず斷乎として之を敢行するの能力あるものでなければならぬ。

元來補給に關する問題は、各種輸送の問題と連繫するのが常である。輸送及補給を圓滑に實施せんとせば、兩者を同一人の指揮下に置くことが肝要である。近世戦は戰闘正面の極めて延長するを特徴とする。蓋し軍が其の側方を脅威せらるる時は、退却を餘儀なくせらるるに至るものなるを以て、兩翼を天然障礙に託するを必要とする。現に西方戰場の兩翼は、北海及「アドリアチック」海に依り掩護せられたが、斯く延長せる正面の後方に於ける軍隊の移動は唯だ自動車及鐵道に依り、多くの場合、兩者の併用に依り之を實施した。故に此の兩種の輸送施設は一長官の下に之を掌らしむるを要する。斯くして該長官は總司令官の意圖を知り其の各使用法を決定し得るのである。〔Paris 將軍は

各種勤務を一人の下に置くを意味するものにあらず、鐵道勤務は其の長官の下に、自動車勤務は又其の長官を置くが如きことを意味するも、其れ等諸勤務は、現に將軍が交通及補給部長として、總てを統轄せしむる如きを云ふ。尙將軍の言ふ所に依れば、輸送及補給は、兩者を統轄する長官と該長官に隸する規整係將校に依りて運用せらるること。〕

一般に軍隊は、戰闘正面の一地より他の一地に移動せらるることあるを以て、之が爲該正面に併行したる輸送路を設け置くを必要とする。之を佛語にて *Route* と云ふ。然るに他面に於て補給倉庫は縦長の梯形に配置せられ、第一線を遠ざかるに従ひ、漸次其の容積大なるものを設くるを以て、此等各倉庫に對する補給品の輸送は、戰闘正面に直行する線に於てし、而かも軍隊の横斷的移動を防げざることが肝要である。又軍隊を戰闘正面の某地點に集中するに當り之が爲特に補給品も移動するの必要なからしむることが肝要である。而して能く斯の如くならんには、後方に至るに従ひ倉庫の集積量を大にし、軍隊附近には最少限の現品を有せしむることに依り之を實現し得べく、此の方法に依り始めて軍隊及補給品の輸送上の最大効果を收め得るのである。

如上の重要な原則は、過去大戦中にも之を應用せるが、左に簡単に之が實例を述べよう。

開戦の初期たる一九一四年中には、軍隊に伴ひし補給品は、軍隊自ら携行し得るもののみで、尙規整停車場には若干の集積品ありしも、必ずしも重要視せらるべきものでなかつた。元來規整停車場なるものは、第一線の後方、約五十軒に位置せしむる重要な鐵道停車場で、同所より各般の補給品は鐵道端末に前送せらるるのである。而して同端末は陣地戦に於ては概ね固定し、運動戦に在りては移動するを常とする。斯の如き方式に依りし佛軍は、獨軍の攻撃前進に遭ひし際にも、單に規整停車場を右翼及中央部より後退せしのみであつた。即ち其の一部は *Ypres* 地方に退かしめしも、補給は順調に實施することを得た。之と同時に戦線に併行して通ずる主鐵道線、就中 *Paris-Nancy* 間、*Paris*

Refort 間の二線を利用し、軍隊を右翼方面より巴里の北方地區に輸送し、斯くして兩翼を巴里及 Verdun に置き、Marne を中央とする大弓形線上に巧に軍隊を配備し、以て獨軍を包圍の内に陥らしめ、之を敗退せしむるを得た。

Marne 會戦後、獨軍が英・佛兩國間の連絡を斷つの目的を以て、Cahen 方向に其の攻撃を指向せる時も、右同様の方法に依り、佛の第二軍を Wargny 地方より、又 Vosges に在りし第一軍より派遣せし若干師團を Montdidier, Arras 及其の北方に、何れも輸送し、且つ Villers-Cotterets 地方の英軍を Calais 及 Hasbrouck に輸送した。斯くして友軍は獨軍に先ち前述海岸地方に到達し、左翼に於ける天然的支掌點を確保せしめたが、此の期間佛軍は補給の爲に終始、戦線に對し直行せる線にある交通線を利用した。要するに佛軍は軍隊移動の爲には、戦線に併行せる線路を、補給の爲には、之に直行をなせる線を使用し、速かに海岸に進出して勝利を獲得したのである。

獨軍が其の精銳を以て、Verdun を攻撃せし時、佛軍は僅かに三線の鐵道を使用し得るに過ぎなかつた。即ち其の第一は Meuse 地方を走るものだが、該線は St. Mihiel にて切斷せられたるを以て、其の終點は Verdun を去ること稍遠き地點にあつた。次ぎは Châlons-Verdun 間を走る線なるが、是れ亦 Aubreville 附近は敵の砲撃激しく、單に夜間の運行を許すのみであつた。又第三線は Bar-le-Duc より Verdun に通する幅員一米の狹軌鐵道なりしが、其の輸送力は比較的僅少にして、二十四時毎に七百乃至八百噸以上は運搬するを得なかつた。然るに佛軍にては鐵道及自動車輸送勤務を同一首長の隸下に統一しありしが爲、此の困難に面して能く之を醫するの方法を得た。當時佛國には鐵道の新線路を構築するに必要な勞力を有せざりしを以て、之が救済策として、一九一五年春、Bar-le-Duc より Verdun に至る道路幅員を貨物自動車二輛併行して往復し得る如く擴張したが、之が爲獨軍が攻撃を開始せし時には、右兩地間は毎二十四時に六千の貨物自動車を絶えず運轉し、就中彈藥は日々二千噸を前送することを得た。斯の如き結果は、鐵道・自動車輸送及道路勤務が、一首長の下に統一指揮せしにあらざれば、到底到達し得ざる所であつたであらう。

一九一七年十一月、佛・英兩軍の一部を伊國戰團正面に輸送を要するに當り、兩軍の使用し得べき鐵道は Meuse 線及 Nice-Verdun 線の二にして、而かも兩線を合するも、毎日の運行四十列車を最大限とするの狀況なりしを以て新に他に二條の輸送路を設けた。其の一は Briancourt-Pignerville を通するもので、之に依り歩兵及軍需材料を貨物自動車を以て輸送し、兼ねて乗馬隊の行軍路とした。又他は Col de Trunde 地方に至るもので、伊國領土内海岸單線鐵道線に沿うて走り、専ら貨物自動車を之に使用した。該施設に依り伊國へ毎日六十列車を鐵道にて發送するに等しき輸送力を得たのである。

一九一八年中獨軍は英・佛兩軍間の鎖鑰點を攻撃し、急激なる前進に次で Amiens を砲撃せし際の如きも鐵道及自動車輸送を併用し、戰場に最大限度の兵員と補給品とを送付することに成功した。當時輸送力を最も能く發揮する爲、車輛の速度に依り道路を三種に區分し、其の第一を軍隊及補給品を輸送する自動車道路、第二を牽引自動車兵車の爲、又第三を輓曳式車輛縱列の爲の道路とした。此の際にも此等輸送指揮統一の爲、三週間に亘り毎日平均十萬の兵員〔編成部隊及補充隊〕を輸送し、補給品、就中彈藥の如きは未曾有の莫大なる量を消費せしに拘らず、能く其の補充を完うすることを得た。

斯の如く輸送及補給の最大效力を發揮し且つ極めて柔軟性に富みたる制度は、獨軍には之を見ざる所であつた。實

に戦役間を通じ獨軍高等統帥は、其の補給制度の柔軟性を欠きし爲、諸計畫の實行上常に齟齬を來せりと云ふを得べく、現に休戦時、我が軍が Charleville-Givet-Namur に通ずる鐵道沿線地方に到着せし際、同線路上四十軒以上に亘り軍需諸材料を満載せる貨車の停滯せるもの多數ありて、獨軍が之を後退せしむることを得なかつた如きは、右の好運例を示すものに外ならぬ。又獨軍の退却地帯は東方に至るに従ひ狭少となりありしが、斯くては若し彼等にして戦闘の失敗に依り屈伏せざるを得ざるに至らざりしとするも、必ずや補給及輸送施設の倒塌の爲、降伏せざるを得ざるに至つたであらう。此等の事例に鑑みるも、輸送網は作戦地の眞の支柱たるべきものなることを容易に知るを得るであらう。

同一戦場にて數ヶ國の聯合軍が作戦する場合に於ては、二個の難問に當面する。即ち其の一は如上輸送及補給體系の統一を保持すること、他は同時に聯合各國軍の獨立性を尊重することである。

過去戦役は、不幸にして佛國領土内にて作戦せし爲、鐵道の管理は之を佛國に保留せしも、之と同時に他の聯合各國軍には各其の必要とする列車類を分讓した。該列車數は殆んど平時に於ける全列車數に比敵するものなりしも、所要に應じて更に其の數を増加し、以て各國軍をして各自補給の統轄をなすを得しめ、尙各國軍の大倉庫の位置は佛國と協議の上之を決定し、以て支障なく各國に其の補給を確保せしむることを期した。

斯の如き各國間の總てに共通する施設は、各國の諸勤務を統轄する首長間に、緊密且つ不斷の了解ありて、始めて能く之を爲し得る所にして、該了解は又各國軍より佛軍總司令部後方部に派遣せし連絡將校の努力に依り之を確保し得たるものに外ならぬのである。此等連絡將校は不撓不屈の熱心を以て任務に従事し、戦局危急を告げたる期間の如

きは、數日間不眠不休、常に電話を手にして、刻々變化する戦況に應じ、適時之が對策に關し各國軍の協定を即決することに努力した。〔譯者註、原書は茲に米軍連絡將校の名を掲げ其の功績を稱揚したる言辭を述べるも、省略す。〕

斯の如き聯合國間に於ける補給及輸送に關する統一は、軍隊指揮の統一とは全く別個のもので、既に Foch 元帥が聯合軍總司令官の任命ありたるに拘らず、Dewey 將軍が更に輸送及補給上の指揮の統一をも必要とせし所以も亦茲に存するのである。然れども聯合各國にして——同一家族の各員たると同様に——同一血液の通へるものたることを事實に示すことを躊躇せしならんには、相互總ての資源を分つに當り或は誠意の缺くる所ありしならんも、各國は之を十分認めると同時に、Dewey 將軍は人性固有の此の特性を尊重して一の計畫を立案し、聯合國軍事補給會議の創設を各國政府に提議し、其の同意を得て同會議に於ける全員一致の決議は實行力あるものたらしむるを得た。實に同會議の存在せし爲、戦役末期に於ては、聯合各國軍の補給品を彼此統一運用することを得、以て各國軍をして其自ら缺くる所あるものは、之を比較的不足なき他國軍に求むるを得しめ、戦争の遂行上貢獻せし所は實に甚大であつた。

斯くして米軍は佛軍に燕麥・小麥粉を供給し、英軍は Mount Kemund に於て佛國師團の軍需を援助し、佛・米兩軍の彈藥は共通運用せられ、又佛軍は Argonne 及 Meuse 地方に作戦せる米軍に自動車を提供した。

然れども諸資源の統一運用以上に特に緊要なりしものは精神的統一である。實に補給會議は各國の或る事物に對する概念及手段を合致せしめ、各其向ふ所も之を統一せしむるに至つたのである。約言すれば各種の國際的教習所を設けて之が指針を示したるが如き即ち是れにして、自動車勤務の爲には Roway に、標準軌條鐵道の爲には St. Diaric に、又狹軌鐵道の爲には Nancis に各教習所を設け、各國軍の當該勤務に任ずる者に共通教育を實施せしが如きは以上の實例

を示すものと云ふべきである。實に此共通教習の結果として戦役末期たる一九一八年十月及十一月には Argonne 地方にて佛・米兩軍を、又 Flanders 地方に於て白・佛兩軍を共同作戦に任せしむるを得たのである。

第五節 伊軍の補給業務

〔本節は初め伊國第三軍經理部長たり、後に總經理部長の職にあつた Stephan Lombardi 中將の所述なり〕

其の一 補給に關する戦前の規定及参戦初期の補給組織

伊軍補給の要綱は戦前既に之が規定ありて、参戦初期に於ては之に基き實施したるが、元來右規定は運動戦を主眼として研究決定したもので、此の點に關し實際の狀況に應じ種々の變更を來すに至つた。

伊軍の補給組織の基礎として戦前より規定せし要旨を試みに述べれば左の如くである。

(一) 各軍は必要とする手段に依り某期間生活を持続し、且つ戦闘を交ふるを得る如く其の所要を供給せらるべきものとす。

(二) 第一線諸施設は軍隊の行動に隨從し得る如く組織すべきものとす。

(三) 第二線諸施設即ち通常中央倉庫なるものは定位置に留まるも、前進倉庫は其の支庫を編成して軍隊に隨從せしめ、常に軍隊の後方、一自動車輸送兵站距離〔百二十軒〕以内にあらしめ、又爲し得れば鐵道端末地に位置せしむ。

通常、本國內各所に在る豫備倉庫より追送する補給品は、關係各省の監督の下に之を中央倉庫に送付し、同倉庫

は各軍各勤務に對する大豫備集積場たるの任務を行ふ。中央倉庫は、軍經理部〔Intendenza d' Armata〕の指示に基き各前進倉庫に補給品を前送す。而して普通補給品は定期列車に依り、臨時所要品は特別列車を以て各前送す。

以上の外、第二方式として、鐵道の輸送上、爲し得れば或る種の補給品を豫備倉庫等より直接前進倉庫に送付し、而かも中央倉庫の新陣交換に支障を及ぼさざる場合實行せらるべきものなるが、大戦中殆んど絶えず此の方式は實行せられた。

前進倉庫は大部隊よりの要求に依り、補給品を第一線諸施設に補充するものにして、普通鐵道に依り、若し鐵道の利用不可能の場合は自動車を使用する。

山地々方の作戦に於ては、自動車輸送の補助として輓曳輸送具・綱索輸送具及駄騾を用ふ。

軍隊は其の補給品を自己の運搬具を用ひて第一線諸施設より受領し、該諸施設は軍隊の不用品を收納す。調辦困難なる或る種の補給品は、總經理部長〔Intendenza Generale〕が特別倉庫をして關係中央倉庫に之を送付せしめ、同倉庫より更に前送す。

自動車及航空材料も右同様の方法に依り之を補給す。但し此等は國內各地より一定の中央倉庫に送付せしめ、同倉庫より各軍の前進倉庫に前送せしむ。

以上は戦前より規定しありし伊軍々需品補給方法の概要にして、同國参戦初期に實行せし概要である。此の外補給に關する原則は陣中要務令第二部中に掲げありしも、其の主義は曩にも一言せる如く運動戦を主として且つ短期作戦を豫想して研究せし結果を述べたるものなりしに拘らず、該研究の周到なりしと所定條項の運用の妙に富みしとの爲、

長期に亘り且つ陣地固定せし歐洲戦に之を應用して能く其の効果を收むることを得た。

今歐洲戦に當つて伊軍の實施せる補給の綱要を述べれば左の如くである。

(一) 出征軍の全各勤務部の業務は之を總經理部 [Intendenza Generale] に、各軍に於ける各勤務部の業務は之を軍經理部 [Intendenza d'Armiata] に統一し、此等總經理部は各關係高等司令部と併立し、而かも之と分離して其の任務を遂行した。即ち總經理部は最高統帥部 [Comando supremo] 即ち總司令部と、軍經理部は軍司令部と各對立して其の業務に服するものにして、司令部の命に依つて行動するものではなかつた。

(二) 軍團及獨立師團に在りては、其の司令部内に一屬部を設け、軍團長若は獨立師團長直接各勤務部を統轄した。

(三) 軍隊の生活は爲し得る限り現地物質を以てし、現地にて調辨し得ざるものゝみに限り後方に之を要求した。

(四) 各勤務及食庫其の他の施設は順次後方に梯形を形成すべきものとした。

第一線には軍團及軍團以下の部隊の編制内に諸機關を置いた。

第二線には軍經理部隷下機關を置き、第一線諸施設の補充に任せしめ、自己の補充は之を關係各省より其の豫備諸施設を通じて受けた。

第一線諸施設は所要の移動性を有し、戰鬥部隊に隨從せしめた。第二線諸施設は一定の場所に定著せる中央倉庫なる各軍の補給根據地を包含するもので、又其の一部として前進倉庫があつた。同倉庫は常に第一線諸施設及中央倉庫兩者間適當なる位置に在つて、前進若は後退し得るものたらしめた。

(五) 戦線に併行せる方向に在る各勤務機關は、大部隊内の部隊区分に應ずる如く区分し、以て或る軍より他の軍へ移屬し、若は某地帯より他の某地帯に現部隊と共に移動するを得しめた。

(六) 總經理部は其の業務の本質上指揮をなすに在つて實行機關ではない。之に隷屬する輸送司令部のみは統轄機關たると同時に實行機關たる性質を有するも、其の他の屬部は純然たる指軍統轄の業務に任じた。即ち同部は右輸送司令部の外、參謀課・糧餉課 [Commissariat]・工兵課・醫務課・獸醫課・兵站課・土木課・郵便及電信課より成るも、隷下機關として倉庫工場等を有することはなかつた。軍經理部は之と其の趣を異にし、指揮統轄機關たると同時に實行機關たる性質を併有し、其の隷下に倉庫・工場等があつた。

(七) 經理部 [Intendenza] なるものゝ掌裏に各勤務を包含せしむるは伊國獨特の制度で、唯之が若干の例外と見るべきは砲兵及工兵器材の補給である、即ち砲兵器材の補給は、特殊の状況の下に於ては總砲兵司令官之を掌り、又重要な防禦工事用工兵器材の補給は時に軍工兵司令官之に任ずることがあつた。伊軍の經驗に依れば此等例外的補給は特別の場合の外は其利に比し寧ろ害の伴ふこと多かりしを以て、各補給勤務は總て之を統一して軍隊指揮官の企圖行動に便し、且つ同指揮官をして補給上の問題に關する煩累より免れしむるを可とする。現に此等各勤務の統一は手續方法を簡單にして其の繁を省き、且つ實施上各部の協調を保つ上に於て極めて有利なることは、一九一六年春期戦線を Isarno より Alipiani に移動せし際能く之を明示し、又 Caporetto 戦後軍の退却に際しても右業務統一の極めて利あることを更に明かにした。

其の二 各勤務の戦役間に於ける變遷

曩に述べし如く伊軍の補給組織は、戦前短期の運動戦を目標として研究決定したるものなりしも、参戦初期は概ね之に基き軍の補給を實施し能く支障なきを得た。其の後戦機の変遷と陣地に固着せし爲、之に應ずる處置を取るの必要を生じたが、補給組織上何等急激の變化をなすことなく、従つて大なる打撃を受くることなく、能く新局面に對應する組織に漸次改むることを得た、以下之が經過の概要を事項を別つて述ぶることとする。

(a) 經理部

伊國参戦の當初より各軍の中央倉庫を指揮監督する一機關の必要を認め、間もなく各庫に中央倉庫長なるものを置く事とし、此等倉庫長は直接軍經理部長の隸下の退職將官の指揮を受けしめた。而して當時中央倉庫は Bologna, Florence, Mantova, Piacenza, Cremona 及 Alexandria の各地に置いた。

其の後戦局は固定し軍隊は塹壕線に定着するに及び、攻防の方法其の他諸施設も之を集中統一するに至り、經理部も其の管掌業務の統轄を一層直接的になすの要を認め、第一線に接近して經理部支部を設けたが、一面統帥機關に於ても或る場合、地區司令官なるものを第一線の所要の地區に設け指揮の迅速統一を期した。

(b) 馬及騾に關する施設

第一線及第二線諸施設の大部分は、漸次運動性を減じ地區的に固定したるが、當時軍用動物の不足は大に急を告げしを以て、之が不斷の損失を償ふことに専念する一機關を創設するの必要を生じ、従つて軍隊にて絶對必要なる以外の輸送具及動物に關する諸施設を統一整理することとなつた。之が爲輸送業務は「車輛及騾廠」なる一勤務と合同せしめ、同廠は原則としては軍團に各一個を附し、各勤務部及軍隊の所要に應ぜしめた。

(c) 醫務施設

戦局の遷延及傷病に基く多數人員の損失は、爲し得る限り治療を現地にて實施するの必要を生じた。現地にて傷病者を治療するは一面に於て其の鐵道輸送を最少限に減じ得た。伊軍参戦の當初に於ては傷病者は殆んど之を後送するの制に依りし爲原隊と遠く分離し、治療後其の復歸を確保するを得なかつた。故に此の缺陷を補ふ爲、成る可く戰地帯内に於て此等を治療することとし、野戦病院を常置的のものとし、其の病床も大に之を増加した。又多數の療養所を設け、傳染病患者の爲には避病院を創設し、此等は總て軍の後方一帯の地域に亘りて設け、重傷病者にして數ヶ月の治療を要する者のみを内地帯に還送することとした。

(d) 資材の貯藏及修理

各種資材の多大なる消費、國內外に於ける調達及鐵道輸送の困難の漸増等相俟つて現地に各種資材を蓄積し、且つ修理し得るの設備を必要とするに至り、多數の實驗所・工場を設け、尙洗濯・消毒及修理等の諸施設を整備した。又冬營の特殊要求に應ずる爲、毛製被服・毛皮・防水布・煖爐・塹壕用器具・特殊足袋等を貯藏する倉庫を設けた。又

(e) 廠舎及建築勤務

人口稠密の地を遠く隔てたる防禦線に軍隊を集結したる爲、参戦後の第一回冬期たる一九一五——一六年には忽ち軍隊及各勤務部の冬營設備をなすの必要を生じ、先づ多量の建築用木材を得るの要に迫まれ、文武官より成る木材委員なるものを編成して森林の開発をなさしめた。

(f) 消防勤務

廠舎・工場其の他を比較的集結して位置せしめし爲、時に火災を起し、之が豫防の必要を生ぜしを以て、經理部は第一線及第二線地帯に消防勤務部を創設した。

(g) 實 驗 所

攻防共に新方法として、窒素瓦斯・催涙瓦斯・火炎放射器等を使用せし爲、特殊の勤務部及施設の創設を必要とせしが、此等の内には防毒瓦斯・火炎及化學等各種の實驗所があつた。

(h) 道路の維持

參戰後間もなく重要な一勤務として認められたるものは道路の維持である。第一線に於ける該勤務は殆んど全然軍團司令部及工兵部隊の管掌に屬せしめたるも、第二線地帯に於ては土木部なるものを編成し各軍に之を配屬した。又砂利専用の大倉庫を設け遠隔せる其の産出地より之を運搬して補充せしめ、或は交通路及橋梁を建設し、其の他各種の工事を實施せしめた。

(i) 休 暇

參戰第一年の冬期、總司令部は戰團員に休暇を附與するの必要なるを認め、輸送部をして毎日休暇者列車なるものを運轉せしめた。同列車は指定の停車場に各軍より集合し來りし兵卒を乗車せしめ、之を内地帯に向つて輸送し、休暇を終了すれば各兵は原停車場に輸送せられて原隊に復歸した。

(j) 自動車勤務

自動車輸送は漸次發達し、遂に第一線に於ける動物輓曳輸送機關の一部は自動車を以て代ふるに至つた。即ち軍團

糧食縱列・師團彈藥縱列及特殊部隊に對する縱列は之を廢止し、自動車隊は第一線に於ける糧食・彈藥其の他の補給の輸送に任じた。此等自動車は各種補給を直接戰團部隊に輸送し、時に或は塹壕に到り、或は動物輓曳車との連絡點若しくは鋼索車停車場迄の輸送に従事した。

自後各種自動車の使用は益々増加し、其の内には砲兵牽引車、航空隊用の諸車等ありて、破損の場合は現地にて直ちに修理を施す必要に迫まれて相當設備をなし、之に依り破損車を遠く内地に運送するの不便を避けた。斯くして新製作に全力を注げる内地工場をして修理の煩を免れしめ、自動車關係工場は部品の製作のみに従事し、修理工事は之を現地にて實施することゝした。之が爲所謂戰地帯に自動車修理工場を設けることゝし、各軍に一個若しくは二個以上を置きしが、Caporettoより退却後、此等工場の殆んど全部を Palova に集中し、遂には中央大自動車廠を Bologna に置いた。

(k) 宣傳・恤兵品及情報勤務

Caporetto 敗戦後、兵卒の沈滞せる志氣を振興するには、一層活潑なる宣傳の必要を官民共に認むるに至り、伊國內各州に委員及協會を設け、兵卒志氣の作振の宣傳及戰團員に對する慰問恤兵に努めた。之が爲特に宣傳局及恤兵局を大部隊の附近に設け、戰團部隊に對する恤兵品の受領・前送及分配を掌らしめた。又情報局は參戰當初より其の本部を Bologna に置き各地に其の支部を有せしが、此等本支部は動員部隊の本部〔大單位部隊司令部より聯隊本部に至る〕と常に密接に連絡を保たしめた。

其の三 總司令部・總經理部及陸軍省間の關係

作戦行動其のものに伴ふ重大なる責任を果す爲、總司令部〔Comando supremo〕は直接作戦に影響せざる諸事項に關する煩累を軽減するを必要とする主義に基き、伊軍にては總司令部と併立して總經理部〔Intendenza Generale〕を置き、同部は陸軍省に其の所要を要求し、之に依り軍に對する補給を常に確保するを期した。而して總司令部と陸軍省との關係を述べれば概ね左の如きものである。

- a 總司令部は各種の施設・資材及手段等の實際に於ける使用法を決定す。
- b 陸軍省は右各種施設・資材及手段等を供給す。
- c 右兩者の中間に在りて軍の要求を豫め策定し、其の配給を確保し、且つ軍に至るまでの輸送を掌るものを總經理部とす。

尙以上三機關の任務を要約すれば、

總司令部は専ら戰略及戰術に

總經理部は専ら經理に

陸軍省は専ら軍政及經理に

各任するのである。

業務分擔を右の如く定めし結果、伊軍總司令部は其編制中に各勤務の統轄機關を置かない。蓋し伊國に於ては此の制度を以て、事の重複を避け、能率損耗及誤解等を防止するを得るものとし、之が爲に總經理部は常に總司令部と密接なる連繫を保持し、總司令官の意圖を知りて、之に基く作戦計畫に順應する如く補給の實施及維持に任じた。而し

て總經理部は其の隸下に各所に散在する多數の各分科機關を有せしを以て、其の結果同部の位置は總司令部と同一ならざりしも、常に極めて接近せる場所に之を置いた。

其の四 戦役間創設したる中央官省

彈藥の消費の巨額に達せしことは、遂かに戦前の豫想を超越し、陸軍工場の製造力にては到底需要を充す能はざりしのみならず、新兵器の出現は益々兵器彈藥の需要を増せしを以て、之に應ずる爲、先づ兵器及彈藥次省〔次省の英譯は Undersecretaryship、佛譯 Sous-Secrariat〕を新設し、間もなく其の權限を擴張して兵器及彈藥省と改稱し其の補給に任ぜしめ、兵器及彈藥の補給は需要に應ずるを得たるも、其の後國民生活必需品の消費は寧ろ増加せるに拘らず、其の生産及輸入額は減退し、國民生活を脅かすに至りしを以て、補給及消費省を新設し國民經濟生活の保護及管理に任せしめた。尋で航空次省及燃料委員なるものを創設せしが、何れも戦時の必要に應じて制定せるものである。休戦後は嘗て敵の手中に落ちたる地方復興の爲、復興省を設けた。此等の官省は各其の必要に直面して隨時設置したるもので、換言すれば政府に於て或る事項の中央統轄の必要を認められた場合は、之に對する所要の資格と權限とを有する中央行政廳を創設したるものである。平時此等機關の存在は固より其の必要を認めざると同時に、將來戦に於ても必須の機關と斷言するを得ざるも、平時其の核心を構成し戦局の擴大若は遷延の爲、要すれば之が設置を準備するの要あることは伊國當局も之を認むる所である。

其の五 輸送業務

(a) 鐵道

伊國陸軍は平時よりの計畫に基き、參謀本部の一課たる鐵道課を動員と共に、總經理部に直屬する輸送司令部に改編し、同部をして國有鐵道線・補助鐵道線・水路及海上に於ける總ての軍事輸送を統轄指揮せしめ、且つ國內に於ける總ての鐵道輸送と協調せしめた。

右輸送司令部は大部分軍人より成りしも、其の一部國有鐵道線に關する業務處理の爲、若干の同鐵道員をも加へて編成し、各軍經理部には其の代表者を派し、鐵道事務の爲、線路委員及停車場司令部を設け、後には主要諸港に碇船場司令部を置いた。

輸送司令部は同部の一重要機關として其の代表者を陸軍省と共に首都羅馬に置き、中央諸機關と連繫して、國內及海上に於ける輸送司令部の輸送要求の調和に任せしめた。

輸送司令部が戦役間實施せし業務は極めて複雑多岐にして、参戰の當初より平時よりの計畫を其の儘實施することを得ず、同國が大戦に参加せし際は軍隊の集中も其の特殊の状況に應じて之を實施したのである。

之が爲、鐵道線路の延長、停車場の擴大、所要材料の供給、軍事化せる鐵道従業者軍紀の監督、出征部隊に對する補給・Toronto に於ける英・佛軍根據地〔近東方面の〕の設備、佛・伊兩軍の中間にある孤立部隊及軍團の輸送、伊軍作戦地域内に於ける大部隊の戰略的移動の實行等、總て輸送司令部の處理せし所にして、特に大兵團の移動の際の如き最も敏捷なる活動を要した。

(b) 補給

補給業務は前述輸送業務と區分して總經理部直接之を總轄し、各軍經理部をして各軍の補給を統轄指導せしめた。

即ち軍經理部は軍隊の普通及特殊の需要を計上し、之を前述機關たる中央諸廠等に要求して受領機關たる軍經理部自ら之を受領し、又は前進倉庫若は軍隊等に送付せしめた。

(c) 兵站の業務

兵站到ける輸送は、前述輸送司令部の業務と區分し、自動車若は動物輓曳に依る普通輸送は之を兵站の所管とした。元來鐵道輸送は各種の状況上全軍の爲、之を中央統轄となすを便とせしも、兵站輸送は軍・軍團若は戦地附近に位置する端末停車場毎に區分して管理するを可とせしに依る故、此の如き方法に依つたのである。

(d) 輸送司令部の位置

輸送司令部は戦役間、中央政府の下にあらしむべきか、若は總經理部と同位置にあらしむべきか等の問題は屢々研究せられたる所なるが、實驗の結果、同司令部の業務は軍隊の生命維持上必要とする日々の需要と密接なる關係あるを以て、同部は總經理部及總司令部と、常に容易に且つ直ちに連絡を取り得る位置にあらしむるを絕對に必要とするの結論に達した。抑も輸送司令部長が鐵道の活動を監督して之が整備を完うし、且つ此等に關し發生する困難なる問題を速かに解決せんとせば、常に總經理部と連繫を保持するを要し、又在羅馬の其の代表員は本部の要求に基き、他の中央諸機關と常に密接なる連絡を保つ必要があつた。而して本部が作戦地内にあるの必要は一九一六年春、Atipiani 地方に於ける奥軍の攻勢移轉の際最も明瞭に之を證明した。當時五十萬の兵員と之に要する補給品を Torino 方面より移して Atipiani 地方に集中し得たるは、全く鐵道輸送の活動に依るもので、此の間尙數軍に對する通常補給をも何等支障なく實施した。其の後 Caporetto 敗戦後も輸送司令部は總經理部及總司令部と密に連繫し、Piave の防戦に同様の偉

效を奏した。

其の六 自動車・航空機及戦車用材料の補給

自動車用材料の補給は元來一定のものに限られ、實際の所要に應じ之を經理部に支給せしが、戦役中總經理部は部品の製造及修理作業を國家の一般工業と協調せしむる目的を以て之を統一した。

航空機の豫想外の發達、之に伴ふ補給上の不安、技術的進歩を追ふの必要等は相俟つて航空機用材料の補給業務を他の業務より分割獨立せしむるに至つた。

伊軍に於ける戦車は戦役末期に及び始めて之を使用せしが、この短期の實驗に依れば將來戦車は多くの場合、總司令部に直屬すべきものにして、之が材料補給の爲、經理部に隸屬する特殊機關を設け、修理作業をも合して統一するを可とする伊軍當局の意向なりと稱せられて居る。

其の七 建築業務

歐洲大戰の特質中の一に數ふべきものは、限定せられたる地域に大兵團を集結し、此處に防禦陣地を構成するに至らしめたることである。之が爲、兵舎・橋梁・交通路・陣地等各種構築物の必要を生じた。然るに此等の作業擔任者たる工兵は、當面の業務實施に適する編成を有せざりしを以て、總經理部若は軍經理部に屬する橋梁及道路部は此等業務に關して工兵を援助した。而して一面工兵部隊を擴張増加し、各軍團工兵司令部は第一線の構築作業には經理部に隸屬せしめたる工兵部隊をして之に當らしめ、又地帯建築部の援助を得て後方地區に於ける建築業務に従事せしめた。

第八章 補給上の地區々分

聯合各國は補給業務上の便宜若は必要より戦地に地方的區分を設けたが、各國各其の事情を異にする爲、其の區分方法も同じでない。左に其の概要を述べよう。

(一) 英軍

英軍は外國領土に作戦せし爲、其の出征地の一部にて補給品中の若干を調達し且つ之を貯藏し得るの地區を必要とし、總司令部〔同部補給部〕に隸せる兵站地帯〔Zone of the Lines of Communication〕を以て之に充てた。英軍の作戦地は各軍地區〔Zone of the Armies〕及兵站地帯に區分し、兵站地帯は更に之を南北兩地區に分つた。而して軍地區は軍司令官に屬せしめ、兩兵站地區は總司令部所屬とした。

(二) 米軍

米軍は出征地の一部を前進地帯〔Zone of the Advance〕と稱し之を數區〔Sectors〕に分ち、各區を各軍司令官に屬せしめしめ、若干は總司令部に直屬せるものもあつた。然るに米軍の補給に關する組織は、出征軍隊の到着に先ち豫め準備を整へありしが故に、各軍區に於ける補給業務は事實上常に總司令部よりの命令に基いて實施した。又總司令部に先んじて編成せられ、之と殆んど併立せし補給勤務部〔Services of Supply 即ち S. O. S.〕も前進地帯なるものを設け、該地帯に於ては主として各種補給品の分配に任じた。

其の後出征軍は研究の結果、作戰全地域を二に大別し、一を補給勤務地帯と稱し調達及貯藏に任ずる區域とし、他を軍地帯と呼び、更に之を戦闘地帯と勤務地帯とに区分した。戦闘地帯は各軍毎に之を定め、勤務地帯は恰も佛軍に於ける兵站地帯〔Zone des Etapes〕及後方地帯〔Zone de l'Arrière〕を合したるものに相當し、其の後方は補給勤務地帯に接し、當初に於ける補給前進地帯をも之に包含した。斯の如く米軍が補給專任機關を置き且つ之と別個に補給上の地帯の区分を設けたる理由は、作戰軍と根據地との遠隔せること、貯藏集積は一定の地域に限られたること、米本國との距離遠大なること及本國より輸送に要する船腹拂底せること等に基くものである。而して補給勤務部は其の隸下に多數の製造工場・調辨機關及貯藏設備を有し、補給業務上恰も英國出征軍に對する英國本土の任務を演じた。即ち英國本土は同國出征軍に對する補給品の生産製造及貯藏の中樞をなせしが、米軍に於ては補給勤務部が出征地たる佛國の一定地方を劃して此の任務を遂行した。

佛・伊兩國にては、各其の國內領土を二大別し、一を軍地帯〔Zone des Armées〕、他を内地帯〔Zone de l'Intérieur〕と呼んだ。而して佛國に於ける此の兩地帯の境界は總司令官及陸軍大臣協議の上決したが、其の決定には境界線を明確にし且つ業務實施に便なる爲、縣及郡等の地理的境界に従ひ、尙各軍の情況及補給の状態を顧慮した。佛軍總司令官は輸送の伸縮を容易ならしむると同時に、軍隊行動の秘匿を期せしを以て、爲し得る限りは軍地帯内に主要なる軍隊移動の爲の戦線に併行した道路の一區域を包含せしむる如く之を劃定した。右佛軍の軍地帯なるものは更に之を二分し、一は戰術的顧慮を主眼として軍司令官に直屬せしめ、之を前進地帯〔Zone de l'Avant〕と稱し、他を軍司令官若は集團軍司令官に隸する兵站監〔Directeurs d'Etapes〕なる將官の統轄する兵站地帯〔Zone d'Etapes〕と呼んだ。而して曩に一

言した後方地帯は總司令官に直屬せしめたのである。因に佛軍は開戰當初より一九一七年一月迄、各軍地帯を軍司令官に直屬する前進地帯と、軍司令官に隸し軍團長の階級を有する將官の統轄する兵站地帯とに分ち、該將官を兵站及諸勤務監〔Directeur des Etapes et Services〕と稱した。爾後使用資材の數量及品種は益々増加し、各軍司令部の處理すべき之が補給及輸送に關する業務も益々増大せしを以て、總司令部は各軍に於ける該業務を軽減する爲、自ら其の一部を處理することとし、尋で集團軍編成せらるゝに至り、統帥及諸勤務上の任務分擔に關して變更を來した。是より先一九一七年一月各軍の兵站及諸勤務監部を廢し各軍司令部内に新に第四課を置き、後方に依然屬せしめたる補給・輸送・道路・標準軌道及一米軌道以外の道路を同課に管掌せしめ、主義として兵站及諸勤務に關する事項は總司令官の直轄として、爾後集團軍若は軍の下に其の兵站地帯を設け、同地帯より各軍の補給をなさしむることとし、之が長官として兵站監を置き、所管地域内部隊の統轄及現地資源の開發に任せしめた。

佛・伊兩軍は何れも地理的關係上、其の補給を調給地域より直接分配地域に送付し中間機關機を経由しなかつた。總て伊軍の補給制度は極めて佛軍の夫れに類似し、先づ關係各省は國內外の補給資源を蒐集し總經理部の要求に基き、之を各軍の中央倉庫〔Dépôt Central〕に送付した。而して伊軍にては補給上戰地帯〔Zona di Guerra〕を作戰地帯〔Zona d'Operazioni〕と後方地帯〔Zona delle Retrovie〕とに分ち、前者に於ける補給は軍司令官の命に依り軍經理部之に任じ、後者に於ける補給は直接總經理監部が之を掌つた。

第九章 補給品の中央調達機關

各國共軍需補給中央調達業務は、一般原則としては野戦軍の任務外に置き、以て野戦軍をして之が爲後方に對する顧慮を免かれしめ、専ら蒐集せられたる補給品を戰略戰術上最も有利に使用することに努めしめた。換言すれば補給上野戦軍の主眼とする所は、軍の成功を得る如く迅速に且つ適當に補給品を分配するに在つた。

出征英軍は出征地が本國よりの距離短少なかりしに拘らず、補給品中若干の調辨及製造は歐洲大陸で實施した。其の總司令部に於ける各勤務部長は本國陸軍省の關係局課長と容易に通信連絡を保持し得たるを以て、主義及方針に關する事項以外は此等局課長と部長との間の往復に依り其の所用を辨じ、歐洲大陸に於ける調辨業務も當初は各部長の處置に委ねてあつた。然るに需要の増大、資源の拂底等の爲、諸勤務部間若は聯合國間に競争を惹起せしを以て、總司令部補給部長は之が缺陷を補ふ爲、巴里に一中央調辨機關を設けることとなせしが、該機關の編成中に休戰條約の締結を見た。

米軍は本國より遠隔せる出征地に大軍を送りしのみならず、之が補給品輸送の船腹拂底し且つ敵潛航艇の脅威ありて、總ての所要軍需品を本國より追送するを得ず、其の五〇%以上は之を歐洲にて調達した。之が爲總司令官 Purching 將軍は其の隷下に歐洲に於ける一般軍需品調達部〔General Purchasing Agency〕なるものを設け、以て各勤務部の實施する調達の統一・監督及競買防止を期し、尙佛・白・英其の他聯合諸國軍との競争をも豫防せしむることとした。

該部の業務實施は佛國政府と常に連繫を保持するの要ありしが故に、其の本部は之を巴里に置いた。而して米軍所要の補給品は「一」歐洲に於ける調達品と「二」米本國より追送し得べきものとに大別し、歐洲に於て調達すべきものは一般軍需品調達部と細部の協定を経たる各勤務部長をして實行に當らしめ、一廉五千法以上の調辨は調達部の承認を経なければ之が實施を許さぬこととした。

佛國では當初、軍地帯全般に於ける調達權を總司令官に、各軍區に於ける夫れを軍司令官に與へ、其の他の國內及外國に於ける調達は之を陸軍大臣の統轄下に置いた。然るに軍需所要量の増大と其の品種の増加は調辨業務を益々多岐複雑ならしめ、其の結果新に特種の行政省を創設し若は陸軍大臣の權限を分任するの制を必要とするに至り、後者の爲には陸軍省内に航空・醫務・軍政等の各次官等〔Sous-Secrétariat de l'Aviation, du Service de santé, de l'Administration, etc.〕を設け、前者の内兵器彈藥の調辨及製造の統轄をなさしむる爲には、兵器及彈藥省を新設した。次で農務大臣の下に補給次官〔Sous-Secrétariat d'Etat du Ravitaillement〕を置き軍民兩者に對する糧食補給に關する業務を統轄せしめ、尙爾後所要に應じ特殊の性質を有する省を新設し、各性質に應じて之が調達を分擔せしめ、外國には特殊委員等を派して現地の調辨業務に服せしめた。

伊國の制度は佛國の夫れに類し、關係各省は直接各軍地帯に補給品を送り其の間何等中間機關を設けず、而して軍司令官は各軍地帯内に於ては現地資源を極力利用した。伊國に於ても佛國の如く當初陸軍大臣は總ての軍需品補給の責に任せしめ、後に至り品種に依り擔任の各省を設け、之が調達製造に任せしめた。即ち戰役中新設せし補給及消費省〔Ministero degli Approvvigionamenti e Consumi〕は軍民兩者に要する糧食及馬糧の補給に任じ、陸軍大臣は被服及衛生材料

の確保を期し、兵器及彈藥大臣は其の主管軍需品の補給に當りしが如き是れである。而して國內に於ける調達業務は大
臣會議之を統一し、外國に於ける夫れは國庫大臣主宰の下に關係各省代表者より成る各省專門委員會に〔Comité Technica
Interministeriale〕依りて實施せしめた。

白國の首都 Avers 陥落後、其軍隊は本國の一小部分を保有せしに過ぎずして、軍需品の調達は主として國外に於
てした。即ち各種補給品の調達は各勤務部長の要求に基き、兵器及技術勤務局〔Direction Générale de l'Armement et des
Services Techniques de l'Armée〕之に任じ、同局は調辨實行委員を倫敦・巴里及紐育に置いた。而して軍民兩者の糧食
及被服の需要急迫を告げしを以て、特に民需及軍需經理大臣〔Ministère de l'Intendance Civile et Militaire〕なるものを設
け其の調達に任せしめたが、其の後調達局〔Service des Achats〕を創設し各省所要の糧食及被服の調達に任せしめた。
以上を概観するに軍需調達制度の根本は、一面に於て各自國萬般の所用品の調辨及製造を統一するの必要ありしと
共に、他面に於て各國政府間の調辨上の競争を防止する爲國際的機關の創設を必要と認めた。

第十章 兵器及彈藥の補給

第一節 兵器々材の補給

英軍は總司令部補給部長〔Quartermaster General〕指示の下に器材部長〔Director of Ordnance Services〕之を主管した。
同部長は兵器・彈藥・裝具・被服及諸材料〔糧秣・燃料・衛生及獸醫材料以外の〕の整備・補給及分配、砲兵・工兵及
信號部隊の専門的所用品の整備並其の修理工場に關する事項を掌り、其の下に二人の副部長〔Deputies〕があつた。副
部長は何れも調辨及保管出納業務に服し、其の一人は北部、他の一人は南部の各兵站地區に勤務し、補給品を軍隊に
支給するには各軍の器材部長を経て之を實施した。器材部所管各種資材の整備に關し、總司令部器材部長は、本國陸
軍省補給局裝備課長〔Director of Equipment and Ordnance Stores, Quartermaster General's Department〕・砲工局〔Master
General of the Ordnance〕の砲兵課長〔Director of Artillery〕同局要塞及工事課長〔Director of Fortifications and Works〕
其の他の關係課長と連繫を保持して其の該業を行つた。元來英國の陸軍省に於ける局課の編制は總司令部に於ける各
部のれ夫と系統を同うしないから、器材部長は他の各部に屬せざる資材の整備に任じ、恰かも米軍の兵器部〔Ordnance
Department〕及經理部〔Quartermaster Department〕の合一せしものより軍用動物の調辨を除外したるものに似たる任務
を持つて居た。

米軍の兵器部〔Ordnance Department〕は火砲・小兵器・被服以外の或る種の個人裝具・馬具・砲兵用自動牽引車・戰
車・彈藥運搬自動貨車及騎兵用裝備品等の調辨・貯藏及分配を掌り、全軍に對する此等の調辨及貯藏の責は補給勤務部
兵器部長〔Chief Ordnance Officer of the Service of the Supplies〕之に任じ、分配の統一及其の順位の決定は總司令部參
謀部第四課之を掌つた。佛國に於ける兵器彈藥の製造に關する業務の統轄は兵器省〔Ministère de l'Armement et des
Fabrications de Guerre〕之に任じ、同省は其の主管軍需品を總豫備倉庫〔Entrepôts de Réserve Générale〕に送付し、同倉
庫は全然之を總司令官に委ね、同司令官の下に在る後方部砲兵課〔Direction de l'Arrière—Section Artillerie〕が其の主管
の任に當つた。

伊軍に於ける兵器及彈藥の補給は砲兵勤務部の擔任で、同勤務部は其他軍用動物及馬具の補給をも主管し、他の勤務部と共に總經理部に隸した。總經理部の兵器及彈藥に關する任務は兵器及彈藥省〔Ministero Armi e Munizioni〕より受領し、之を軍地帯に於て分配するにあつた、而して兵器及彈藥省は所要原料の調辨・製造及製品を各軍地帯所在の中央倉庫に送付するの任に當つた。

白國軍に於ける兵器及彈藥の補給は兵器及技術勤務局之を管掌し、同局は所要原料を調辨して之を Le Havre 所在の製造工場に送付し、同工場に於ける製品は更に野戰本廠〔Grand Parc de Campagne〕に送付した、該野戰本廠は總司令官を隸下に在つて、總司令部參謀部第三及第四課長の指示の下に置き、尙同廠は彈藥補給の爲移動倉庫として鐵道貨車を使用した。

第二節 彈藥の補給

彈藥の補給は他の軍需品の如く軍作戦地域内にて調節することなく、其の規整は後方で之を實施した。

英軍の彈藥補給業務は、陸軍省補給局長の下にある同局裝備課長の指示に基き實施せられ、本國製造工場より之を在佛國の根據地に追送し、同地に揚陸したるものは、總司令部器材部長統轄の下に之を根據地・中間及前進各倉庫に集積し、又一部を直接各兵站管區の器材部長の管掌下に置いた。而して此等集積せる彈藥を各軍に分配する爲には、以上各倉庫から彈藥専用鐵道端末地〔樞樑用と異なり〕に前送した。其の日々の前送は各軍の要求を總司令部補給部長に提出し、同部長は器材部長をして其の實施に任せしめたのである。鐵道端末地より前方の輸送方法は必ずしも一定せ

ず軍團彈藥廠に交付し、又砲兵指揮官統轄の下に砲兵段列に支給し、或は又軍器材部長統轄の下に軍彈藥廠に送付し、所要に應じて砲兵部隊に交付した。

米國軍の彈藥補給制度は概ね後述佛軍の夫れに似たるも、其の保管貯藏の方法等は寧ろ英軍に類して居た。即ち米本國の戰時産業院〔War Industries Board〕は工業及原料等の動員を管轄し、其の方針及指示に基き陸軍省兵器局長〔Chief of Ordnance〕は直接本國に於ける彈藥の製造・貯藏・検査及該資源の開発に任じ、又出征軍兵器部長〔Chief Ordnance Officer, American Expeditionary Forces〕は總司令官の指示に基き補給勤務部に於ける彈藥の調達・貯藏・検査及取扱の責に任じた。而して各軍に對する彈藥支給の統制は總司令部參謀部第四課之に任じ、貯藏品の大部は補給勤務部所管の根據地・中間及前進各倉庫に集積し、日常の所要及大攻撃作戦初期の所要は之を各軍に支給した、又各軍地帯にては、軍・軍團及師團の彈藥集積場及彈藥縱列を軍司令官管轄の下に置き、軍兵器部は彈藥の貯藏・技術的検査及取扱に關する事項を掌つた。軍以下の彈藥支給上の統制は關係各軍參謀部第四課之に任せしが、各地域に於ける部隊の消費豫定數に基き、軍地帯内の各倉庫及關係補給勤務部倉庫の集積數を定むる爲には、關係各軍參謀部第四課より消費見込彈藥數を總司令部參謀部第四課に要求し、同課は第三作戰課と協議し各軍に對する交付彈藥數を決定し、補給勤務部所管前進倉庫より之を受領し得ることとした。此の内補給勤務部所管倉庫より前送するものは、輸送勤務に屬する規整係將校に之を交付し、同將校が更に適當なる鐵道端末に送付し、同端末より自動車にて會合地點〔Meeting Place〕に到り、同地點にて彈藥縱列に交付し、同縱列は之を軍隊に交付するか若は豫備として之を保管した。以上の如き補給を確實にする爲、總司令部兵器部長は軍隊に交付の結果、空虛となりし前進倉庫の補充を中間若は根據地倉庫